<参考資料>

Ⅰ　人口と産業の動向

1　近年の人口の動きと人口フレーム

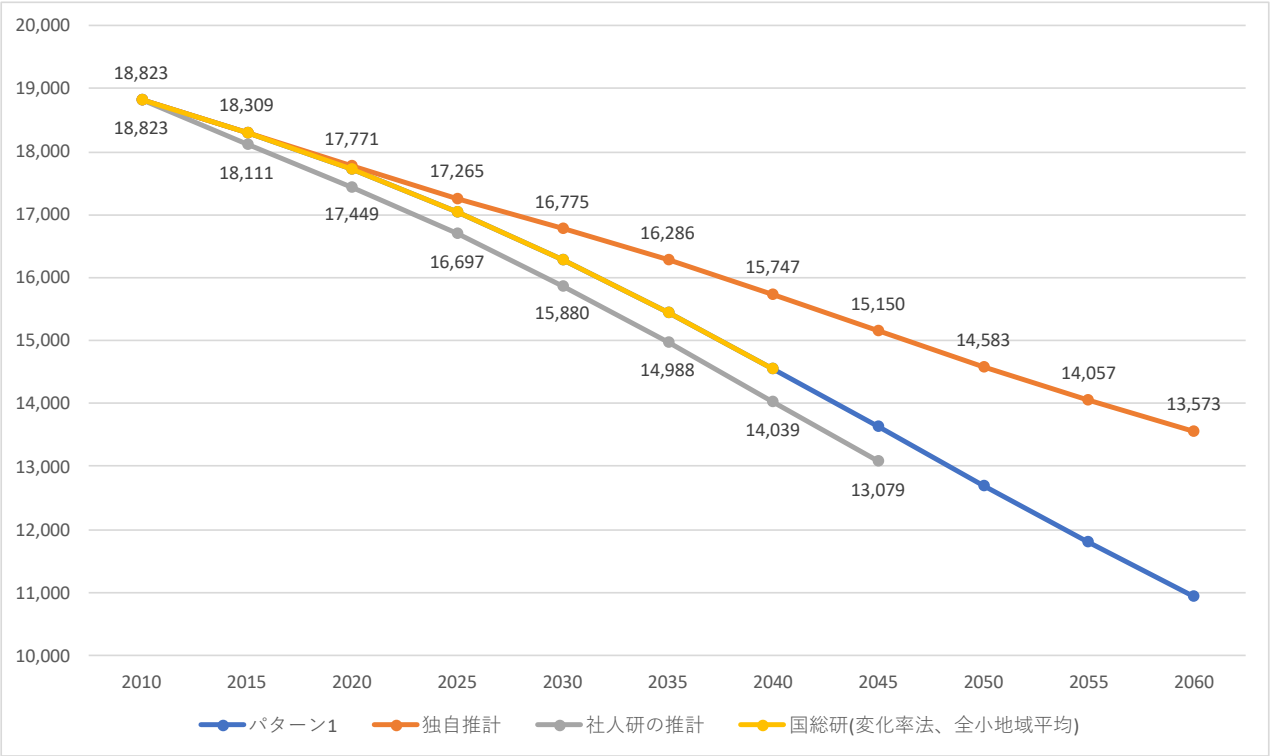
（1）国等の人口推計と御嵩町人口ビジョン

○国等による人口推計としては、2018 年（平成 30 年）に「国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)」が全国市町村の将来人口推計を公表しています。また、「国土交通省国土技術政策総合研究所(以下、国総研)」も、2015 年（平成 27 年）の国勢調査を踏まえた各種人口推計を行えるようにしています。

○これらの新しい推計を御嵩町人口ビジョンの人口フレームと比較すると、国総研の人口フレームは、概ね人口ビジョンのパターン 1 と同様ですが、社人研の推計は、パターン 1 よりかなり低い値となっています。

図表 1-1-1　人口フレームの比較（人）

	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン1	18,823	18,309	17,727	17,052	16,288	15,454	14,563	13,630	12,711	11,815	10,944
独自推計	18,823	18,309	17,771	17,265	16,775	16,286	15,747	15,150	14,583	14,057	13,573
社人研の推計	18,823	18,111	17,449	16,697	15,880	14,988	14,039	13,079			
国総研(変化率法、全小地域平均)	18,823	18,312	17,728	17,050	16,288	15,457	14,562				



（２）近年の人口の動きと推計

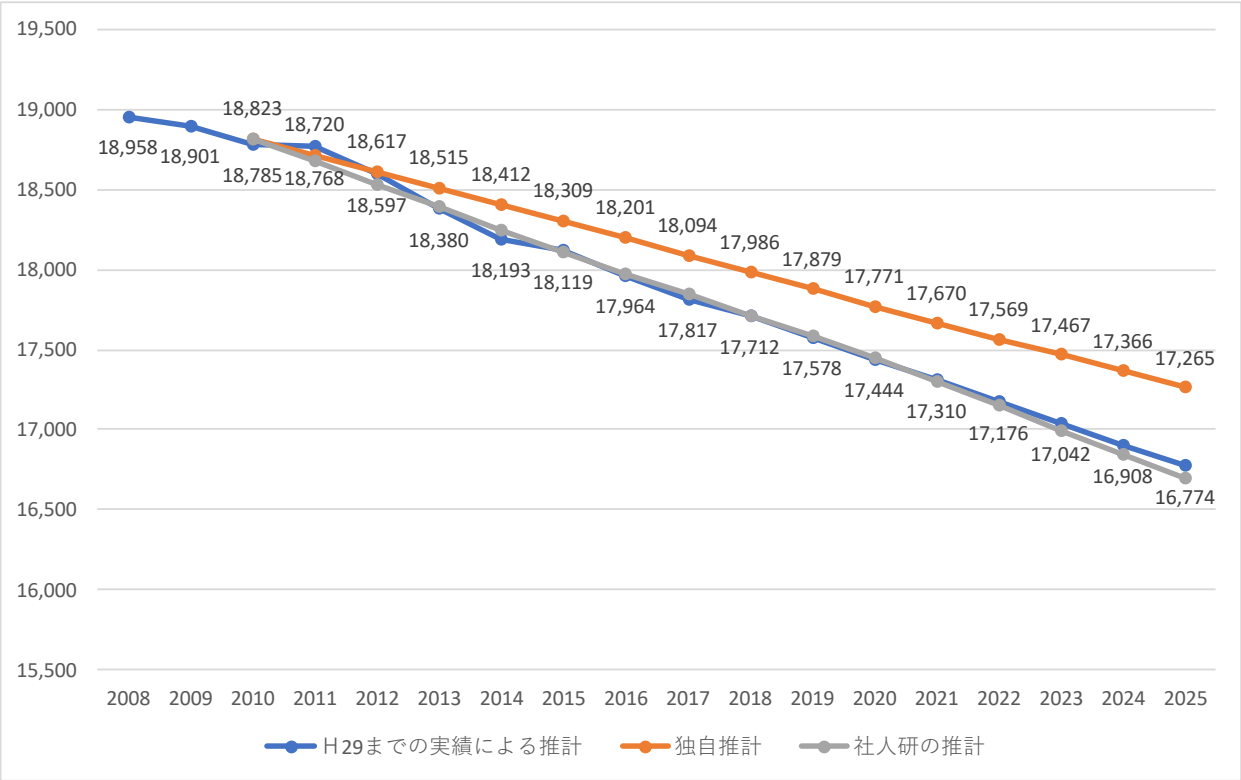
○2008 年(平成 20 年)から 2017 年(平成 29 年)の御嵩町の住民基本台帳人口に基づいて 2020 年（平成 32 年）、2025 年（平成 37 年）の人口を回帰分析・一次式で求めたものを、人口推計の最も高位である独自推計と最も低位である社人研の推計と比較すると以下の通りとなります。

○現状の人口推移は、社人研による低位の推計値に非常に近い動きをしています。

図表 1-1-2　近年の人口動向と推計（人）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
H29までの実績	18,958	18,901	18,785	18,768	18,597	18,380	18,193	18,119	17,964	17,817
独自推計			18,823	18,720	18,617	18,515	18,412	18,309	18,201	18,094
社人研の推計			18,823	18,681	18,538	18,396	18,253	18,111	17,979	17,846

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
H29までの実績による推計	17,712	17,578	17,444	17,310	17,176	17,042	16,908	16,774
独自推計	17,986	17,879	17,771	17,670	17,569	17,467	17,366	17,265
社人研の推計	17,714	17,581	17,449	17,299	17,148	16,998	16,847	16,697



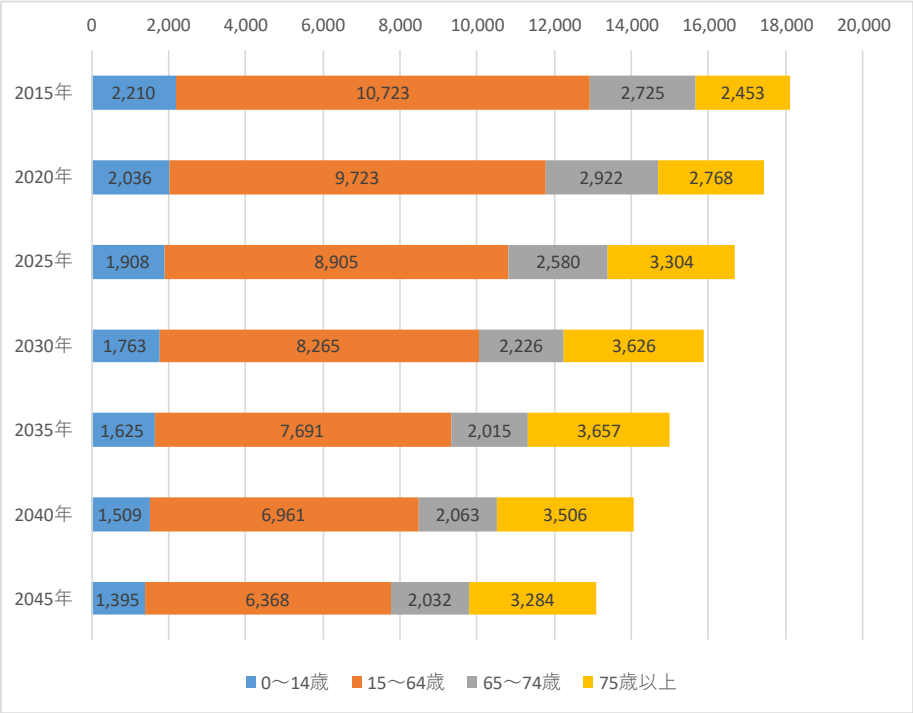
（３）年齢別人口の動き

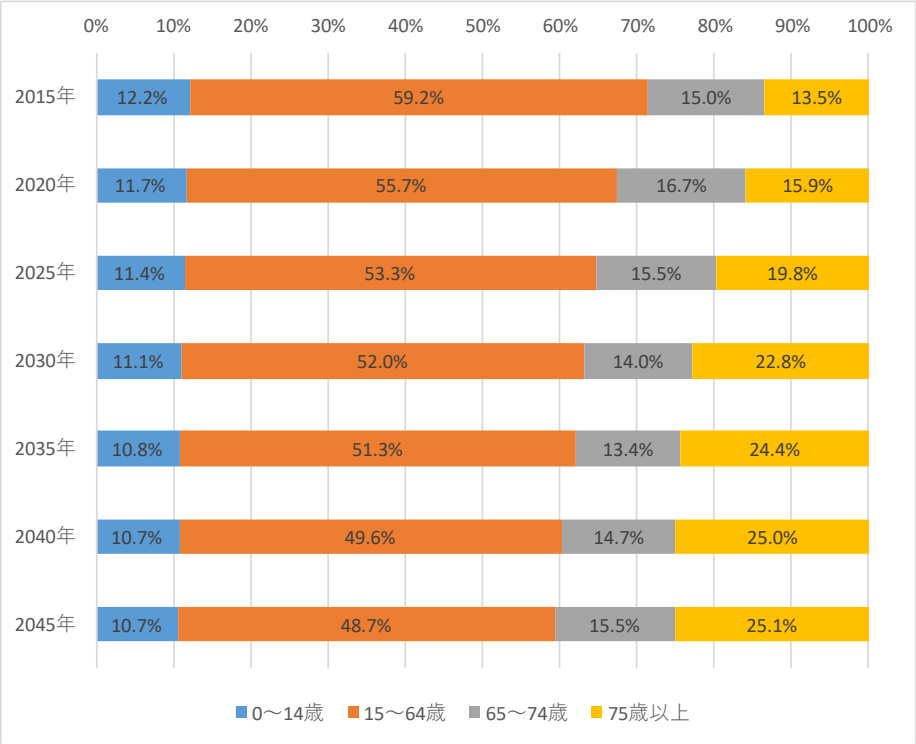
○社人研の推計における年齢別人口構成は以下のとおりに算出されており、年少人口と生産年齢人口は減少を続け、特に生産年齢人口の減少が顕著となる見込みです。

○高齢者人口は 2025 年まで増加した後に減少に向かいますが、年少人口と生産年齢人口の減少が大きいため、割合は継続して増加していきます。

○高齢者人口の中でも 75 歳以上の後期高齢者人口は 2035 年まで増加を続ける見込みです。後期高齢者層では介助・介護率も前期高齢者に比べかなり高くなるため、この対策が重要となります。

図表 1-1-3　年齢別人口（人）・比率の推移と推計

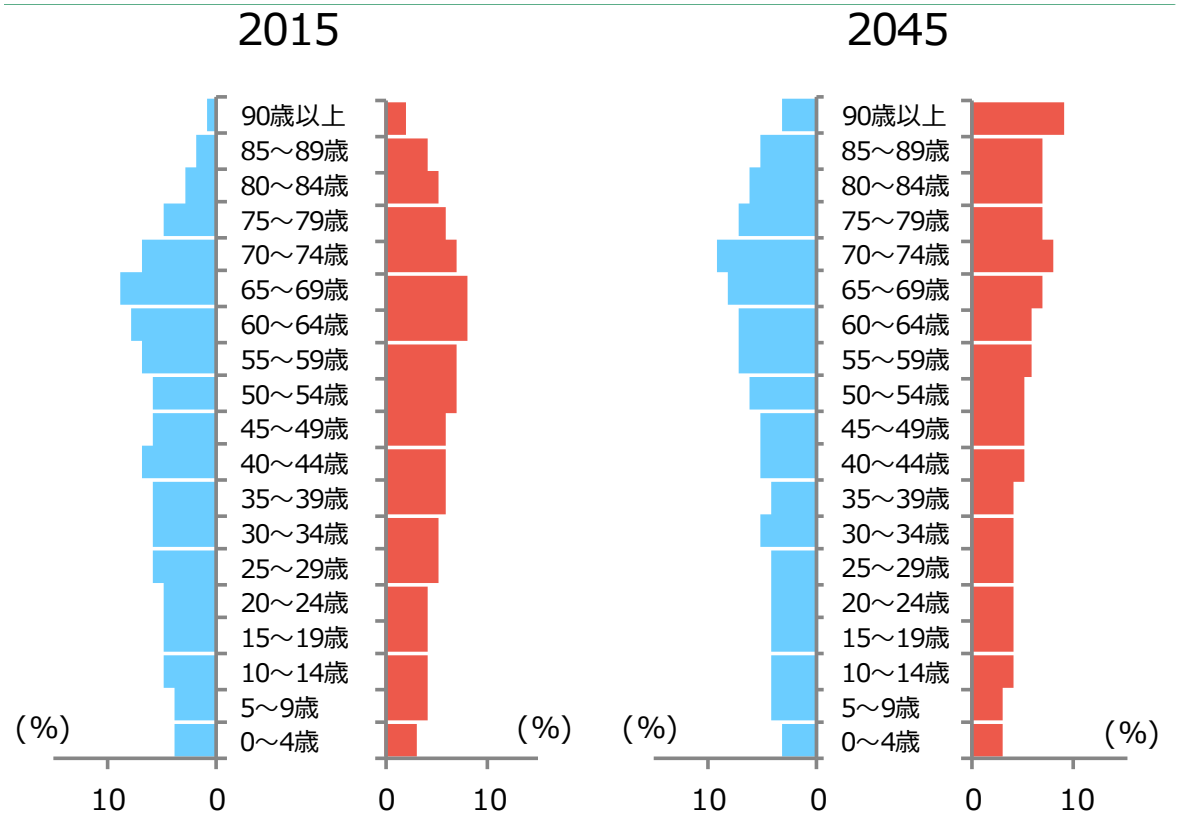




○国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき、2015 年と 2045 年の人口ピラミッドを比較すると、男女ともに年少人口及び生産年齢人口が減少し、高齢人口が大きく増加することが分かります。

○高齢者人口の中でも、90 歳以上の女性の割合が極めて多くなるなど後期高齢者の人口増加が大きく、介護等の問題が現在以上に深刻になることが予測されます。

図表 1-1-4　５歳階級別人口の推計による総人口に対する割合



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

2　人口増減要因の整理

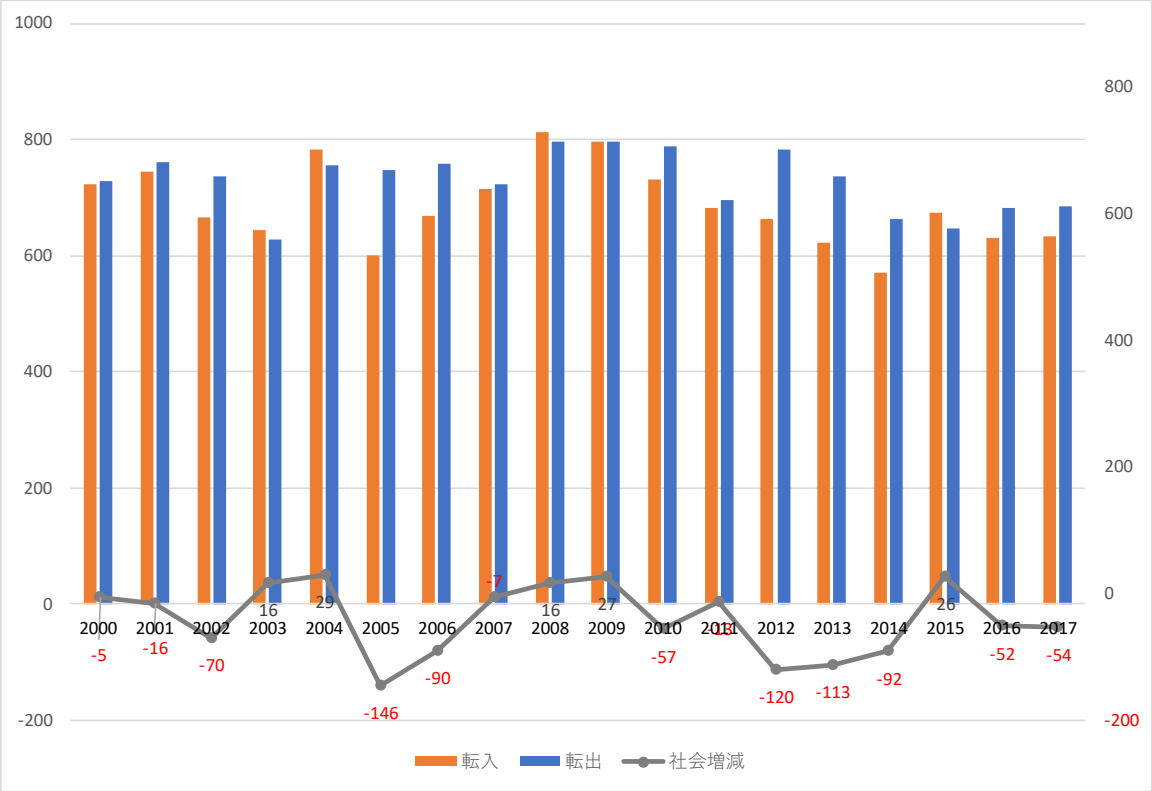
（1）社会増減の状況

①転出入数

○2000 年(平成 12 年)以降の、御嵩町の社会増減を見ると、転入、転出ともに 600～800 人／年の状況であり、18 年間で社会増の年が 5 年、社会減の年が 13 年であり、18 年間で 721 人の社会減でした。

図表 1-2-1 社会増減の推移（人）

	転入	転出	社会増減
2000	724	729	-5
2001	746	762	-16
2002	667	737	-70
2003	643	627	16
2004	784	755	29
2005	601	747	-146
2006	669	759	-90
2007	715	722	-7
2008	812	796	16
2009	796	796	27
2010	732	789	-57
2011	683	696	-13
2012	663	783	-120
2013	623	736	-113
2014	570	662	-92
2015	673	647	26
2016	631	683	-52
2017	632	686	-54
通算	12,364	13,112	-721



料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

②転出入先

○転入元は、5 年合計で、岐阜県が約 61%、愛知県が約 20%、その他の県が約 20%となっています。市町村ベースでは、可児市が全数の約 27%と非常に高く、次いで多治見市、美濃加茂市、名古屋市が６%前後で続いています。

○転出先は、岐阜県内が約 57%、愛知県が約 23%、その他の県が約 20%となっており、転入元より愛知県の割合が高くなっています。可児市が全数の約 25%と非常に高く、次いで名古屋市が約 8%、多治見市、美濃加茂市が６%前後であり、構造的には転入元とほぼ同様となっています。

図表 1-2-2 転出入先（人）

転入元	2014	2015	2016	2017	2018	5年合計	占有率
総数	487	564	498	482	635	2,666	100.0%
21 岐阜県	311	310	317	313	385	1,636	61.4%
201 岐阜市	19	11	12	20	29	91	3.4%
204 多治見市	33	33	33	20	34	153	5.7%
208 瑞浪市	13	14		10		37	1.4%
211 美濃加茂市	29	25	39	30	39	162	6.1%
212 土岐市	27	13	19	23	11	93	3.5%
214 可児市	127	140	138	139	175	719	27.0%
505 八百津町		14			10	24	0.9%
501 坂祝町			10			10	0.4%
503 川辺町			15			15	0.6%
206 中津川市					10	10	0.4%
209 羽島市					14	14	0.5%
その他の市町村	63	60	51	71	63	308	11.6%
23 愛知県	89	126	89	98	126	528	19.8%
100 名古屋市	26	46	21	22	38	153	5.7%
206 春日井市		10			18	28	1.1%
219 小牧市		11		13		24	0.9%
その他の市町村	63	59	68	63	70	323	12.1%
24 三重県	12				15	27	1.0%
12 千葉県		10	12			22	0.8%
13 東京都		15	15			30	1.1%
100 東京都特別区部		10				10	0.4%
その他の市町村		5				5	0.2%
14 神奈川県		13				13	0.5%
40 福岡県	11					11	0.4%
27 大阪府		14				14	0.5%
47 沖縄県		10				10	0.4%
22 静岡県			10	18		28	1.1%
11 埼玉県				10		10	0.4%
16 富山県				10		10	0.4%
その他の県	64	66	55	71	71	327	12.3%

転出先	2014	2015	2016	2017	2018	5年合計	占有率
総数	499	611	592	593	594	2,889	100.0%
21 岐阜県	298	355	334	317	350	1,654	57.3%
201 岐阜市	17	12		19	10	58	2.0%
204 多治見市	32	39	29	26	31	157	5.4%
208 瑞浪市		13				13	0.4%
211 美濃加茂市	33	27	44	45	37	186	6.4%
212 土岐市	14	22	16	24	16	92	3.2%
214 可児市	126	170	141	120	154	711	24.6%
505 八百津町	12		14	15		41	1.4%
503 川辺町	10					10	0.3%
213 各務原市	18	13	12	10	25	78	2.7%
205 関市		11				11	0.4%
その他の市町村	36	48	78	58	77	297	10.3%
23 愛知県	110	148	125	156	127	666	23.1%
100 名古屋市	39	46	41	64	43	233	8.1%
206 春日井市	12		11	15		38	1.3%
219 小牧市			11			11	0.4%
215 犬山市		13		10		23	0.8%
その他の市町村	59	89	62	67	84	361	12.5%
24 三重県			15	11		26	0.9%
13 東京都	14	20	16	23	16	89	3.1%
100 東京都特別区部	10	13	13	15		51	1.8%
その他の市町村	4	7	3	8		22	0.8%
14 神奈川県		15	14			29	1.0%
22 静岡県	11					11	0.4%
その他の県	66	73	88	86	101	414	14.3%

資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）　注：空欄は公表数値な

③転出入の理由

○2017 年（平成 29 年）の転出、転入理由は以下の通りであり、「職業上の理由」が転出入ともに約 30%と多く、次いで「住宅事情」、「結婚等」が多くなっています。

○転出では「結婚等」、「生活環境の利便性」を理由とするものが転入より多いのに対し、転入では「住宅事情」を理由とするものが転入より多いという特徴があります。

図表 1-2-3　転出入の理由（人）

区分	転入者数	転入理由								
		職業上	学業上	結婚・離婚・縁組	生活環境の利便性	自然環境上	交通の利便性	住宅事情	その他	不詳
転入	633	184	13	91	32	-	4	141	30	138
	100.0%	29.1%	2.1%	14.4%	5.1%	0.0%	0.6%	22.3%	4.7%	21.8%
転出	670	187	27	143	59	1	6	104	42	101
	100.0%	27.9%	4.0%	21.3%	8.8%	0.1%	0.9%	15.5%	6.3%	15.1%

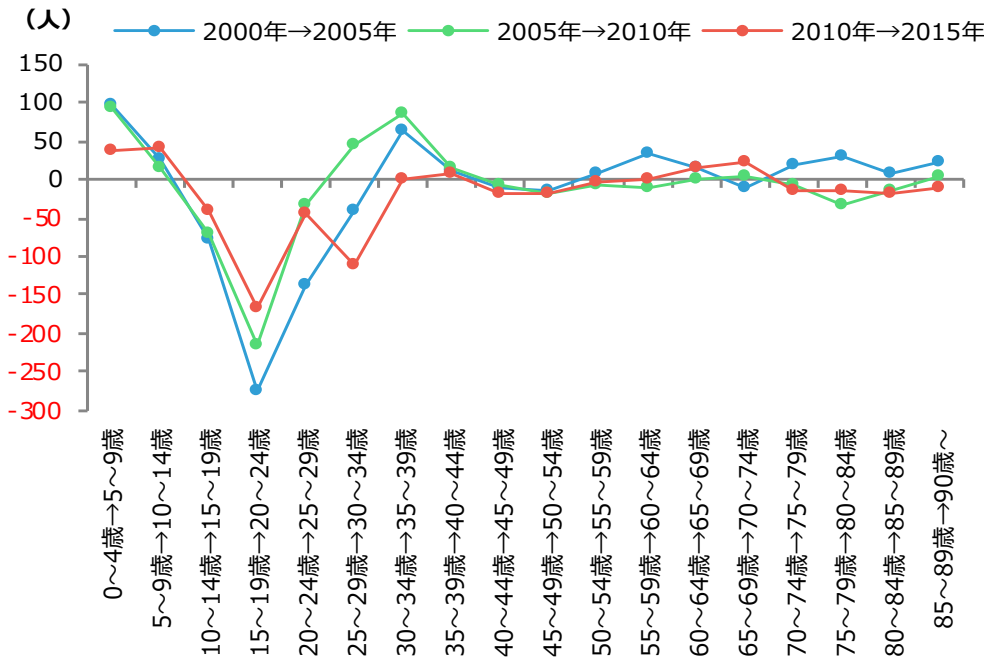
資料：岐阜県人口動態統計調査

④年齢階級別純移動数の推移

○年齢階級別純移動数をみると、若い世代は 20 歳前後をピークとして 2000 年～2015 年まで継続的に流出超過となっています。

○30～40 歳前後では 2010 年までは流入超過傾向でしたが、2010 年以降は流出超過の傾向がみられます。

図表 1-2-4　５歳階級別人口移動数



資料：国勢調査、地域経済分析システム（リーサス）経済産業省

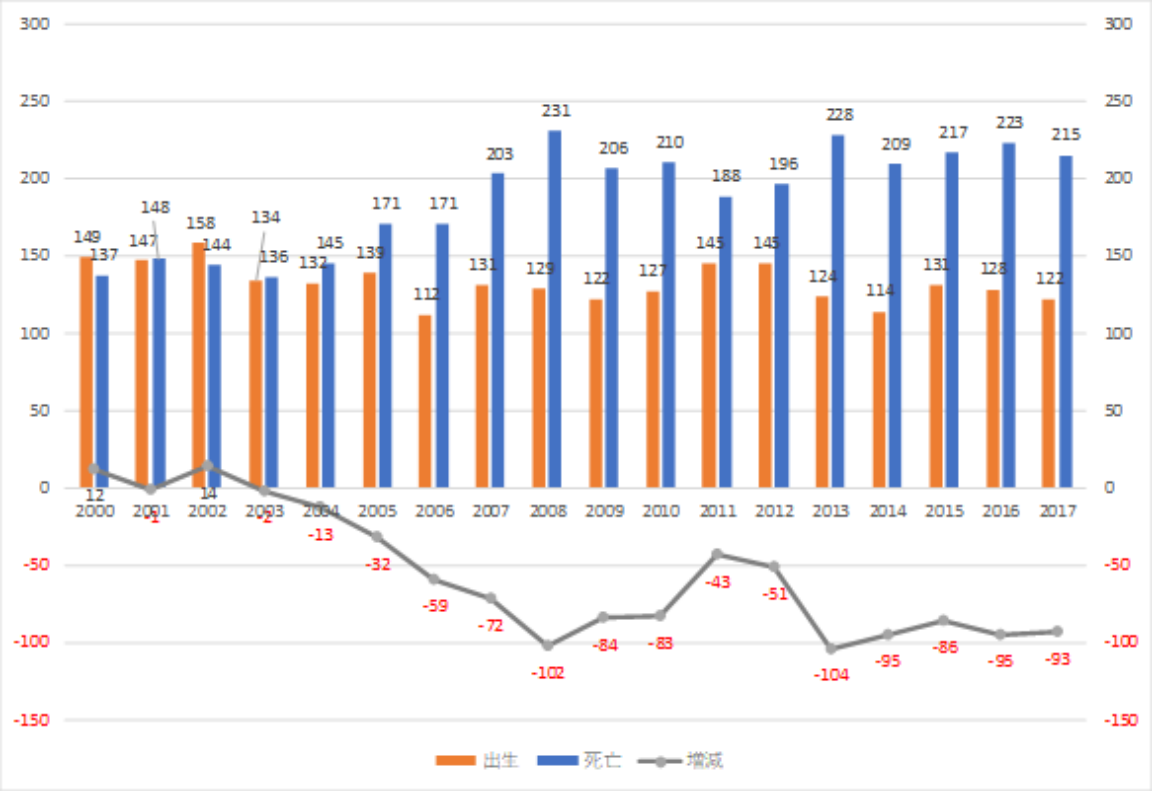
※5 歳階級別人口移動の算出方法
H22～H27 における 5～9 歳の人口移動を算出する場合、H22 時点で 0～4 歳だった人口に生残率を乗じた後、H27 時点における 5～9 歳の人口を差し引くことで算出します。これにより、H22 時点で 0～4 歳だった人口が、5 年後にどれだけ増減したかを確認できます。

（２）自然増減の状況

○2000 年以降は、出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にあり、2003 年に自然減に転じて以降、減少状態が続いていますが、減少数は 2008 年以降大きく変わっていません。

図表 1-2-5　自然増減の推移（人）

	出生	死亡	増減
2000	149	137	12
2001	147	148	−1
2002	158	144	14
2003	134	136	−2
2004	132	145	−13
2005	139	171	−32
2006	112	171	−59
2007	131	203	−72
2008	129	231	−102
2009	122	206	−84
2010	127	210	−83
2011	145	188	−43
2012	145	196	−51
2013	124	228	−104
2014	114	209	−95
2015	131	217	−86
2016	128	223	−95
2017	122	215	−93
通算	2, 389	3, 378	−989



資料：住民基本台帳（御嵩町）

（３）産業別就業者数の推移

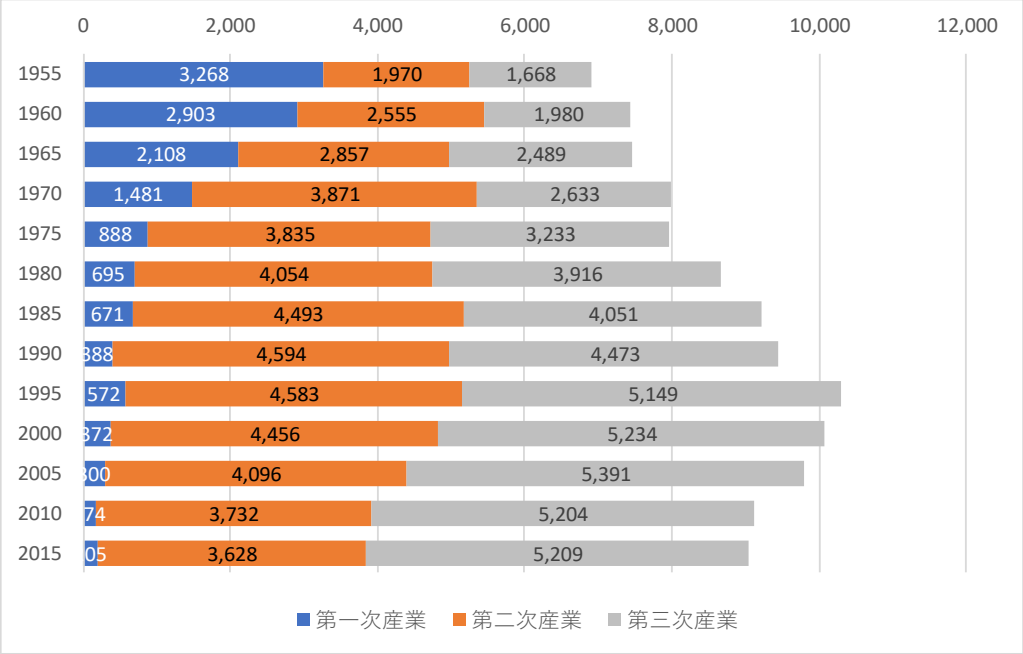
○1955 年(昭和 30 年)には最も数が多かった第一次産業就業者は 1980 年(昭和 55 年)にかけて急速に減少し、2015 年(平成 27 年)には 205 人と非常に少数になっています。

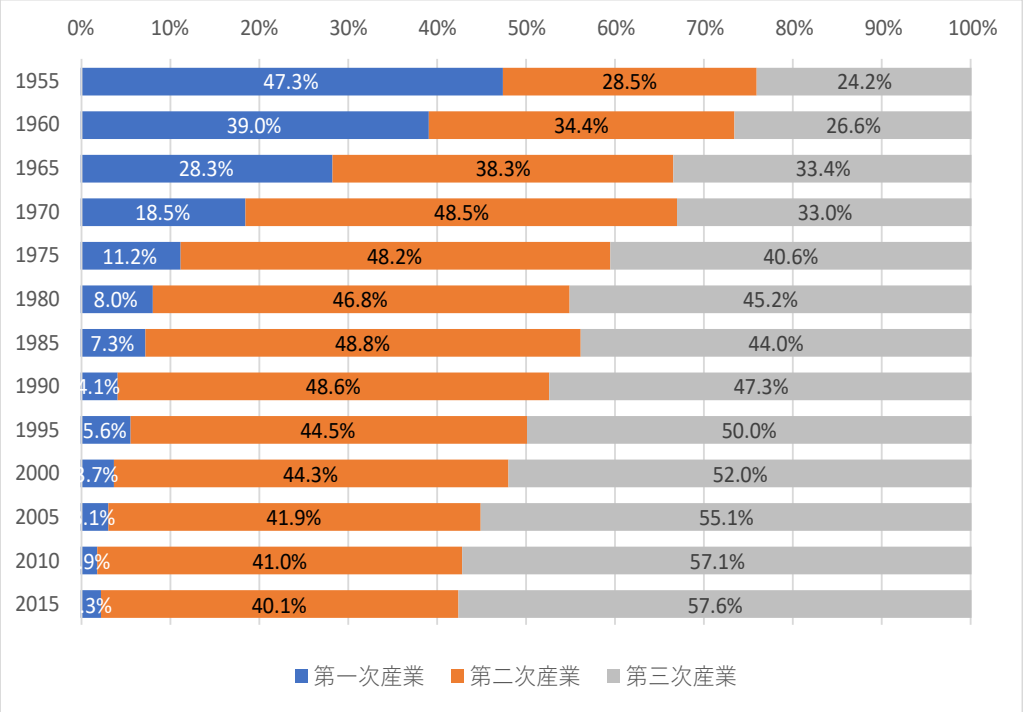
○第二次産業は、1955 年(昭和 30 年)以降増加し、1985 年(昭和 60 年)には 4,594 人にまで増加しましたが、その後減少を続けています。

○第三次産業は、1955 年(昭和 30 年)以降増加し、2005 年(平成 17 年)には 5,391 人にまで増加しましたが、その後わずかに減少する傾向にあります。

○1995 年(平成 7 年)に第二次産業就業者数より第三次産業就業者数が多くなり、第三次産業就業者の割合が 50%を超え、その後も比率は上昇しています。

図表 1-2-6 産業別就業者数（人）・比率の推移





資料：国勢調査

（４）通勤通学流動

①昼夜間人口

○御嵩町の昼夜間人口比率(昼間人口/夜間人口)は、2015 年（平成 27 年）に 92.7%であり、周辺市町と比べて中間的な位置にあり、可児市、土岐市、瑞浪市、八百津町と概ね並んでいます。

図表 1-2-7 昼夜間人口（2015 年）

	夜間人口（人）	昼間人口（人）	昼間/夜間
御嵩町	18,111	16,794	92.7%
可児市	98,695	91,820	93.0%
美濃加茂市	55,384	54,682	98.7%
多治見市	110,441	97,949	88.7%
土岐市	57,827	54,434	94.1%
瑞浪市	38,730	35,681	92.1%
八百津町	11,027	10,257	93.0%
川辺町	10,197	8,501	83.4%

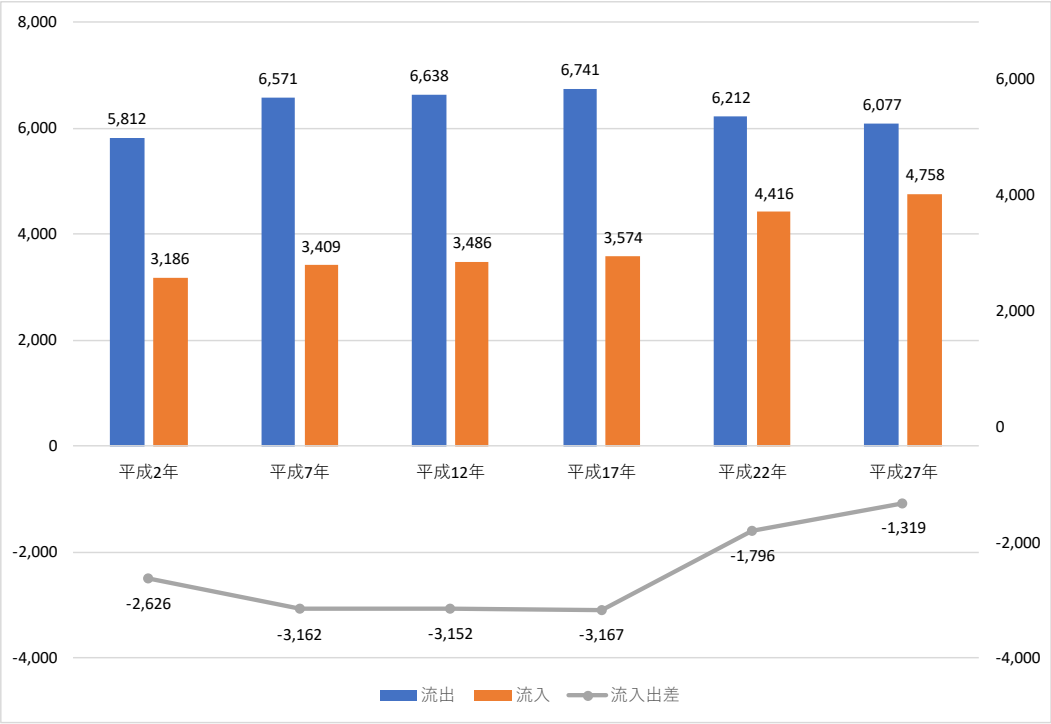
資料：国勢調査

②通勤・通学流動

○1990 年(平成 2 年)以降の通勤・通学流動は、一貫して流出超過となっています。

○1995 年(平成 7 年)から 2005 年(平成 17 年)にかけては 3,000 人以上の流出超過となっていましたが、2005 年から 2015 年にかけて流出が減り流入が増えて、流出超過数が減少しています。

図表 1-2-8 通勤通学流動（人）



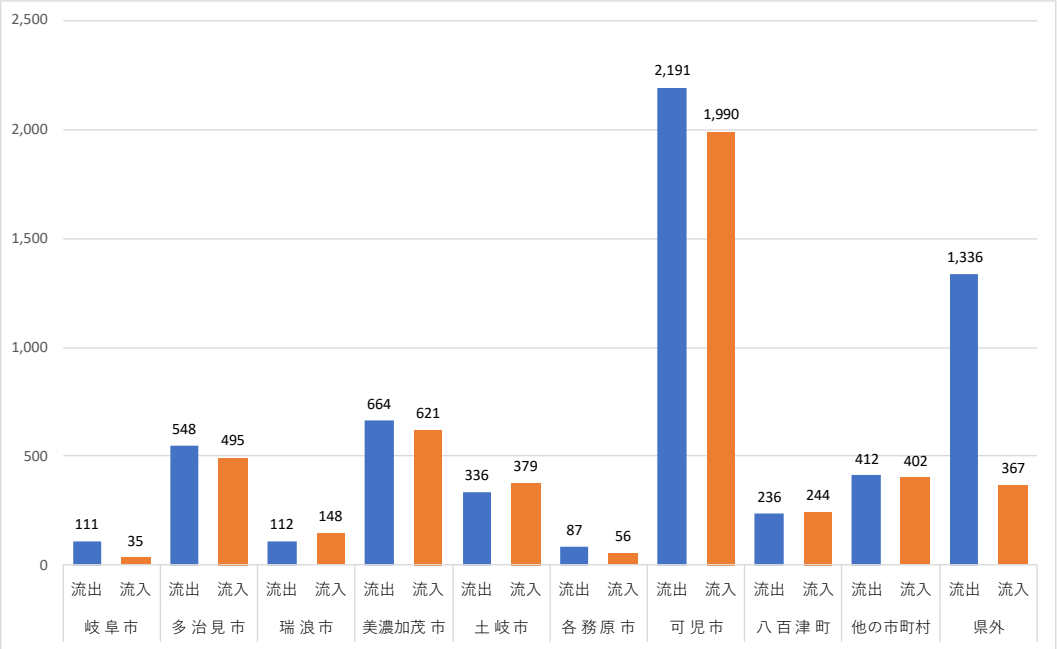
資料：国勢調査

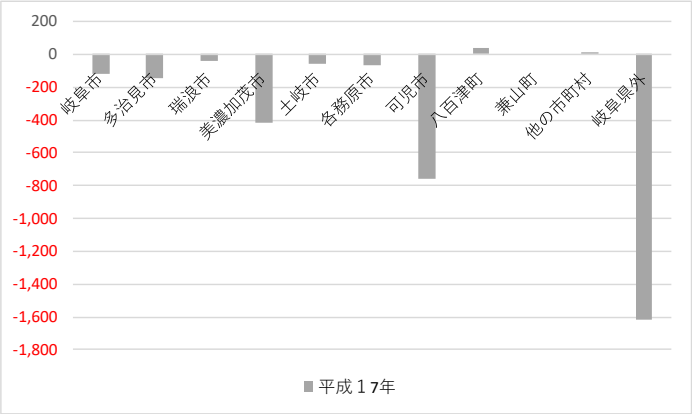
③主な流出入先

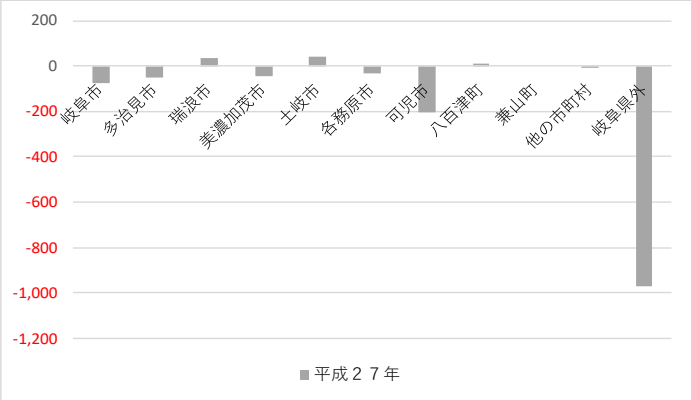
○主な流出入先は、可児市、多治見市、美濃加茂市、県外(名古屋市、春日井市、犬山市、小牧市です。県外に関しては大きく流出超過であり、周辺市町に対しても土岐市、瑞浪市、八百津町を除き流出超過です。

○平成 17 年と 27 年の流出入状況を比較すると、全体的に市町村間の流出超過数が減少してきていることが分かります。

図表 1-2-9 主な流出先（上：平成 27 年、中・下：平成 17 年と 27 年の流入出差。人）





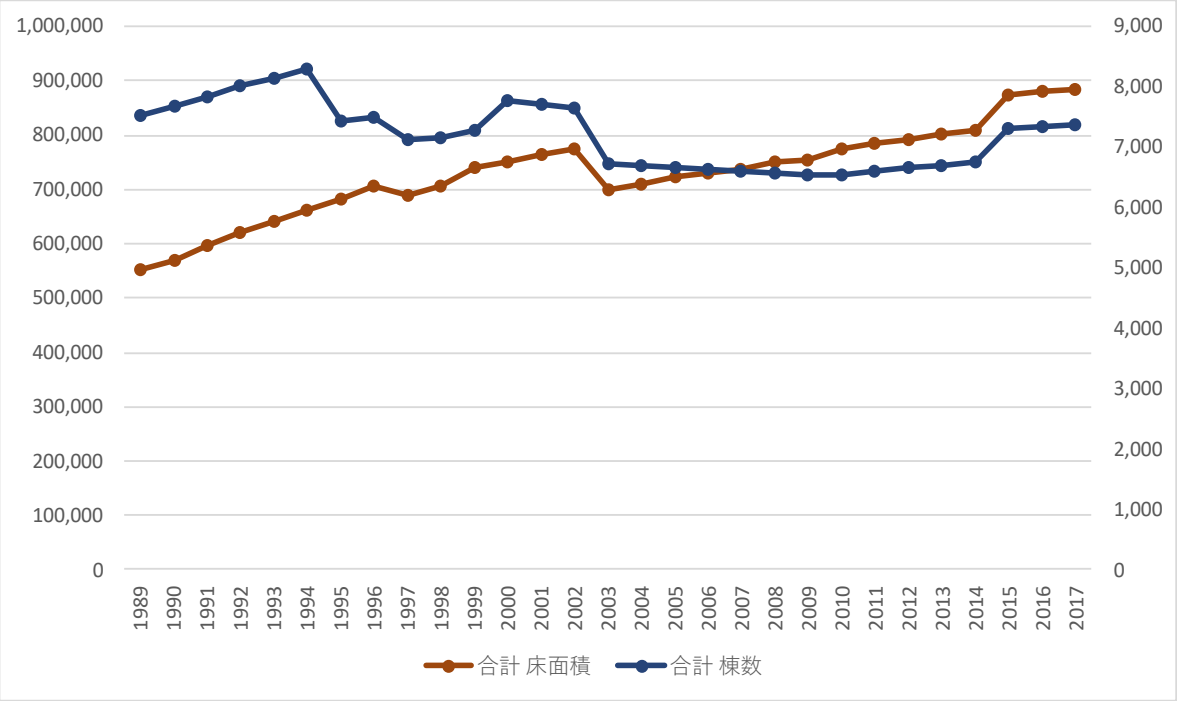


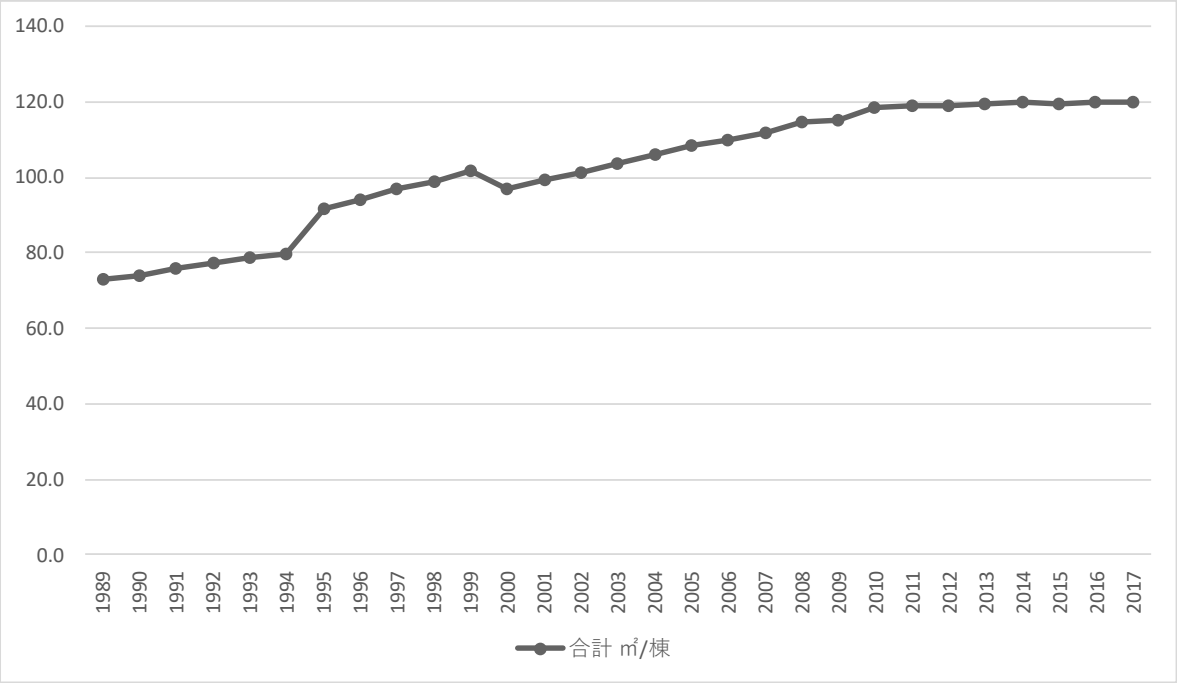
（５）住宅数

○住宅棟数は、1994 年に 8,283 棟でピークを迎えたのち、2010 年まで減少しましたが、その後再び増加に転じています。合計床面積については、2003 年以降増加傾向です。

○棟数が減少傾向で、床面積は増加傾向であるため、1 棟当たりの面積は増加を続けており、1989 年に 73.2 ㎡/棟であったものが、2017 年には 120.0 ㎡/棟と大きく増加しています。

図 2-10　住宅棟数・床面積（棟・㎡、上図）・１棟当たり床面積の推移（下図）





資料：税務課・概要調書

○木造住宅は 6,393 棟、非木造住宅は 974 棟で、木造住宅は約 87％を占めています（2017 年）。

○１棟当たりの床面積は木造が 115.2 ㎡/棟、非木造が 151.4 ㎡/棟（2017 年）と、増加してきています。

図 2-11　構造別の住宅棟数・床面積（棟・㎡）・１棟当たり床面積の推移

	木造住宅			非木造住宅			合計		
	棟数	床面積	㎡/棟	棟数	床面積	㎡/棟	棟数	床面積	㎡/棟
1989	6,715	493,045	73.4	824	58,799	71.4	7,539	551,844	73.2
1990	6,820	506,866	74.3	847	61,689	72.8	7,667	568,555	74.2
1991	6,975	528,461	75.8	875	67,149	76.7	7,850	595,610	75.9
1992	7,094	544,538	76.8	922	76,488	83.0	8,016	621,026	77.5
1993	7,217	562,133	77.9	932	79,526	85.3	8,149	641,659	78.7
1994	7,322	576,418	78.7	961	84,586	88.0	8,283	661,004	79.8
1995	6,521	592,065	90.8	914	90,387	98.9	7,435	682,452	91.8
1996	6,545	606,385	92.6	937	99,290	106.0	7,482	705,675	94.3
1997	6,173	585,330	94.8	945	105,434	111.6	7,118	690,764	97.0
1998	6,216	599,292	96.4	945	108,642	115.0	7,161	707,934	98.9
1999	6,308	624,679	99.0	963	116,348	120.8	7,271	741,027	101.9
2000	6,746	634,075	94.0	1,013	118,120	116.6	7,759	752,195	96.9
2001	6,703	644,337	96.1	1,005	121,019	120.4	7,708	765,356	99.3
2002	6,646	652,371	98.2	1,000	122,283	122.3	7,646	774,654	101.3
2003	5,759	573,199	99.5	977	125,250	128.2	6,736	698,449	103.7
2004	5,724	582,345	101.7	973	128,244	131.8	6,697	710,589	106.1
2005	5,702	593,277	104.0	967	129,847	134.3	6,669	723,124	108.4
2006	5,672	599,466	105.7	959	130,143	135.7	6,631	729,609	110.0
2007	5,643	606,107	107.4	952	130,713	137.3	6,595	736,820	111.7
2008	5,605	618,168	110.3	953	133,640	140.2	6,558	751,808	114.6
2009	5,580	618,212	110.8	950	135,304	142.4	6,530	753,516	115.4
2010	5,605	639,427	114.1	950	136,102	143.3	6,555	775,529	118.3
2011	5,650	647,566	114.6	945	135,992	143.9	6,595	783,558	118.8
2012	5,706	655,673	114.9	953	136,884	143.6	6,659	792,557	119.0
2013	5,737	660,810	115.2	952	139,631	146.7	6,689	800,441	119.7
2014	5,783	668,498	115.6	959	140,593	146.6	6,742	809,091	120.0
2015	6,357	727,976	114.5	964	146,088	151.5	7,321	874,064	119.4
2016	6,374	732,565	114.9	970	146,895	151.4	7,344	879,460	119.8
2017	6,393	736,594	115.2	974	147,445	151.4	7,367	884,039	120.0

資料：税務課・概要調書

3　産業の状況

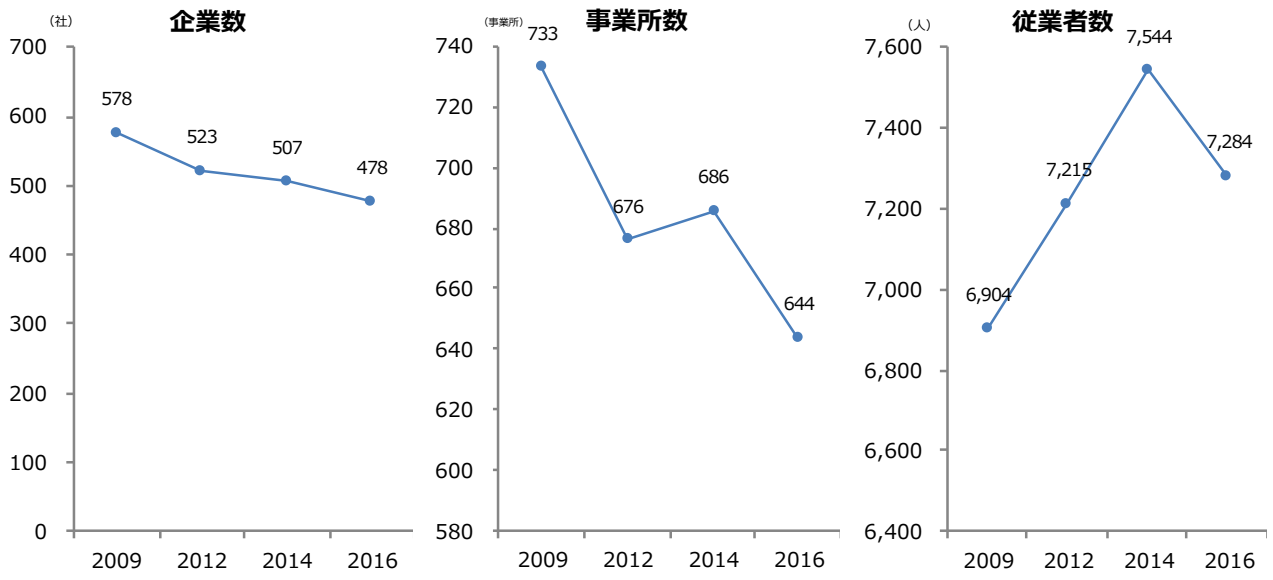
（1）事業所数の推移

①企業数・事業所数、従業者数

○企業数、事業所数は減少傾向にありますが、従業者数は 2014 年にかけて増加した後減少に転じています。

○企業、事業所当たりの従業員数は増加傾向にあります。

図表 1-3-1　事業所の推移



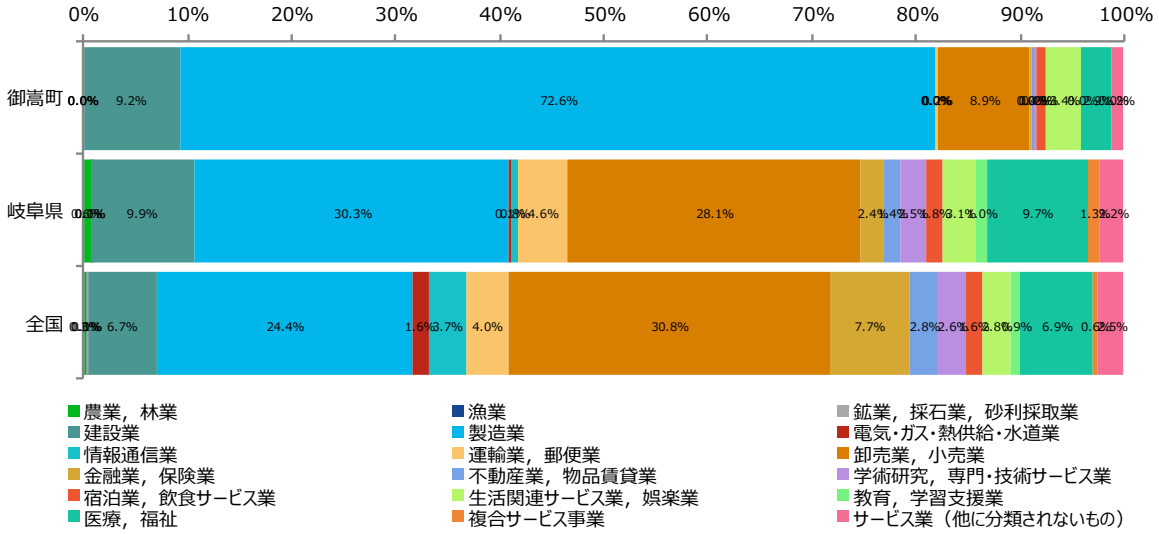
資料：経済センサス

②産業大分類別の売上高の構成比

○御嵩町は、岐阜県や全国の構成と比較すると「製造業」の構成比が 72.6%と製造業に特化しています。

○また、「卸売業、小売業」、「金融業、保険業」、「医療、福祉」をはじめとして、その他の産業の構成比が岐阜県、全国と比較して低い状況です。

図表 1-3-2　産業大分類別の売上高の構成比



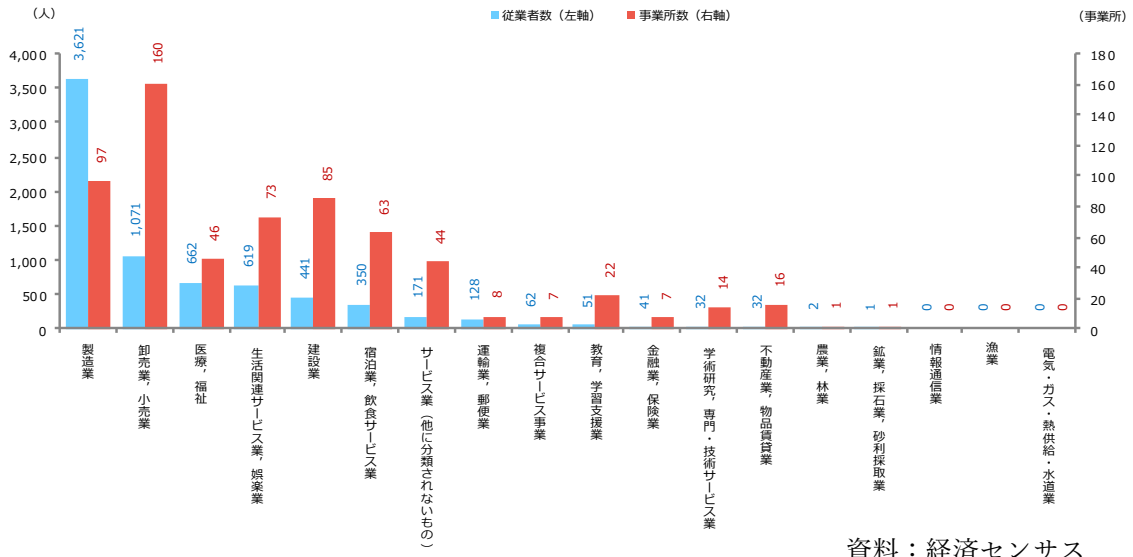
資料：経済センサス

③産業大分類別事業所数、従業者数

○事業所数は、「卸売業、小売業」、「製造業」、「建設業」の順で多くなっています。

○従業者数では「製造業」が群を抜いて多く、事業所当たりの従業員数は「製造業」で約 37 人であるのに対して、「卸売、小売業」、「建設業」では、それぞれ約 7 人、約 5 人であり、企業の規模が格段に異なることが分かります（2016 年）。

図表 1-3-3　産業大分類別事業所数、従業員数（2016 年）



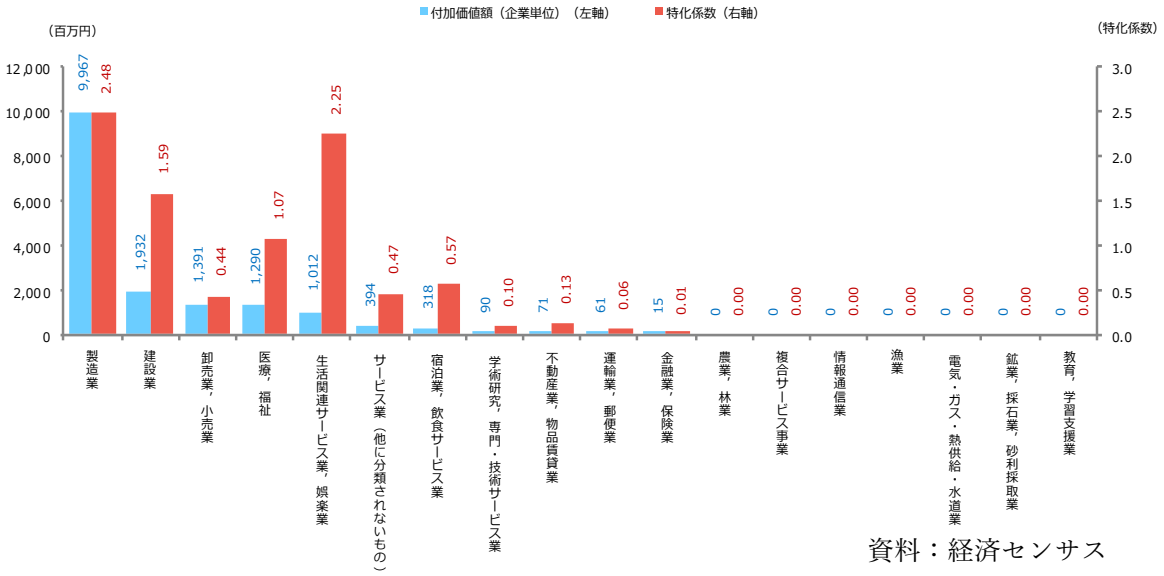
資料：経済センサス

④産業大分類別付加価値額

○付加価値額は、「製造業」が約 100 億円で群を抜いて高く、次いで「建設業」が約 19 億円、「卸売業、小売業」が約 14 億円となっています。

○特化係数が 1 以上の業種は「製造業」、「生活関連サービス業，娯楽業」、「建設業」、「医療、福祉」の 4 業種であり、特に「製造業」（2.48）、「生活関連サービス業，娯楽業」（2.25）が高くなっています（2016 年）。

図表 1-3-4　産業大分類別付加価値額（2016 年）



資料：経済センサス

特化係数
全国平均を 1 としたときの構成比の高低を示したものであり、特化係数が 1 よりも大きな産業は、全国傾向よりも構成比が大きくなっており、特徴的な産業といえます。

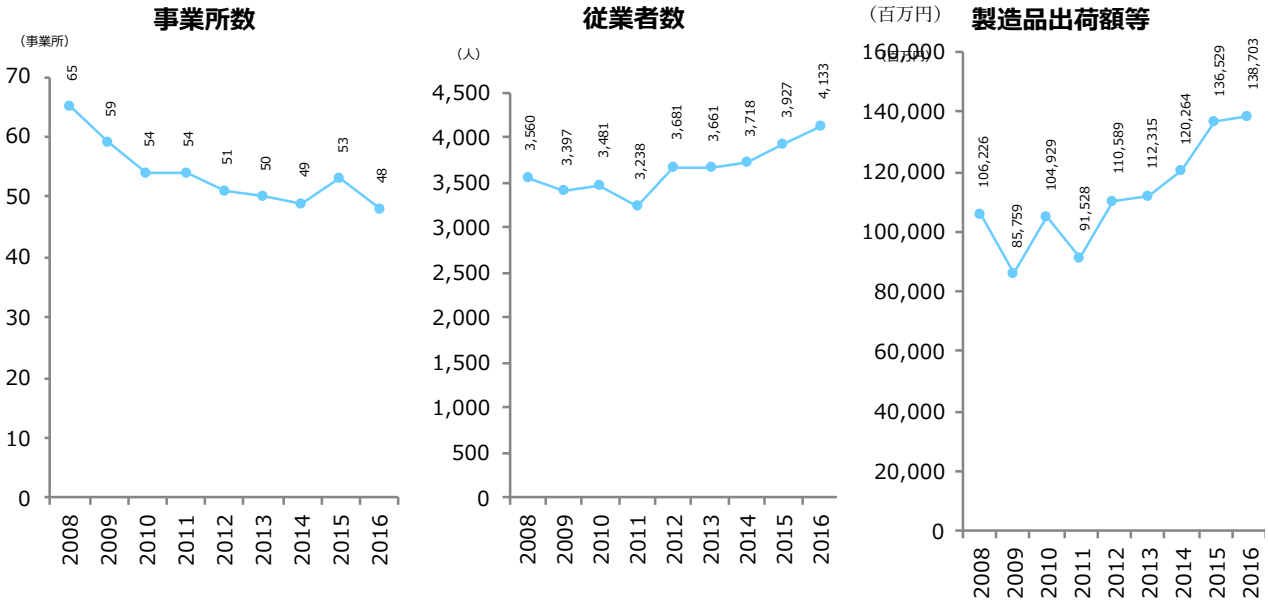
（２）製造業の特色

①事業所数、従業者数、製造品出荷額等

○事業所数は減少傾向にありますが、従業者数は増加傾向にあり、1 事業者当たりの従業者数は増加傾向にあります。

○製造品出荷額等は増加傾向にあり、従業者一人当たりの製造品出荷額等の額も増加傾向となっています。

図表 1-3-5　製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等



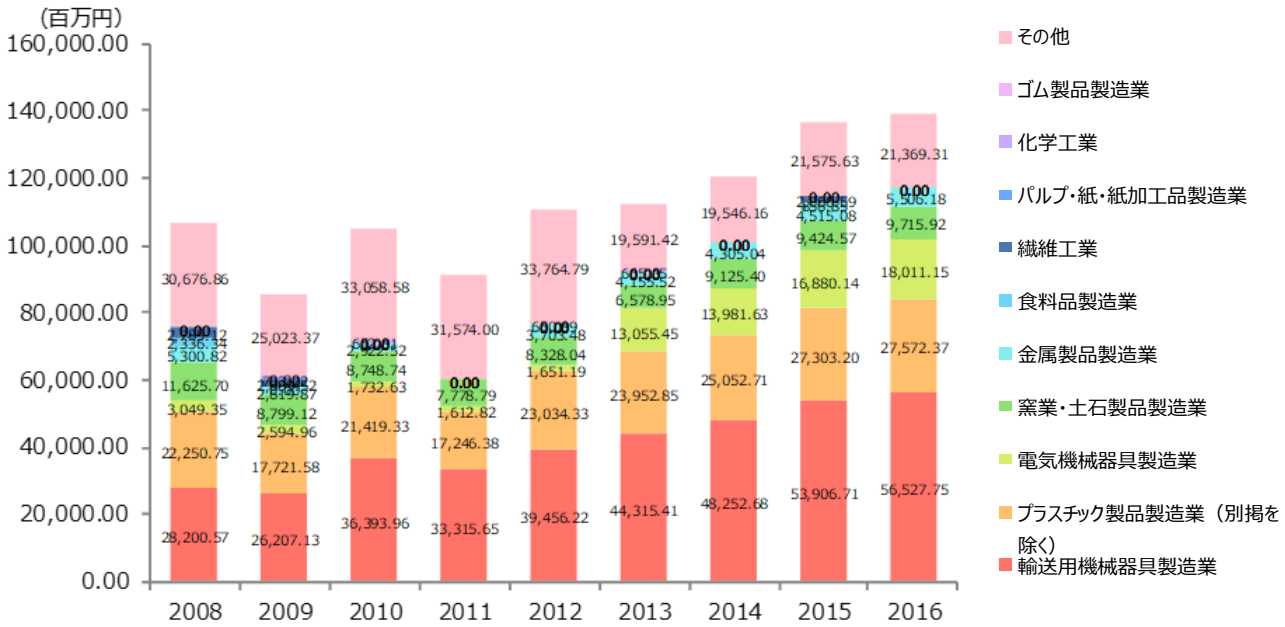
資料：経済センサス、工業統計調査

②業種別製造品出荷額等の変化

○製造品出荷額等の額が大きい業種は、上位から「輸送用機械器具製造業」、「プラスチック製品製造業」、「電気機械器具製造業」の順となっています。

○上位の 2 業種で全体の約 60%、上位 3 業種で全体の 70%以上を占めています。

図表 1-3-6　業種別製造品出荷額等の変化（2016 年）



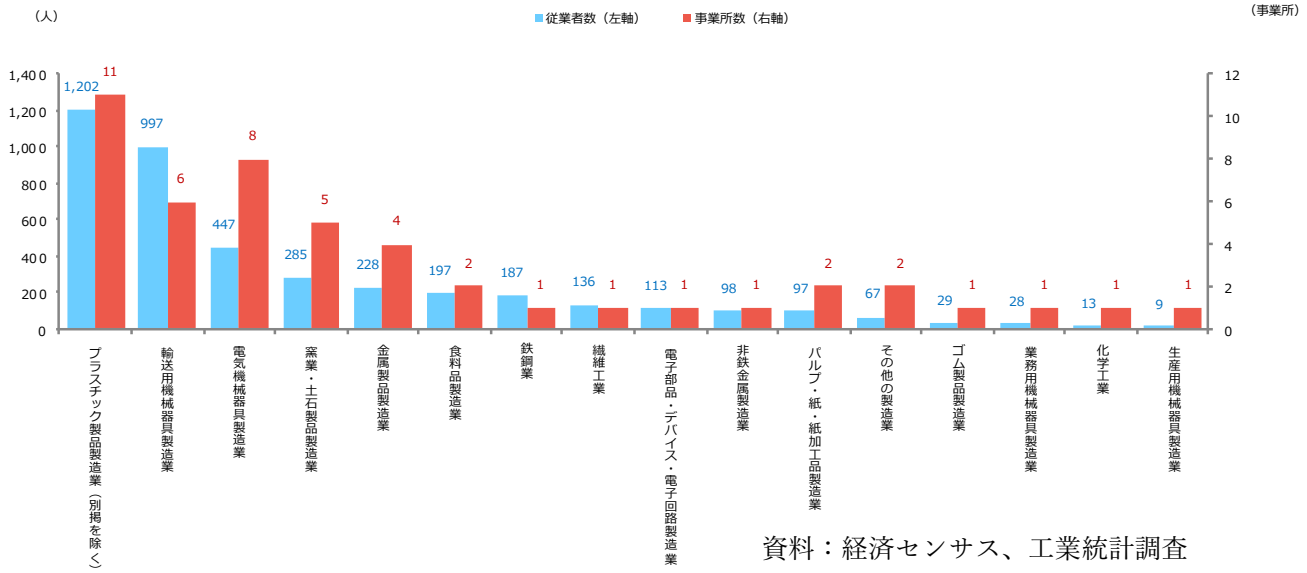
資料：経済センサス、工業統計調査

③産業中分類別事業所数・従業者数

○事業所数は、「プラスチック製品製造業」、「電気機械器具製造業」、「輸送用機械器具製造業」の順で多くなっていますが、従業者数は、「プラスチック製品製造業」、「輸送用機械器具製造業」、「電気機械器具製造業」の順で多くなっています。

○1 事業所当たりの従業者数は、「輸送用機械器具製造業」が約 166 人、「プラスチック製品製造業」が約 109 人、「電気機械器具製造業」が約 56 人です。

図表 1-3-7　産業中分類別事業所数・従業者数（2016 年）



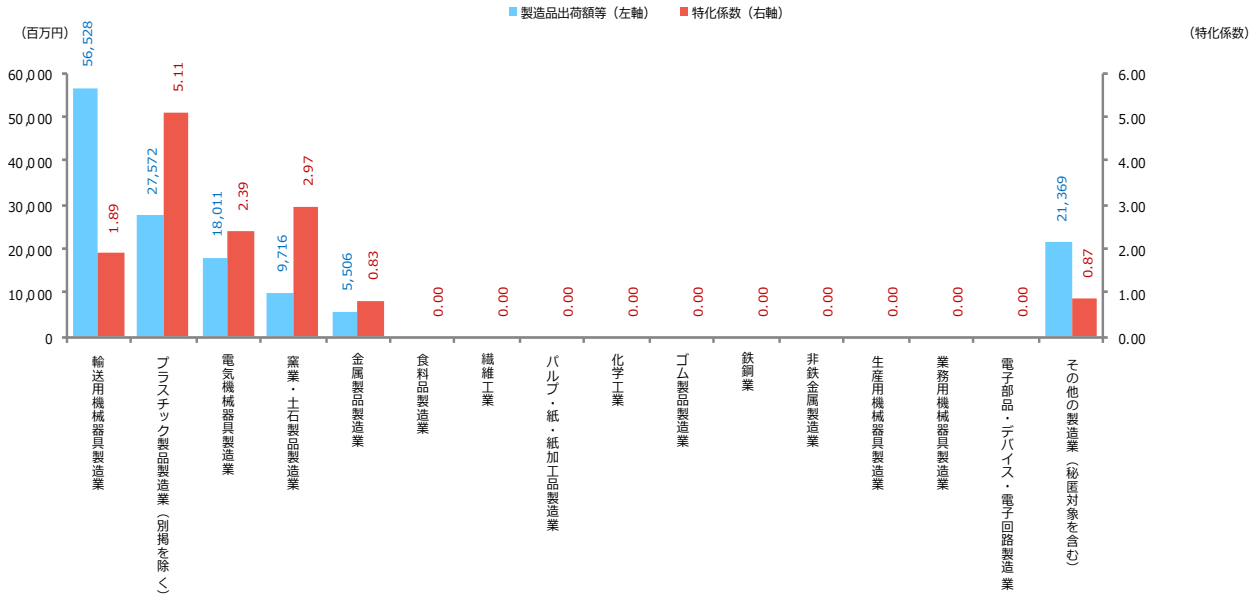
資料：経済センサス、工業統計調査

④産業中分類別製造品出荷額等

○製造品出荷額等は、「輸送用機械器具製造業」、「プラスチック製品製造業」、「電気機械器具製造業」、「窯業・土石製品製造業」の順で多くなっています（ただし、数字が秘匿されている業種があります。

○特化係数を見ると、この 4 業種はいずれも 1 以上となっており、「プラスチック製品製造業」が 5.11 と最も高く、次いで「窯業・土石製品製造業」が 2.97、「電気機械器具製造業」が 2.39、「輸送用機械器具製造業」が 1.89 となっています。

図表 1-3-8　産業中分類別製造品出荷額等（2016 年）



資料：経済センサス、工業統計調査

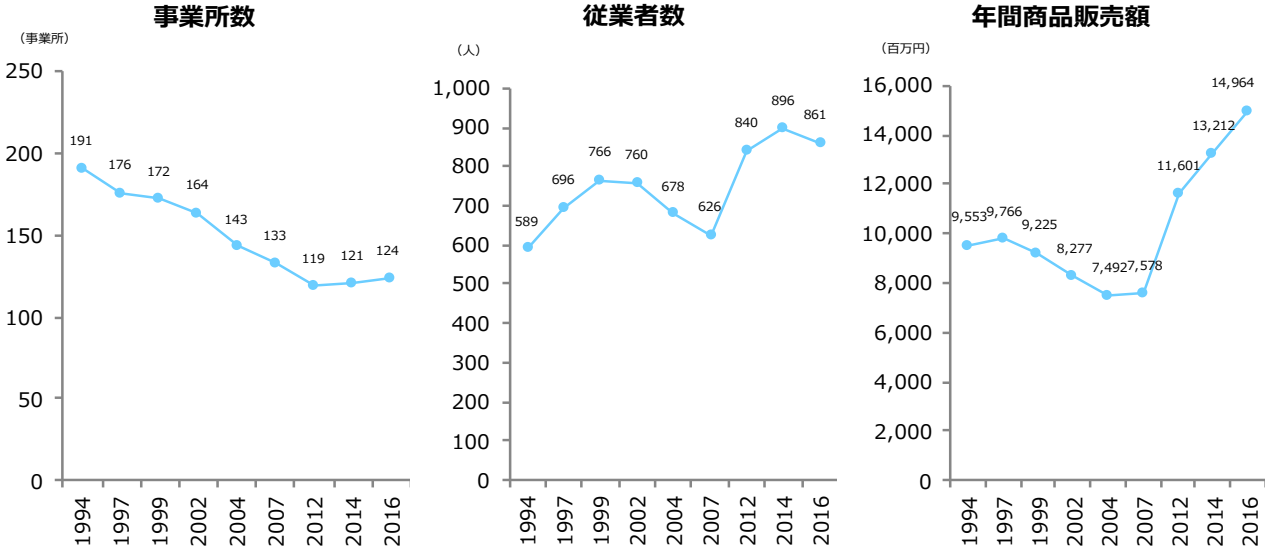
（３）小売業の特色

①事業所数、従業者数、年間商品販売額

○事業所数は減少傾向ですが、従業者数は増加傾向にあり、事業所当たりの従業者数も増加傾向にあります。

○年間商品販売額は、2004 年にかけて低下しましたが、その後大きく増加しています。従業者当たりの商品販売額は 2002 年に約 1,089 万円まで減少しましたが、その後増加に転じ 2016 年では約 1,738 万円と大きく回復しています。

図表 1-3-9　小売業の事業所数、従業者数、年間商品販売額



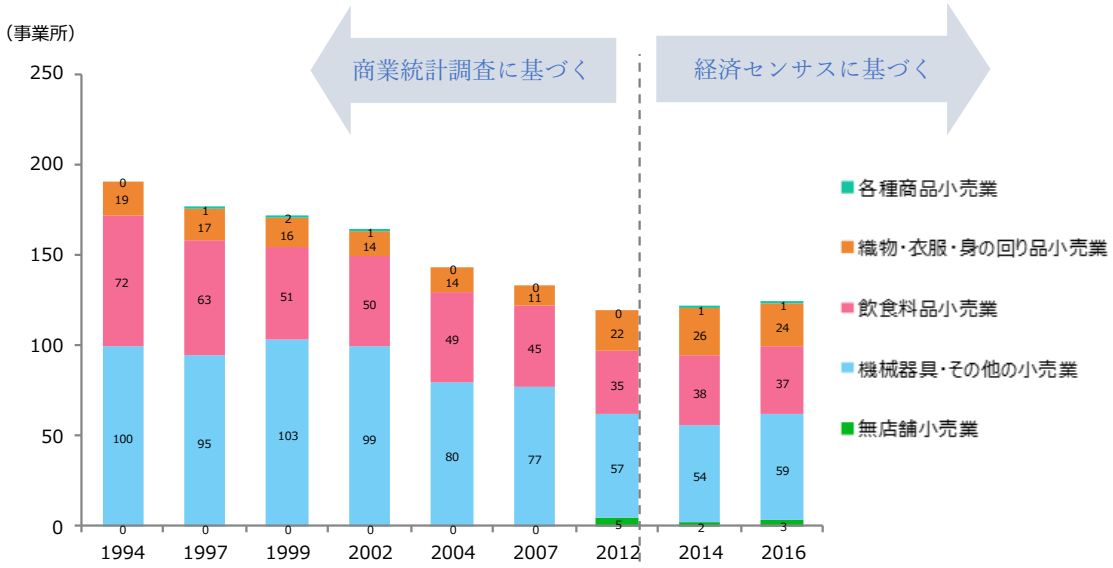
資料：経済センサス、商業統計調査

②業種別小売業事業所数の推移

○「機械器具、その他の小売業」、「飲食料品小売業」、「織物・衣服・身の回り品小売業」の順で事業所数が多くなっています。

○「織物・衣服・身の回り品小売業」は増加傾向ですが、「機械器具、その他の小売業」、「飲食料品小売業」は減少傾向にあります。

図表 1-3-10　業種小売業事業所数の推移



資料：経済センサス、商業統計調査

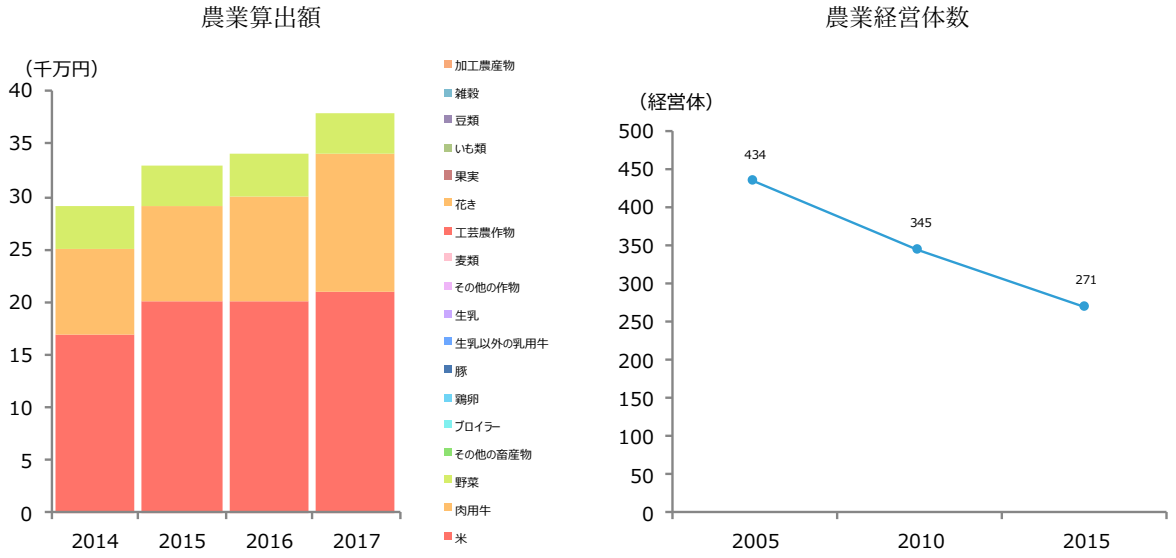
（4）農業の特色

①農業産出額、農業経営体数の推移

○本町の農業生産品として計上されているものは、米、肉用牛、野菜の 3 品目で、産出額は米が約 55%、肉用牛が約 34%、野菜が約 11%となっています。

○農業経営体数は、2005 年から大きく減少しています。

図表 1-3-11　農業算出数、農業経営体数



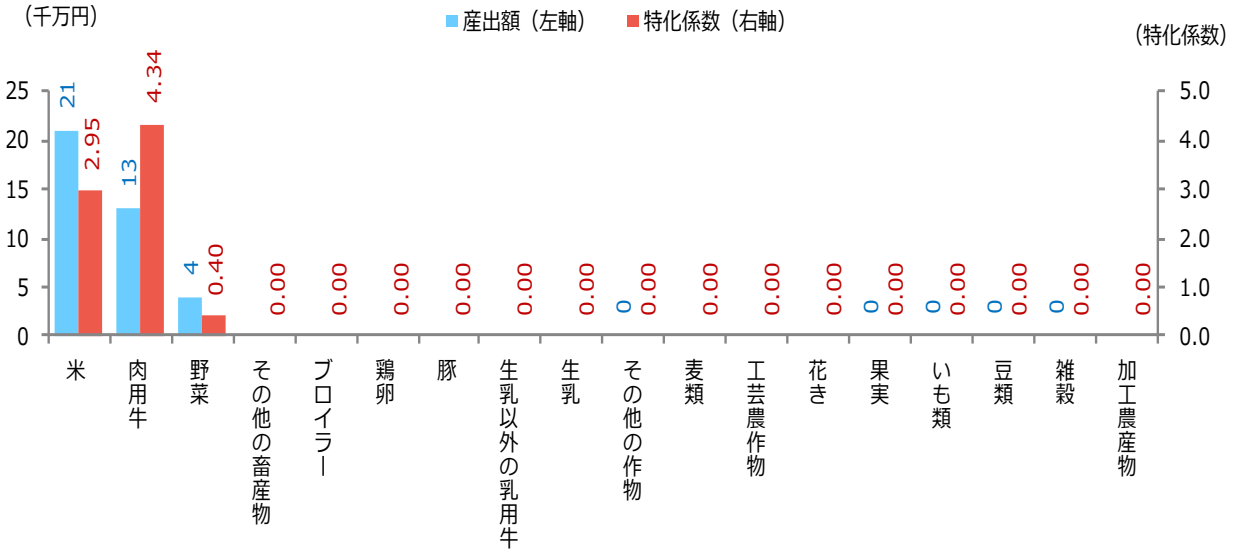
【出典】農業産出額（都道府県単位）　農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」
農業産出額（市区町村単位）　農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」
農業経営体数　農林水産省「農林業センサス」再編加工

②品目別農業産出額

○農業産出額の特化係数は肉用牛が 4.34 と非常に高く、米も 2.95 と高くなっています。

○野菜は 0.40 にとどまっており、上位 2 品目に大きく偏った品目構成となっています。

図表 1-3-12　品目別農業産出額（2017 年）



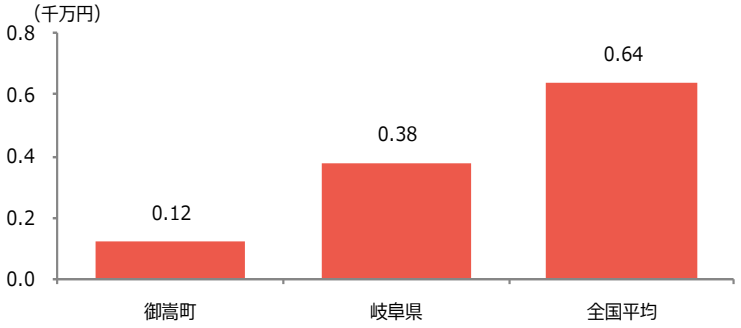
【出典】　都道府県単位　農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」
市区町村単位　農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

【注記】「その他の畜産物」には、農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」及び「市町村別農業産出額（推計）」で示される
「鶏」から「鶏卵」と「ブロイラー」を減じた値を含む。

③経営体当たり農業産出額

○経営体当たりの農業産出額は 120 万円であり、岐阜県平均の 380 万円、全国平均の 640 万円と比べ、かなり低くなっています。

図表 1-3-13　経営体当たり農業産出額(2015 年)



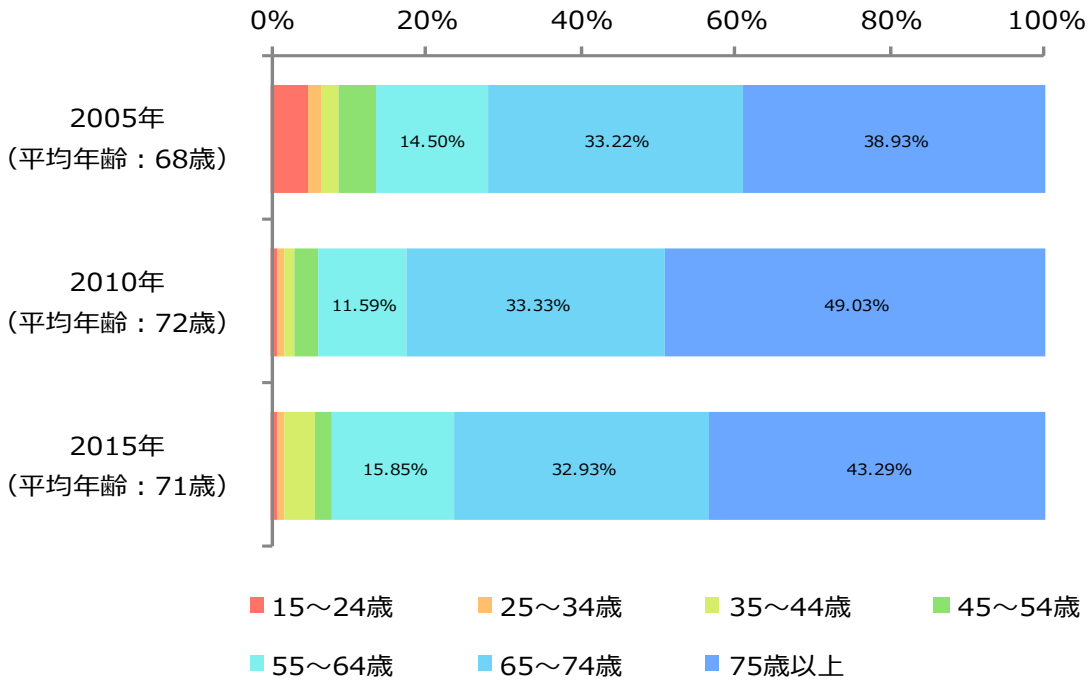
【出典】農林水産省「農林業センサス」
全国単位　　農林水産省「農業総産出額及び生産農業所得」
都道府県単位　農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」
市区町村単位　農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」
【注記】1経営体当たり農業産出額は、農業産出額を農業経営体数(家族経営体、組織経営体の合計)で除した試算値である。
農業経営体には、販売なしの経営体を含む。

④年齢階級別農業就業者比率と平均年齢

○農業就業者の年齢構成は、2010 年にほぼ半数が 75 歳以上となり、平均年齢も 72 歳と非常に高くなりましたが、2015 年には 75 歳以上の割合が低下し 55～64 歳の割合が増加しました。

○この結果、平均年齢も 71 歳と低下したものの、農業人口の減少と高齢化は依然として続いています。

図表 1-3-14　年齢別農業就業者の比率の推移



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工
【注記】農業就業人口:農業従事者のうち、農業を主として従事した世帯員

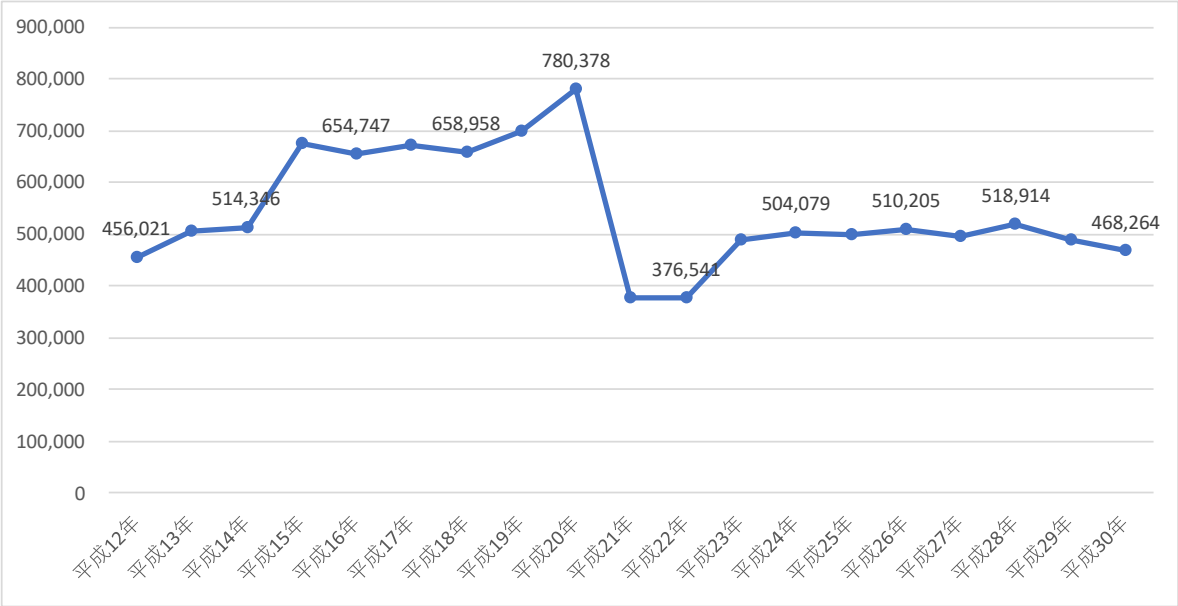
（５）観光動向

①観光客数

○御嵩町の観光客数は、2018 年（平成 30 年）で 468,264 人であり、平成 20 年に調査対象が客数 5 万人以上の施設に限定されたことから急減していますが、平成 21 年以降は平成 23 年にかけて増加した後、ほぼ横ばいとなっています。

○2017 年（平成 29 年）の岐阜県観光入込客統計調査によると、御嵩町の観光地分類別観光入込客数は周辺市町に比べかなり少なく、目的としては、「スポーツ・レクリエーション」（ゴルフなど）、「歴史・観光」、「自然」の 3 項目となっています。また、「スポーツ・レクリエーション」の多くはゴルフ場利用者です。

図 1-3-15　観光客数の推移（人）



市町村名	自然	歴史・文化	温泉・健康	ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ	都市型観光（買物・食等）	道の駅等	計
御嵩町	50,791	64,288	0	358,390	0	0	473,469
美濃加茂市	0	289,456	0	509,073	0	90,344	888,873
可児市	0	0	1,945,308	865,143	578,810	274,164	3,663,425
八百津町	0	0	0	35,002	0	0	35,002
関市	230,300	227,029	538,600	1,192,363	260,219	606,185	3,054,696
多治見市	0	806,326	0	109,384	26,320	0	942,030
瑞浪市	24,692	68,386	0	521,312	545,474	104,410	1,264,274
土岐市	0	33,380	681,607	129,845	7,284,637	1,042,621	9,172,090
中津川市	210,450	1,325,337	304,432	357,888	643,501	1,190,707	4,032,315
恵那市	545,104	575,303	87,535	450,102	42,831	1,781,082	3,481,957

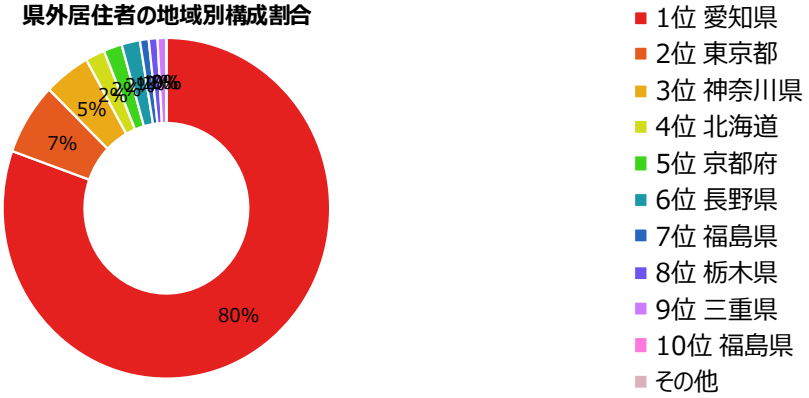
出典：岐阜県観光入込客統計調査

②滞在した県外居住者の居住都道府県別構成比

○休日 14 時に御嵩町に滞在した人口のうちの県外居住者は 1,156 人(8.8%)であり、その 80%は愛知県に居住しています。

○愛知県以外では、東京都、神奈川県、北海道など遠方が多くなっています(2019 年 1 月)。

図表 1-3-16　休日 14 時に自地域に滞在した県外居住者の居住都道府県別構成比(2019 年 1 月)



【出典】株式会社ＮＴＴドコモ･株式会社ドコモ･インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」
【注記】滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日･休日別）を表している。
滞在人口には観光客以外の来訪者も含んでいる。
政令市については、市役所の位置する行政区のデータを表示している。

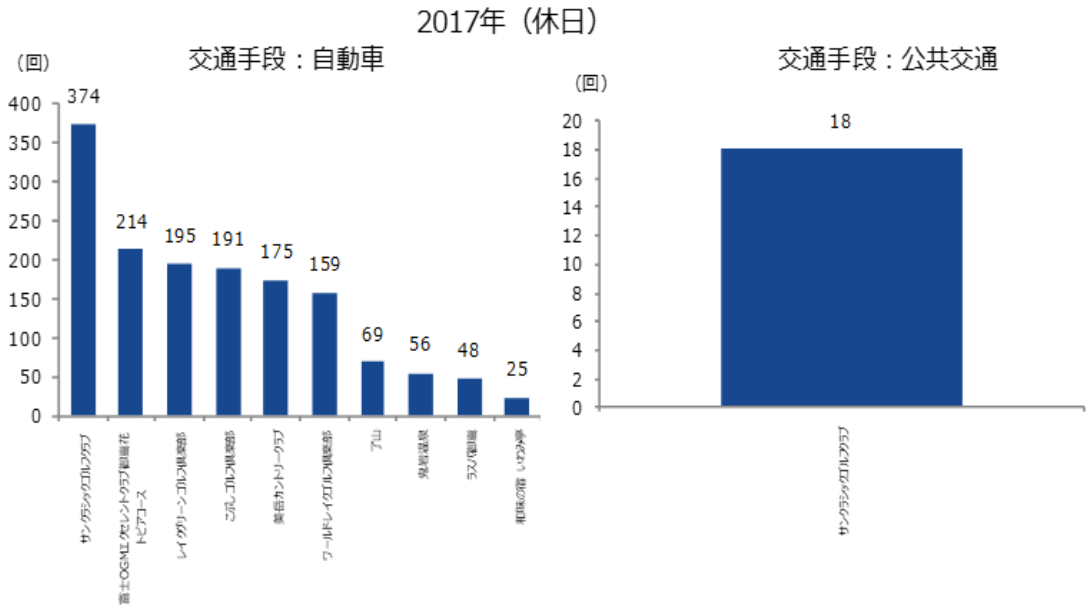
※滞在人口合計：13,502 人、うち県外居住者 1,156 人（8.6%）

③観光施設等を目的とした検索回数ランキング

○交通手段が自動車系の検索はほとんどがゴルフ場であり、ゴルフ場以外では鬼岩温泉と大型ショッピングセンターがわずかに検索されているのみです。

○公共交通を手段とする検索は、ゴルフ場 1 箇所のみでした(2017 年・休日)。

図表 1-3-17　観光施設等を目的とした検索回数ランキング

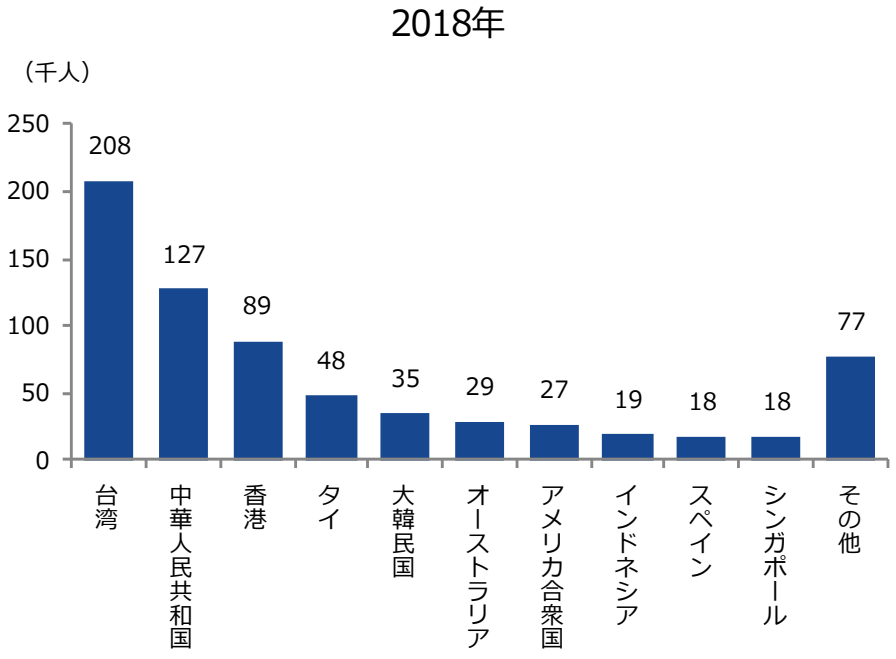


【出典】 株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

④国、地域別外国人訪問客数「都道府県単位」

○岐阜県に来訪した外国人は、台湾が最も多く、以下中華人民共和国、香港、タイ、大韓民国が多く、ほとんどはアジアからの来訪者です（2018 年）。

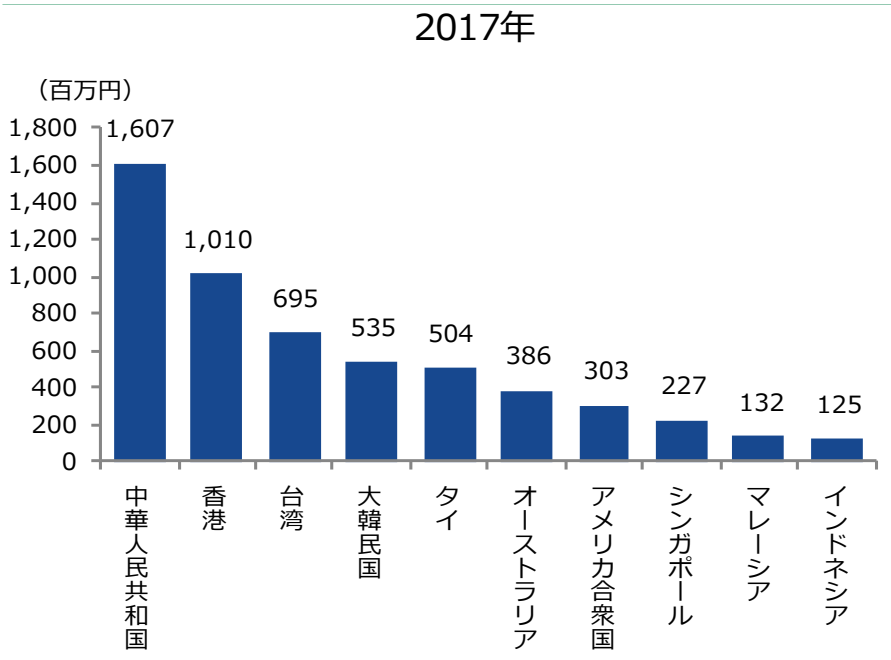
図表 1-3-18　国、地域別外国人訪問客数【都道府県単位】



【出典】　観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

【注記】　「地域別の訪日外客数＝地域別の訪問率【観光・レジャー目的】×訪日外客数×旅行目的別構成比【観光・レジャー目的】」により推計している。

図表 1-3-19　指定地域内での国・地域別消費額　【都道府県単位】



【出典】ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社のカードデータを再編加工

【注記】消費額は、外国人訪問客がクレジットカードを使用した消費額を地域別のシェア率等から算出した金額。国・地域は、カード所有者の居住地であるため、観光客以外の永住者・定住者による消費額も含まれる。

（6）雇用

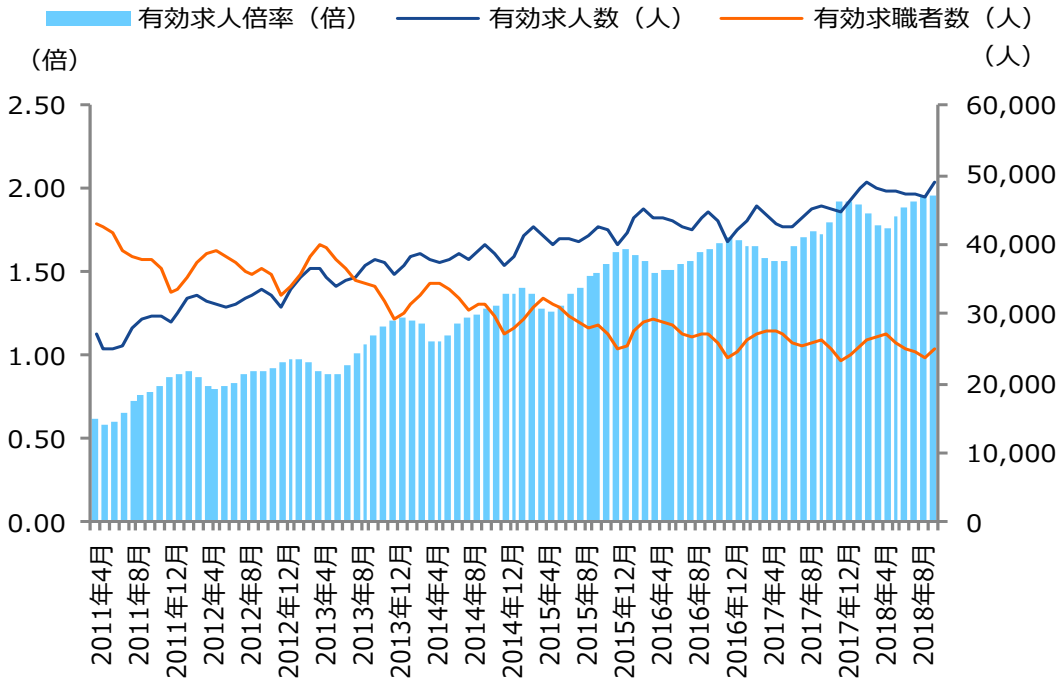
○岐阜県の有効求人倍率は、2013 年 8 月に 1 を超えて以来、おおむね上昇傾向にあり、2018 年 10 月には 1.96 倍と高い値となっています。

○有効求人数は 2018 年 10 月に約 49,000 人であり、増加傾向にあります。一方、有効求職者数は 2018 年 10 月時点で約 25,000 人と減少傾向にあることから、今後は人手不足が懸念されます。

○有効求人倍率を全国と比較すると、岐阜県は全国よりかなり高い値で推移しています。

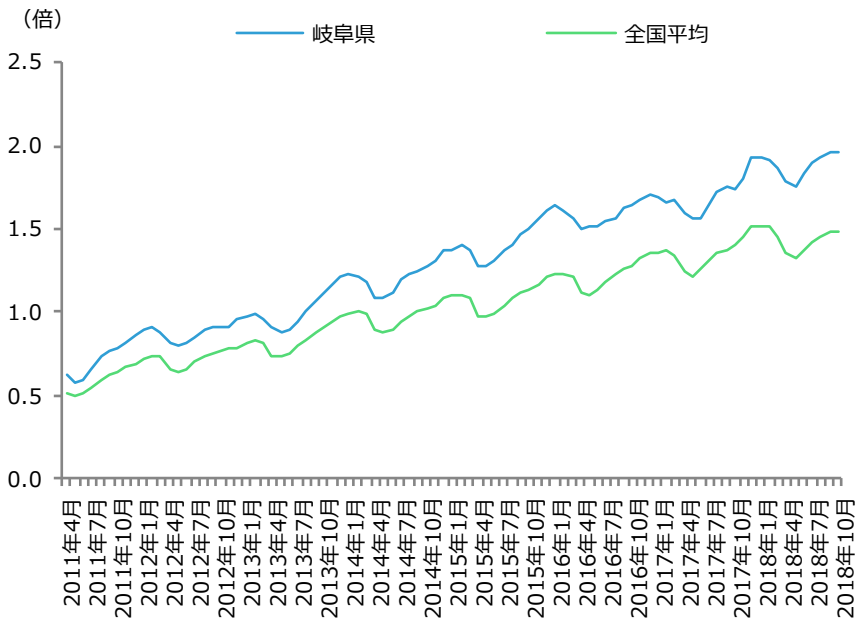
図表 1-3-20　有効求人倍率の動向

有効求人倍率（岐阜県）



出典：厚生労働省「職業安定業務統計」

図表 1-3-21　有効求人倍率（岐阜県と全国）



出典：厚生労働省「職業安定業務統計」

Ⅱ 『まちづくり』についてのアンケート調査結果

◆調査の概要

1　調査の目的

御嵩町では、「御嵩町第五次総合計画」（平成 28（2016）年３月策定）に基づいて、まちづくりを進めてきましたが、同計画の計画期間である令和７（2025）年度までの折り返しの時期となりました。また、地方創生をより効果的に進めるために策定した「みたけ創生!!総合戦略」の計画期間が令和元（2020）年度に終了します。

このため、本町では「後期基本計画」の策定へ向け点検・見直しを行うとともに、「第２期総合戦略」の策定を進めます。

これらの計画は町民の皆様との協働で、安心して暮らし続けることができ、若者が夢を描くことができるまちづくりを目指すものであり、町民の意見を把握するためにアンケート調査を実施しました。

2　調査方法と回収結果

【調査対象】

18 歳以上の町民から 1,800 人を無作為抽出しました。

【調査方法】

郵送配布・郵送回収方式で実施しました。

【調査項目】

下記の項目について、設問を設定しました。

①回答者のプロフィール
②御嵩町のイメージについて
③町の施策全般について
④まちづくりを進めてきた成果について
⑤日ごろの生活や活動について
⑥まちづくりの進め方や方向について

【調査期間】

令和元年９月５日～９月 26 日

【回収結果】

配布数	有効配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
1,800 人	1,797 人	748	748	41.6%

3　結果の表示方法

①図中の構成比（%）は、小数点以下第２位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%にはなりません。
②複数回答の場合の構成比（%）は回答者数を母数としており、合計は 100%を超えます。
③選択肢についての文中の記述は調査票の記述をそのまま用いていますが、図表中や一部の文章については略している場合があります。

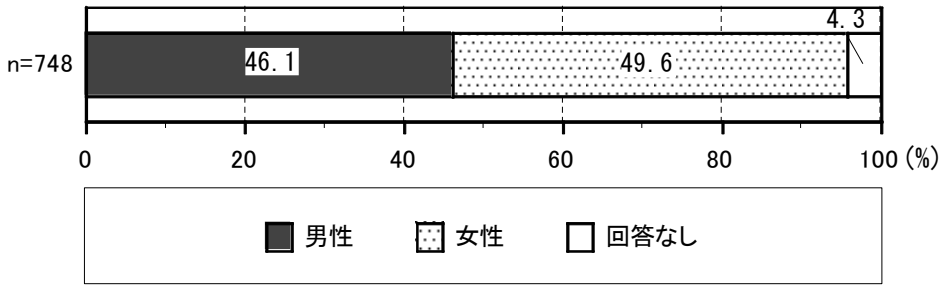
◆調査結果

1　回答者のプロフィール

（1）性別

○「女性」が 49.6%、「男性」が 46.1%で、女性が多くなっています。

図表 2-1-1　性別

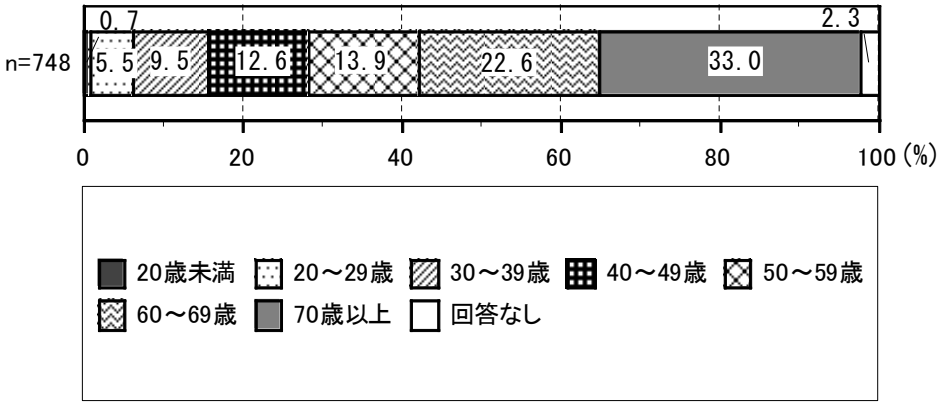


（2）年齢

○「70 歳以上」が 33.0%と最も多く、次いで「60～69 歳」が 22.6%となっており、高い年齢層が 55%以上を占めています。

○「20 歳未満」は 5 人で 0.7%とわずかであり、「20～29 歳」が 5.5%にとどまっています。

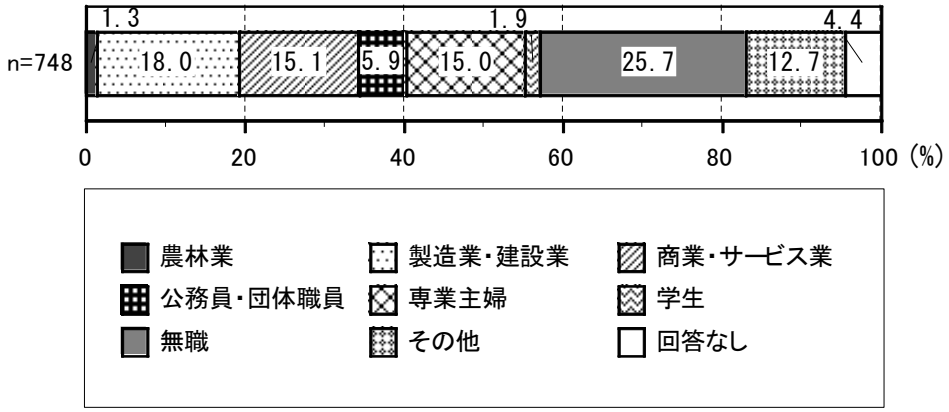
図表 2-1-2　年齢



（３）職業

○「無職」が 25.7%と最も多く、次いで「製造業・建設業」が 18.0%、「商業・サービス業」が 15.1%、「専業主婦」が 15.0%となっています。

図表 2-1-3　職業

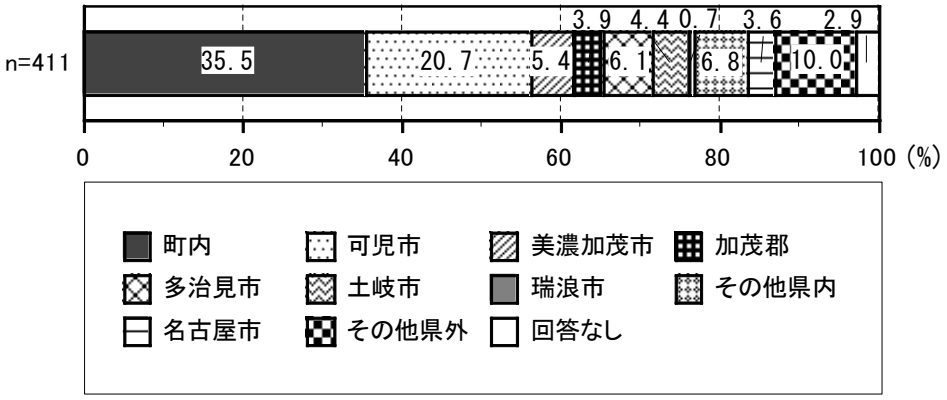


（４）勤務(通学)先所在地

○「町内」が 35.5%と最も多く、次いで「可児市」が 20.7%となっています。

○『多治見市・土岐市・瑞浪市』が約 11%、「その他県外（名古屋市を除く）」が 10.0%、『美濃加茂市・加茂郡』が約９％となっています。

図表 2-1-4　勤務先

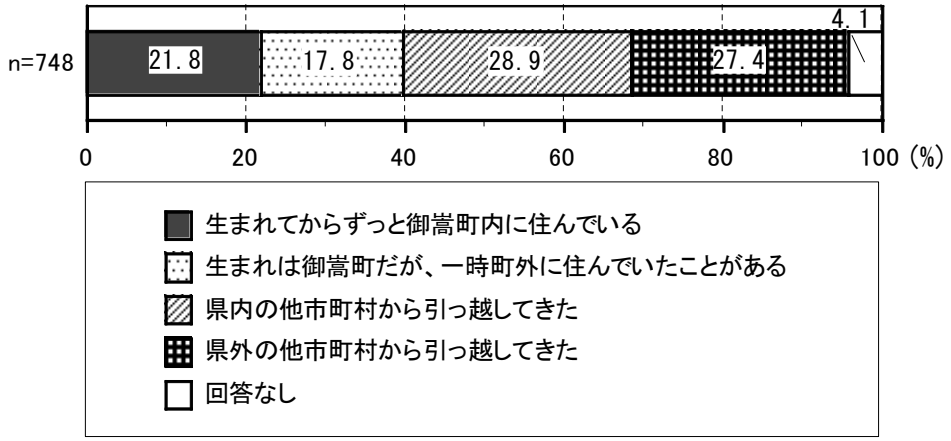


（5）居住状況

○「県内の他市町村から引っ越してきた」と「県外の他市町村から引っ越してきた」が、それぞれ30%弱と多くなっており、引っ越してきた人は合わせて60%弱を占めます。

○「生まれてからずっと御嵩町内に住んでいる」が 21.8%、「生まれは御嵩町だが、一時町外に住んでいたことがある」が 17.8%となっており今後のＵターンの可能性もうかがえます。

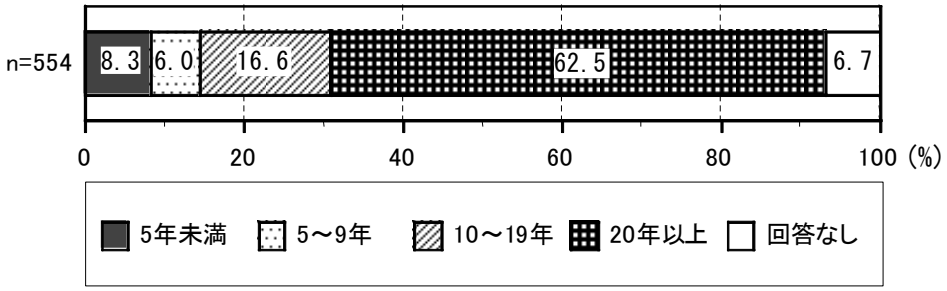
図表 2-1-5　居住状況



（6）引っ越して来てからの年数

○「20年以上」が62.5%を占めており、最も短い「５年未満」は8.3%となっています。

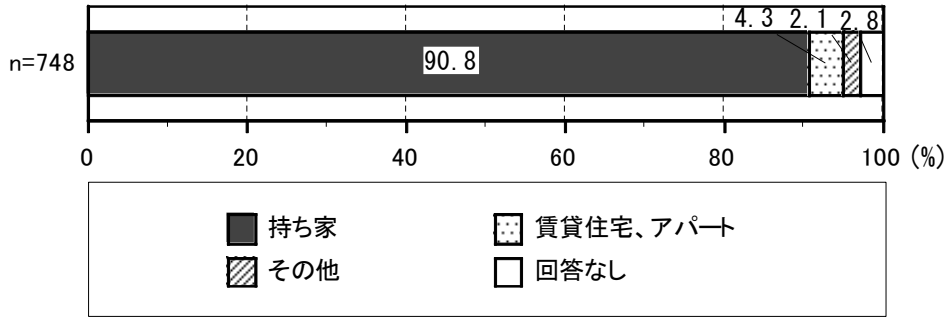
図表 2-1-6　引っ越して来てからの年数



（7）居住形態

○「持ち家」が90.8%を占めており、「賃貸住宅（アパート含む）」は4.3%にとどまっています。

図表 2-1-7　居住形態



（８）居住地区

【全体】

○「中地区」が 32.8％と最も多く、次いで「伏見地区」（28.7％）、「御嵩地区」（21.3％）、「上之郷地区」（10.4％）となっています。

【性別】

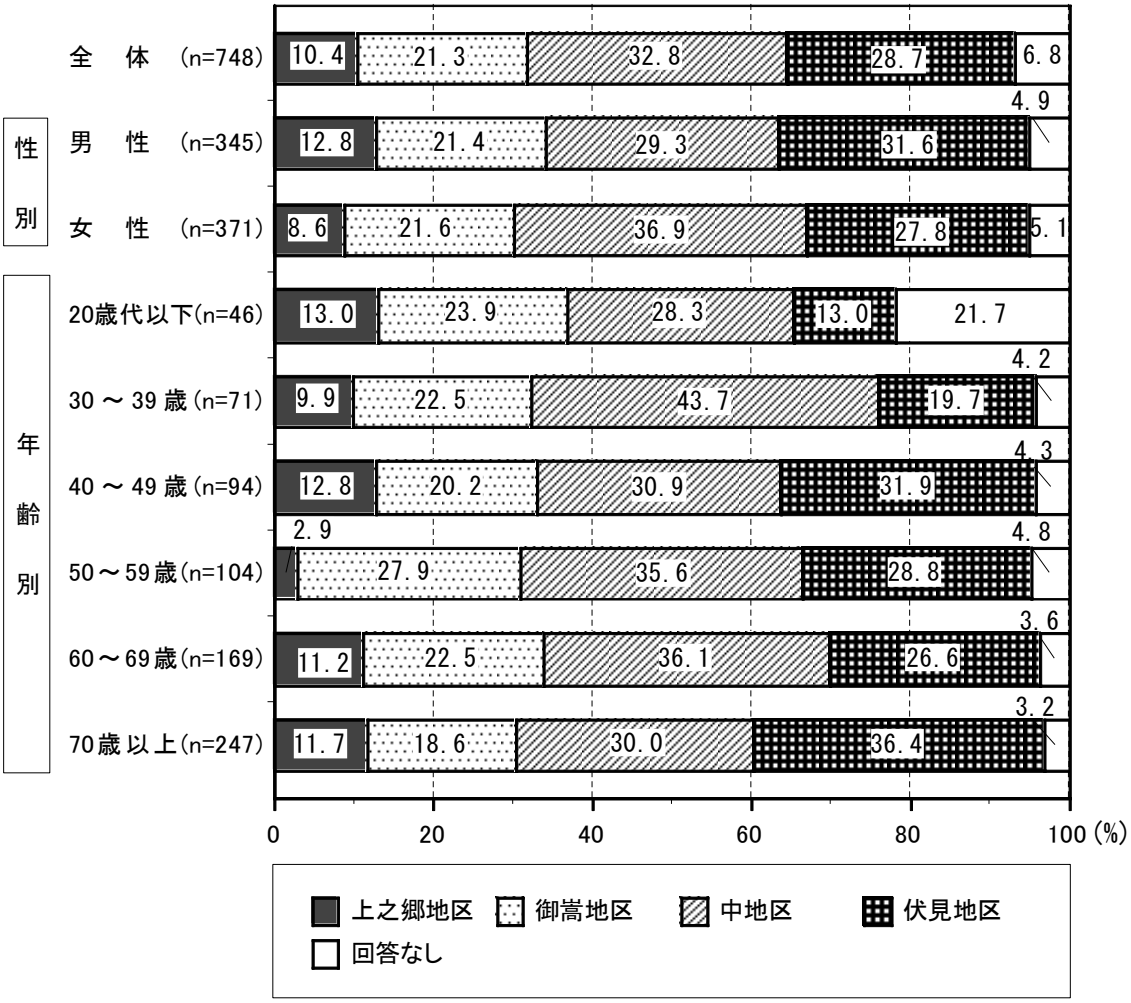
○女性で「中地区」が 36.9％と高く、「男性」では「伏見地区」が 31.6％でやや高くなっています。

【年齢別】

○30～39 歳で「中地区」が 43.7％と全体で見るよりも 10 ポイント以上高くなっています。

○40～49 歳と 70 歳以上では「伏見地区」（31％以上）、50～59 歳では「御嵩地区」（27.9％）が高くなっています。

図表 2-1-8　居住地区（性別・年齢別）



（９）居住地区別の性別・年齢

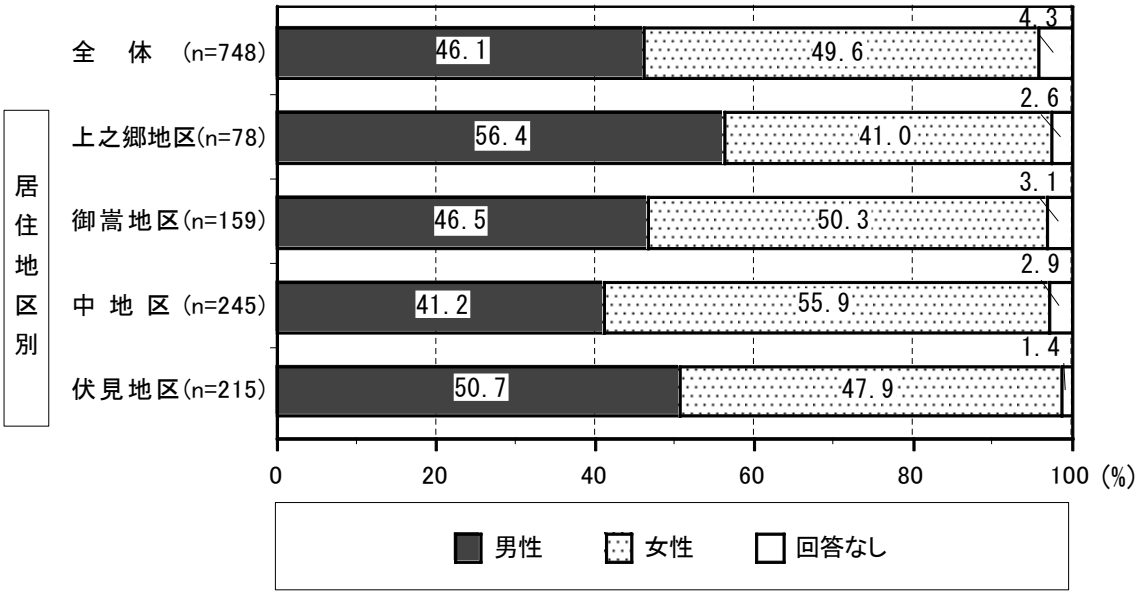
【性別別（居住地区）】

○上之郷地区と伏見地区では「男性」が多く、御嵩地区と中地区では「女性」が多くなっています。

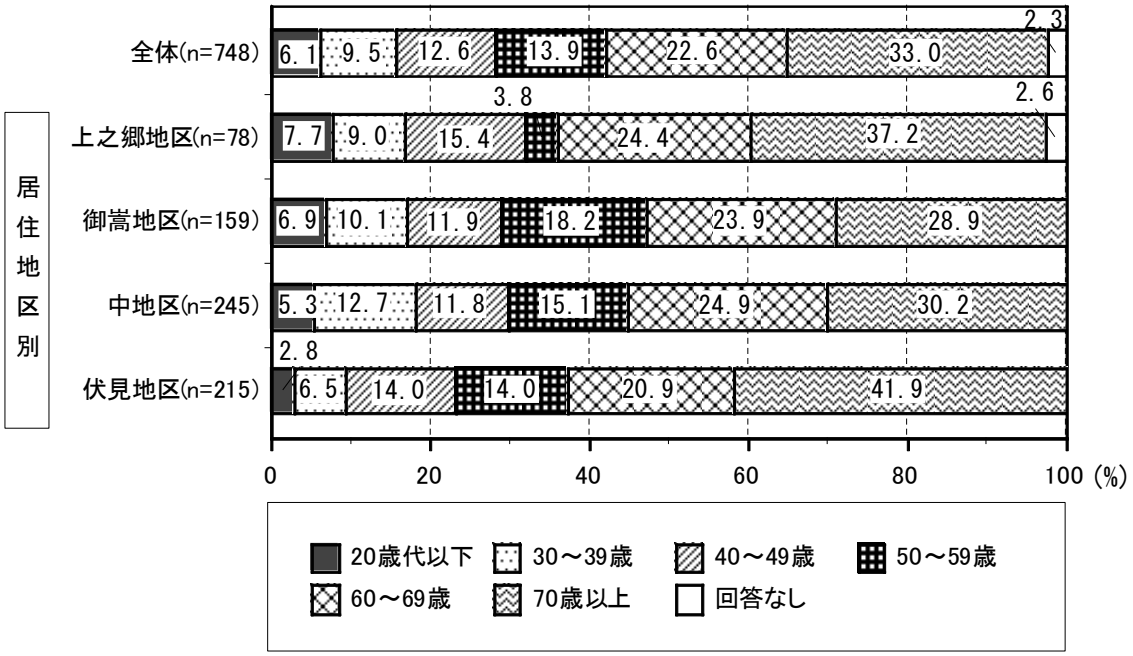
【年齢別（居住地区）】

○上之郷地区と伏見地区では「70 歳以上」が 40%前後と高く、御嵩地区では「50～59 歳」（18.2%）、中地区では「30～39 歳」（12.7%）が他地区よりも高くなっています。

図表 2-1-9　性別（居住地区別）



図表 2-1-10　年齢（居住地区別）



2　御嵩町のイメージについて

（１）御嵩町の住みよさ

問１　あなたは、御嵩町は『住みやすい町』だと思いますか。１つ選んでください。

【全体】

○住みやすいと「思う」が 55.6%と半数を超えており、「思わない」は 19.7%、「わからない」は 23.4%となっています。

○前回の 2014 年度調査結果では、「思う」が 58.5%であり、今回は若干低くなっています。

【性別】

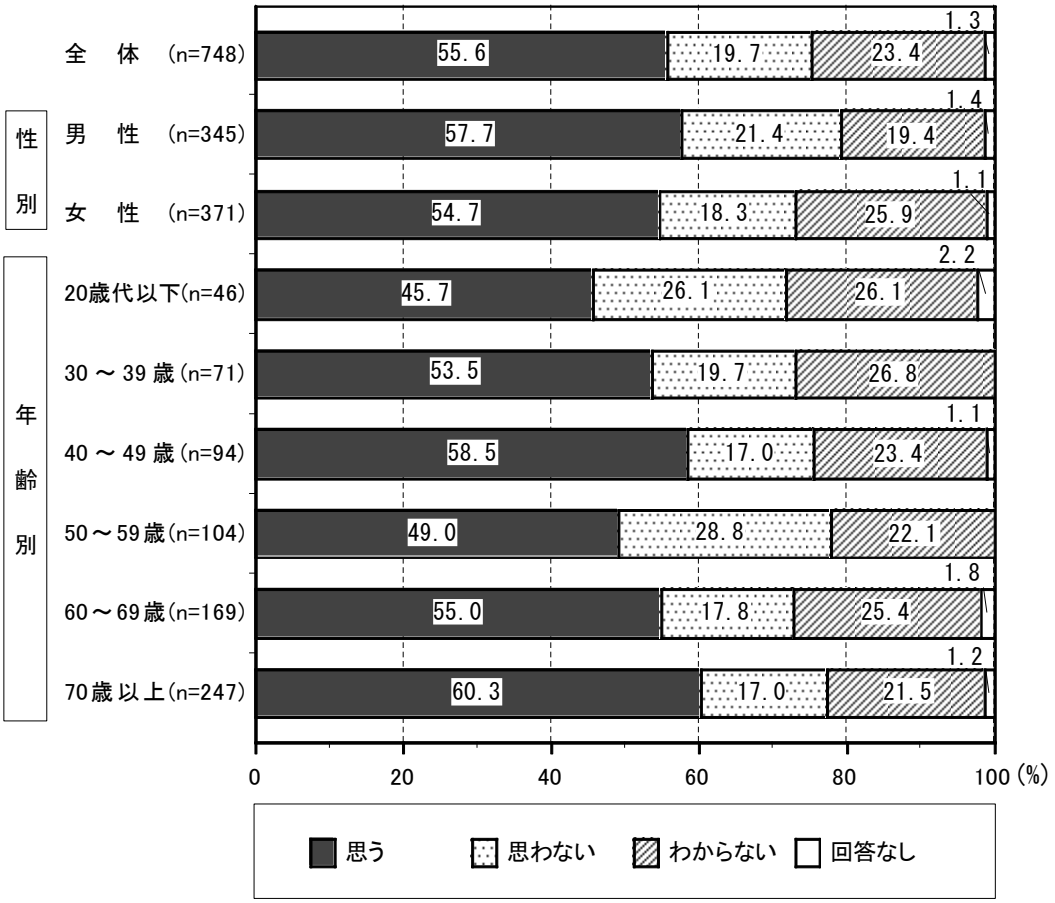
○男性で住みやすいと「思う」が 57.7%で、「女性」よりも若干高くなっています。

【年齢別】

○70 歳以上と 40～49 歳で住みやすいと「思う」が約 60%と高く、50～59 歳と 20 歳代以下で「思わない」が 26%以上と高くなっており、年齢に応じた一定の傾向は見られません。

○子育て世代である 30～39 歳で「わからない」が 26.8%と高くなっています。

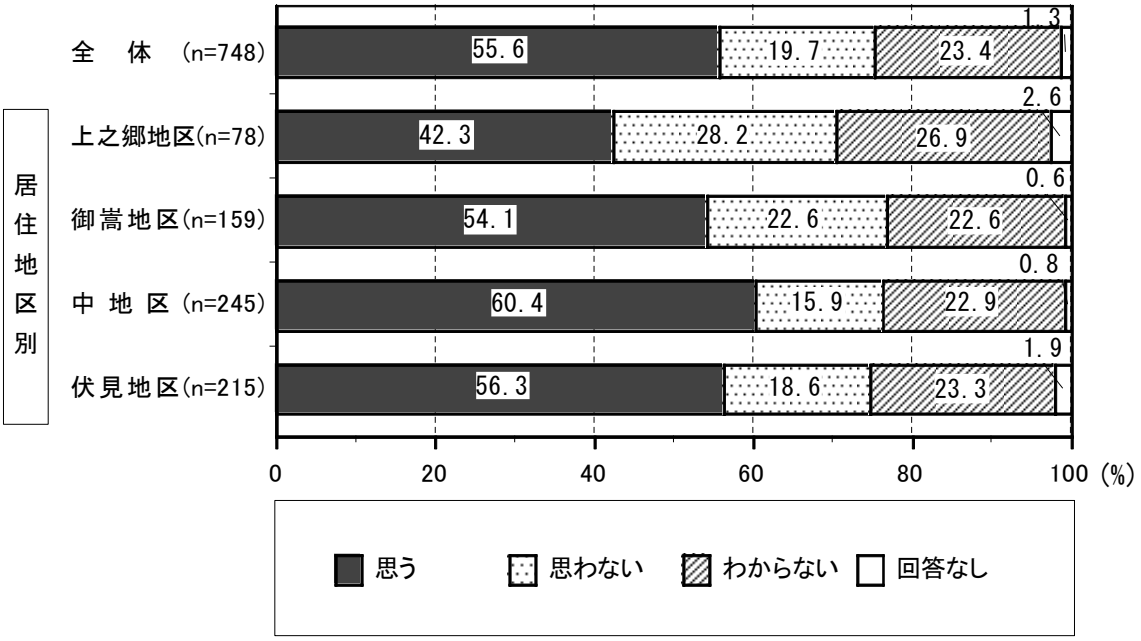
図表 2-2-1　御嵩町の住みよさ（性別・年齢別）



【居住地区別】

○中地区で「思う」が 60.4%と高く、上之郷地区で「思わない」が 28.2%と他地区よりも高くなっています。

図表 2-2-2　御嵩町の住みよさ（居住地区別）



（２）御嵩町を自慢することができるか

問２　あなたは、御嵩町をほかの町の人やお友だちに自慢することができますか。１つ選んでください。

【全体】

○「自慢できる」が 25.7%、「自慢できない」が 32.4%でマイナス評価が高くなっていますが、「わからない」が 40.0%と多く、自慢することができる町民を増やす余地があります。

○2014 年度調査結果では、「自慢できる」が 18.9%であり、今回は 7 ポイント程度高くなっています。

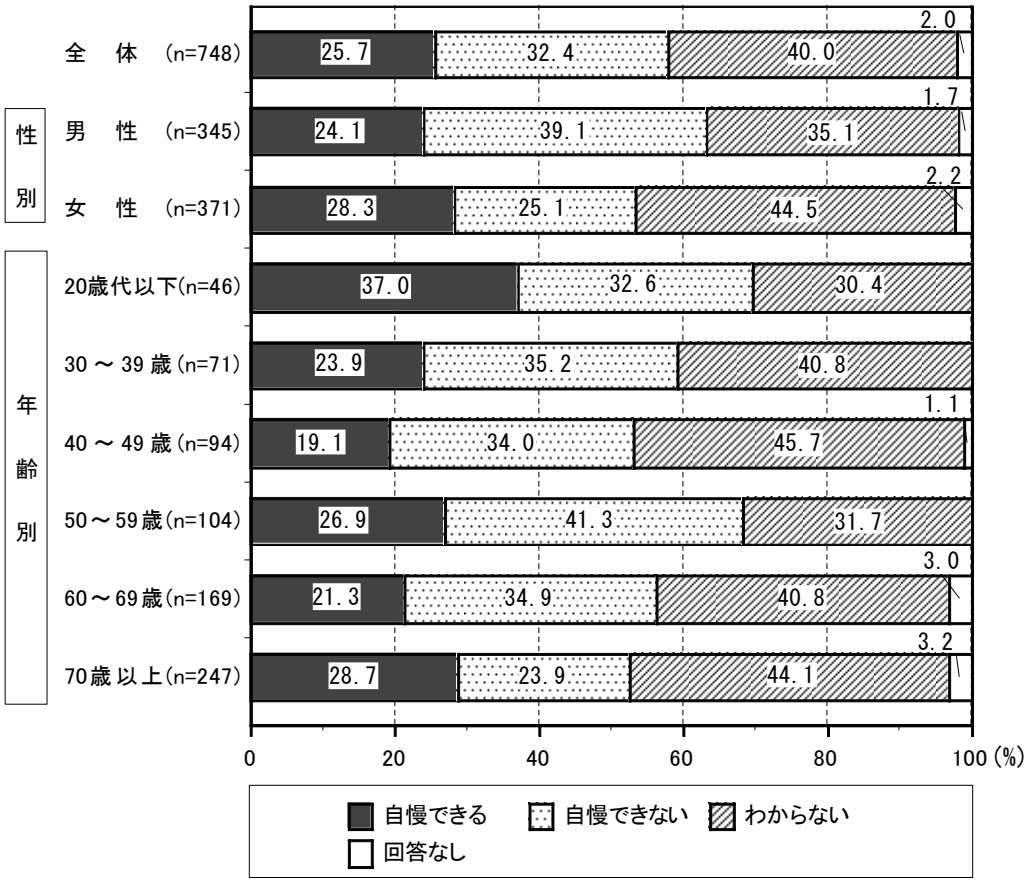
【性別】

○男性で「自慢できない」（39.1%）、女性で「わからない」（44.5%）が高く、特に女性に御嵩の良さを分かってもらう必要があると思われます。

【年齢別】

○20 歳以下と 70 歳以上で「自慢できる」（28%以上）、特に 50～59 歳「自慢できない」（41.3%）、40～49 歳と 70 歳以上で「わからない」（約 45%）が高くなっています。

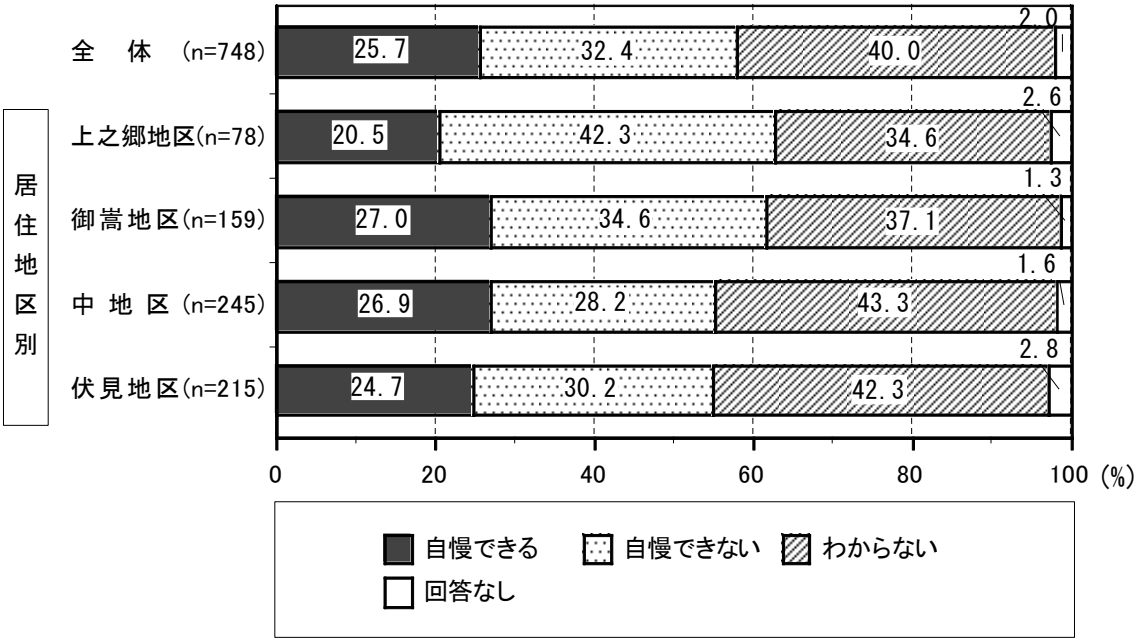
図表 2-2-3　御嵩町を自慢することができるか（性別・年齢別）



【居住地区別】

○上之郷地区で「自慢できない」が 42.3%と、特に高くなっていることが目立ちます。

図表 2-2-4　御嵩町を自慢することができるか（居住地区別）



（３）御嵩町の住みやすさについての項目別評価

問３　御嵩町の住みやすさについてどのように感じますか。次の項目について、**<u>１～５のいずれかの番号</u>**を選んでください。

	項目	住みやすさ				
		住みやすい ←→ 住みにくい				
１	自然の多さ	１	２	３	４	５

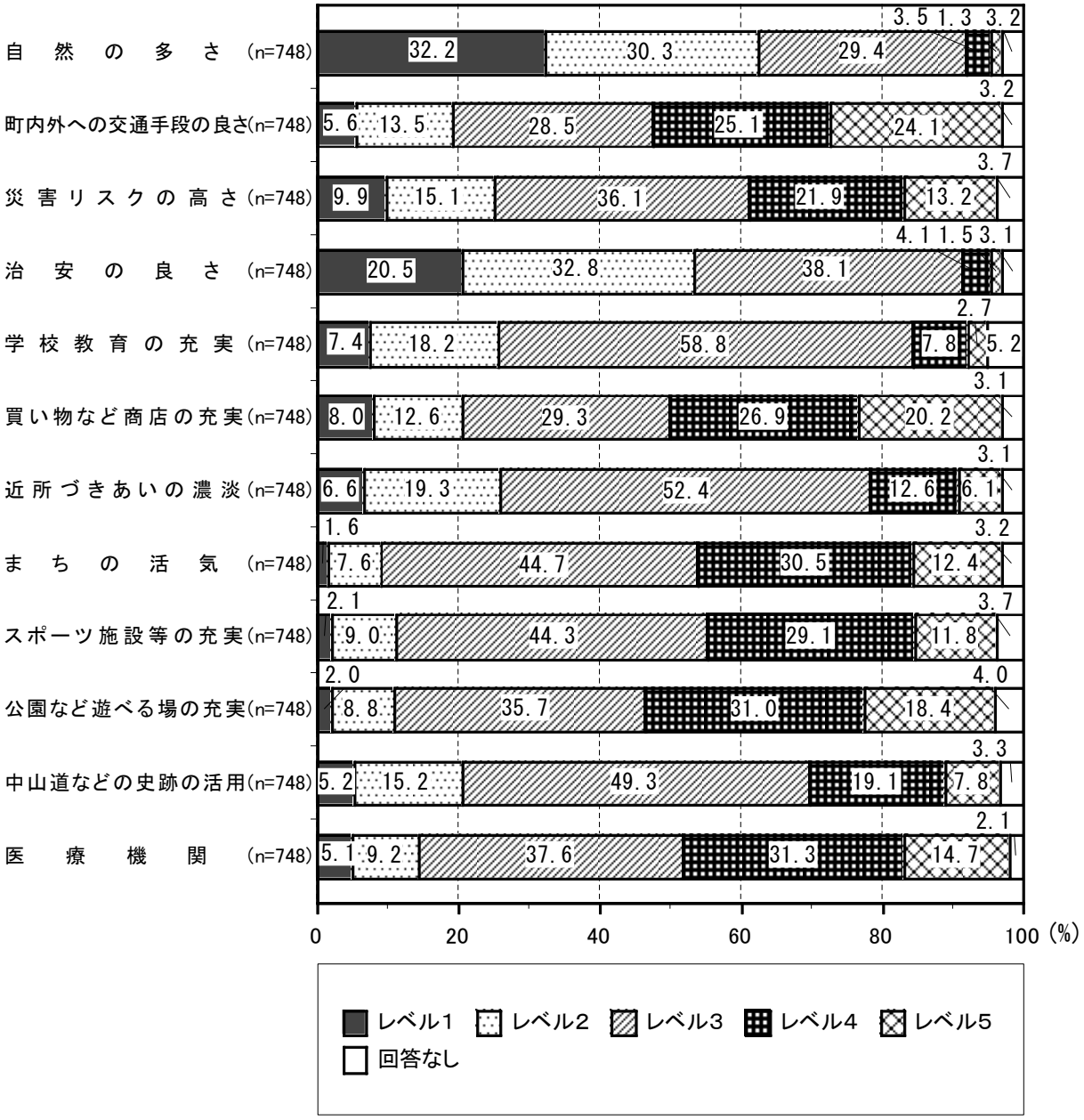
※項目は 12 項目

○項目別の住みやすさの評価について、評価が高い方の「１」、「２」の回答を合わせた割合を見ると、①自然の多さが約 63%、治安の良さが 53%で、特に評価が高くなっています。

○次いで⑦近所づきあいの濃淡、⑤学校教育の充実、③災害リスクの高さがそれぞれ約 25%、⑥買い物など商店の充実⑪中山道などの史跡の活用、②町外、町内への交通手段の良さが約 20%となっています。

○評価が低い項目は、低い方から⑧まちの活気、⑩公園など遊べる場の充実、⑨スポーツ施設等の充実、⑫医療機関というように、地域の活力や子ども、若者、高齢者の過ごしやすさにかかわる項目となっており、定住促進を進める上で課題となります。

図表 2-2-5　御嵩町の住みよさについての項目別評価



（４）御嵩町での居住意向

問４　あなたは、これからも御嵩町に住み続けたいと思いますか。１つ選んでください。

【全体】

○住み続けたいと「思う」が 55.2%、「思わない」が 7.6%で、定住の意向がある回答がない回答の８倍程度と多くなっています。「わからない」は 31.1%見られます。

○2014 年度調査結果では「思う」が 63.7%であり、今回は９ポイント程度低くなっています。

【性別】

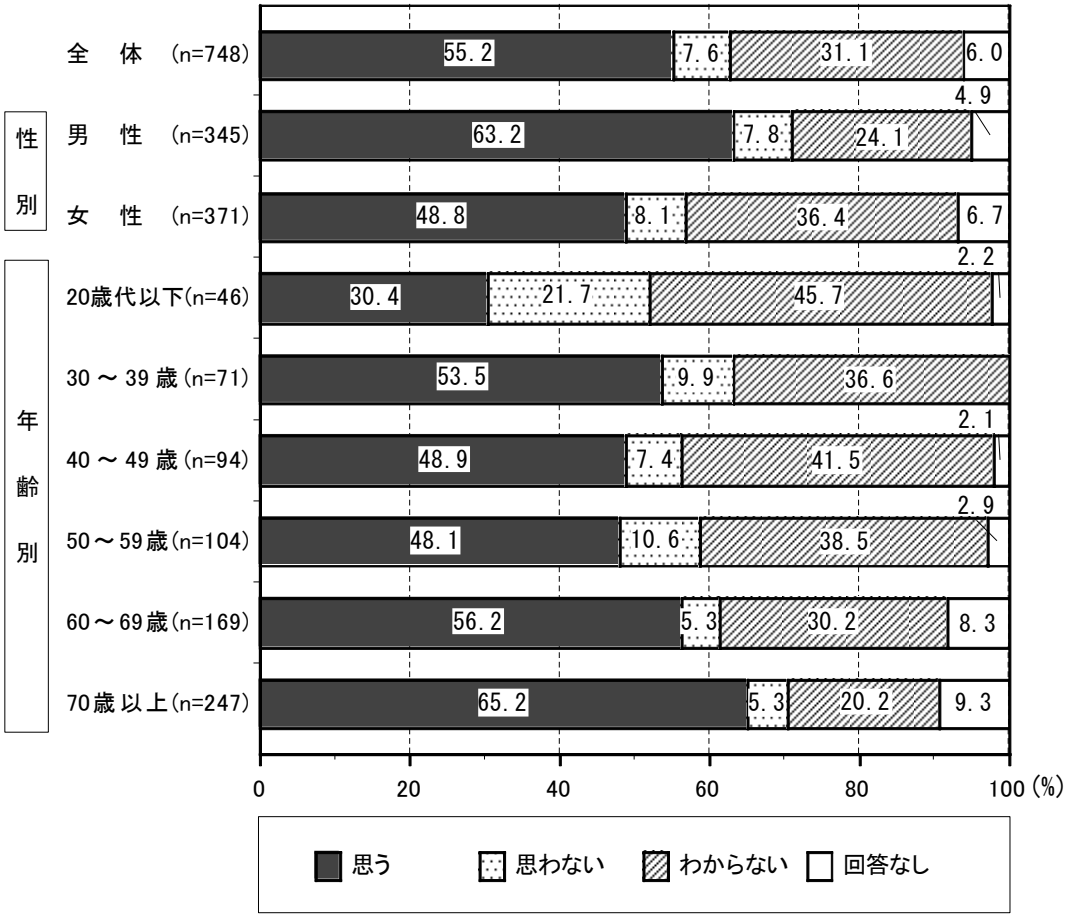
○男性で「思う」が 63.2%で女性より 15 ポイント程度高くなっており、女性では「わからない」が 36.4%と男性より高くなっています。

【年齢別】

○70 歳以上では「思う」が 65.2%と特に高くなっていますが、20 歳代以下では 30.4%にとどまっています。

○「思わない」は 20 歳代以下（21.7%）と 50～59 歳（10.6%）で高く、さらに「わからない」は 59 歳以下の層で高くなっており、中年以下の定住意識を高めることが課題です。

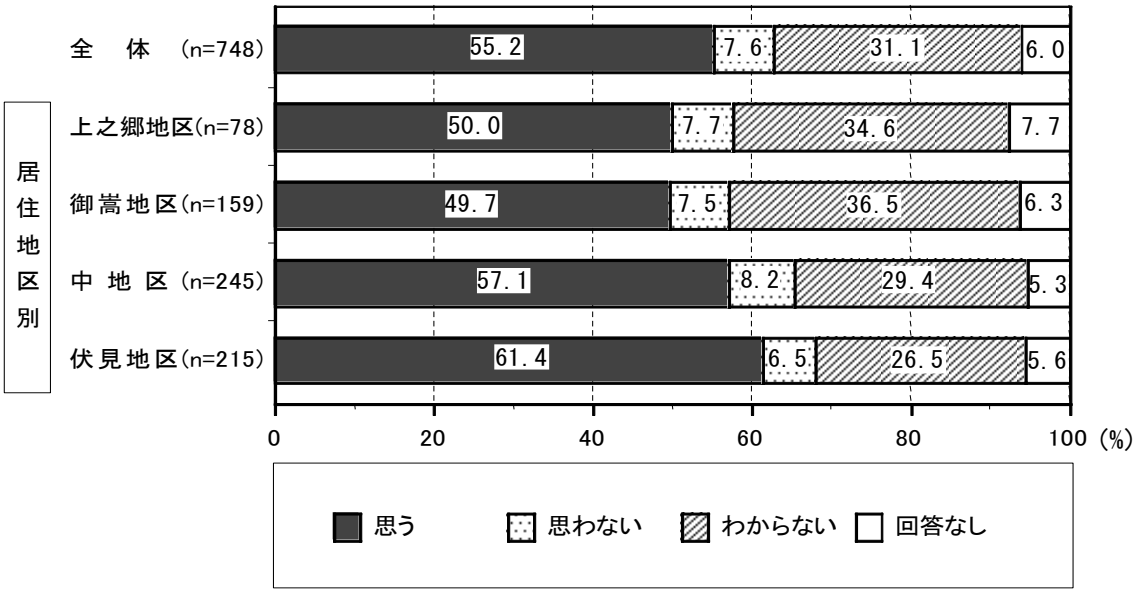
図表 2-2-6　御嵩町での居住意向（性別・年齢別）



【居住地区別】

○伏見地区で「思う」が 61.4%と、特に高くなっていることが目立ちます。

図表 2-2-7　御嵩町での居住意向（居住地区別）



3　町の施策全般について

（１）満足の回答割合

問５　**（１）～（31）のそれぞれの**まちづくりの施策について、どの程度**満足**していますか。また、今後の**重要度**はどのくらいですか。**１～５のいずれかの番号**を選んでください。

	Ａ．これまでの満足度					Ｂ．今後の重要度				
	満足	まあ満足	ふつう	やや不満	不満	特に重要	重要	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
（1）自然環境の保全	１	２	３	４	５	１	２	３	４	５

○「満足」と「やや満足」という回答を足した割合を見ると、「ごみ減量、リサイクルへの取り組み」が 37.2%、「自然環境の保全」が 32.4%、「亜炭鉱廃坑への対策」が 24.3%と、環境、防災面の項目が高くなっています。

○満足の割合が低い項目は、「農業者の育成」、「商業環境の整備」、「農業基盤の整備」、「観光の振興」という産業面、「住民が主体となる活動の支援」、「女性の社会参加の促進」という参加・活動面の項目や「効率的な行政運営」、「医療体制の充実」、「公園や緑地の整備」となっています。

【2014 年度調査との比較】

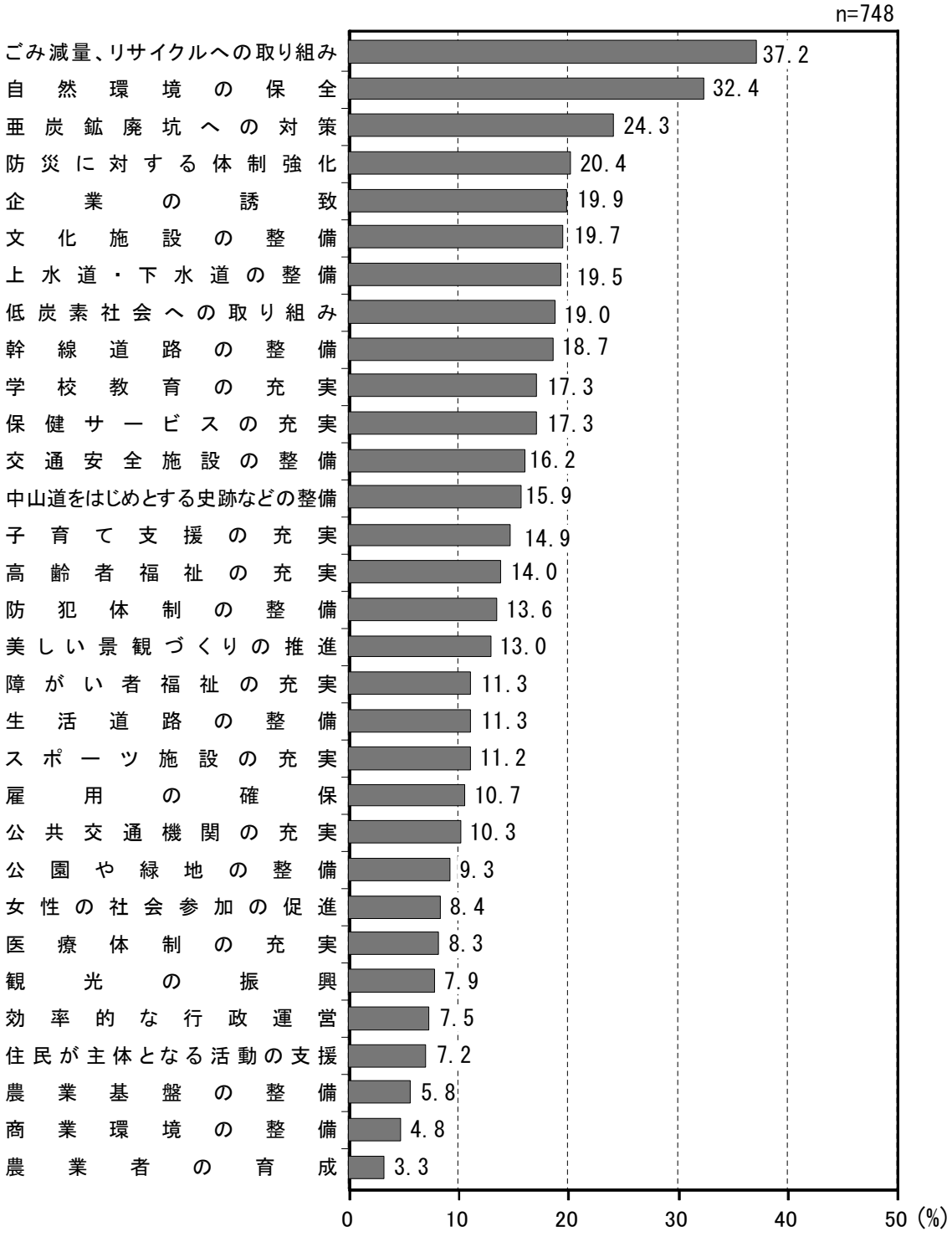
○2014 年度調査よりも満足度が５％以上高まった項目は、次のとおりであり、総合戦略における環境、防災、雇用対策等の取組みの成果や、取組む姿勢が評価されたものと思われます。

・自然環境の保全
・亜炭鉱廃坑への対策
・　防災に対する体制強化
・企業の誘致
・低炭素社会への取り組み
・雇用の確保

○満足度が５％以上低くなった項目は、ごみ減量、リサイクルへの取り組み、上水道・下水道の整備など、2014 年時点で既に進んでいた項目と考えられます。

○総合戦略の指標として使われている３項目は次のように、今回高くなっています。
・亜炭鉱廃坑への対策　（2014）13.1%→（今回）24.3%
・防災に対する体制強化　12.3%→20.4%
・学校教育の充実　14.5%→17.3%

図表 2-3-1　満足度（「満足」＋やや満足）



図表 2-3-2　満足度（2014 年度調査との比較）

（%）

		今回	2014年度	今回－2014
3	ごみ減量、リサイクルへの取り組み	37.2	42.9	△ 5.7
1	自然環境の保全	32.4	23.7	8.7
21	亜炭鉱廃坑への対策	24.3	13.1	11.2
6	防災に対する体制強化	20.4	12.3	8.1
18	企業の誘致	19.9	12.1	7.8
23	文化施設の整備	19.7	24.5	△ 4.8
28	上水道・下水道の整備	19.5	35.5	△ 16.0
2	低炭素社会への取り組み	19.0	9.8	9.2
26	幹線道路の整備	18.7	45.8	△ 27.1
4	学校教育の充実	17.3	14.5	2.8
13	保健サービスの充実	17.3	17.2	0.1
8	交通安全施設の整備	16.2	25.3	△ 9.1
22	中山道をはじめとする史跡などの整備	15.9	11.0	4.9
10	子育て支援の充実	14.9	15.4	△ 0.5
12	高齢者福祉の充実	14.0	13.6	0.4
7	防犯体制の整備	13.6	14.1	△ 0.5
24	美しい景観づくりの推進	13.0	14.2	△ 1.2
11	障がい者福祉の充実	11.3	12.2	△ 0.9
27	生活道路の整備	11.3	26.4	△ 15.1
9	スポーツ施設の充実	11.2	11.5	△ 0.3
19	雇用の確保	10.7	5.2	5.5
25	公共交通機関の充実	10.3	14.1	△ 3.8
29	公園や緑地の整備	9.3	13.2	△ 3.9
5	女性の社会参加の促進	8.4	4.7	3.7
20	医療体制の充実	8.3	11.3	△ 3.0
15	観光の振興	7.9	6.2	1.7
30	効率的な行政運営	7.5	6.3	1.2
31	住民が主体となる活動の支援	7.2	6.9	0.3
14	農業基盤の整備	5.8	4.3	1.5
17	商業環境の整備	4.8	3.6	1.2
16	農業者の育成	3.3	2.9	0.4

（注）前回 2014 年度調査において評価対象として示した項目が若干異なる。上水道・下水道の整備については前回分けていた項目であり、その平均を前回結果として示している。

（２）満足度と重要度

○満足度が低く、重要度が高い今後の政策課題を考える上で参考になる項目は、下記のようになっています（満足の評点が低い順）。特に、高齢化が進むことへの対策にかかわる項目が多くなっています。

・商業環境の整備
・公共交通機関の充実
・医療体制の充実
・生活道路の整備
・効率的な行政運営
・雇用の確保
・交通安全施設の整備

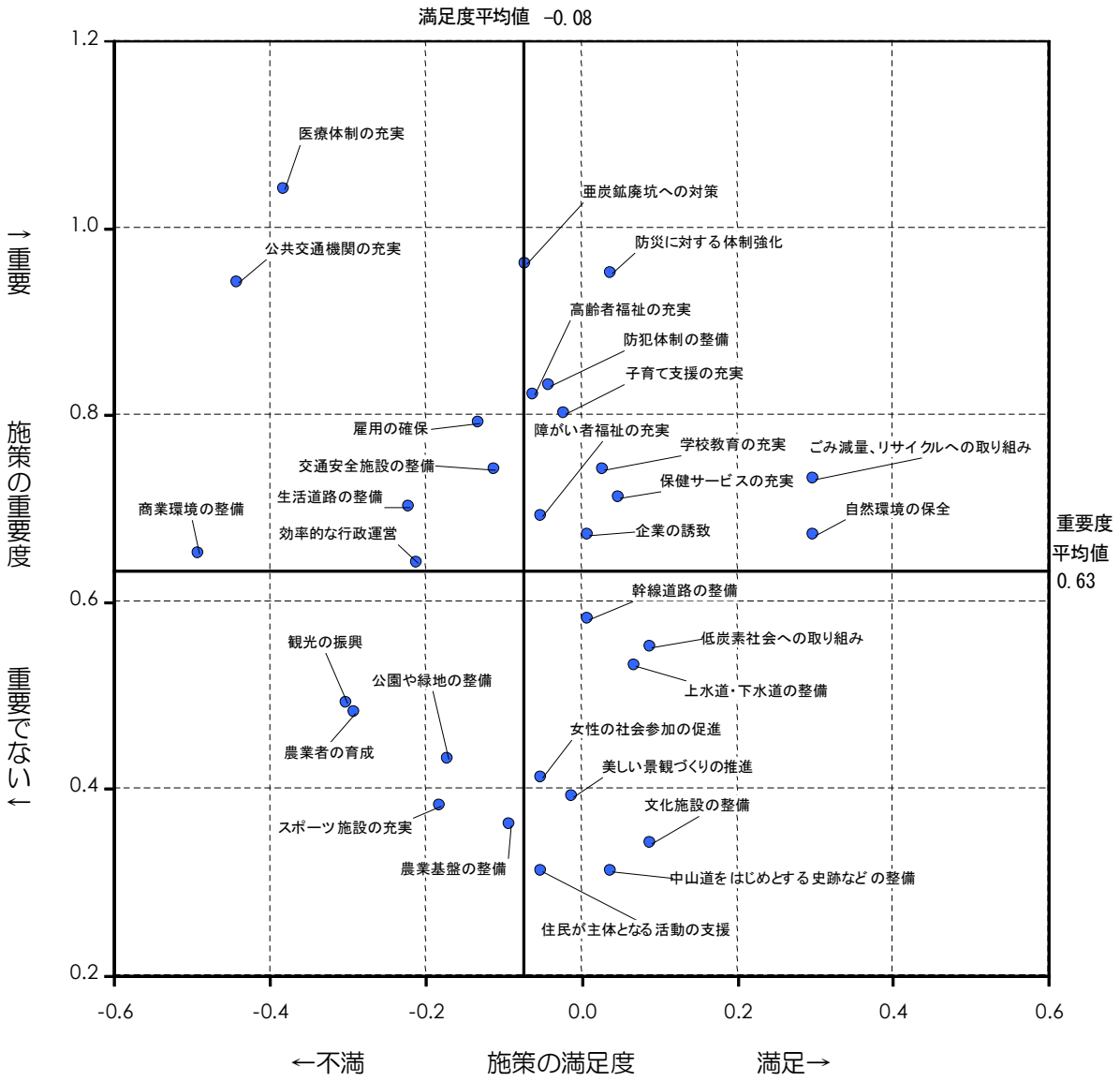
○満足度も重要度も高い項目には、「ごみ減量、地サイクルへの取組み」、「自然環境の保全」、「防災に対する体制強化」、「保健サービスの充実」など、安心した生活にかかわる項目が目立ち、引き続き今まで程度の施策を進めていくことが必要と考えられます。

評点の算出方法について

満足度の評点は「満足」を２点、「やや満足」を１点、「やや不満」を－１点、「不満」を－２点として、それぞれ回答数に欠けて合計して、これらの回答総数で割った点数を示しています。

重要度についても、同様に回答にウエイトを付けて算出しています。

図表 2-3-3　重要度と満足度の評点



（３）御嵩町が特に力を入れるべき施策

問６　問５の項目の中で、御嵩町が今後特に力を入れるべき項目はどのようなこととお考えですか。**問５の（１）～（31）のうち**で**３つまで**番号を選んで**下の欄にご記入**ください。

【全体】

○今後特に力を入れるべきこととしては、「医療体制の充実」と「公共交通機関の充実」が約 28%、次いで「亜炭鉱廃坑への対策」と「高齢者福祉の充実」が約 20%、「防災に対する体制強化」が 15.8%、「子育て支援の充実」が 13.8%となっています。このように、医療・福祉、公共交通、防災に回答が集まっています。

○そのほかでは「企業の誘致」と「効率的な行政運営」、「雇用の確保」、「生活道路の整備」、「学校教育の充実」が約 10%で並んでいます。

【性別】

○男性で「企業誘致」が 14.2%と女性よりもやや高くなっていますが、性別で大きな差はありません。

【年齢別】

○20 歳代以下では「商業環境の整備」（17.4%）と「亜炭鉱廃坑への対策」（28.3%）、「生活道路の整備」（15.2%）が、他の年齢層よりも特に高く、また、50～59 歳でも「亜炭鉱廃坑への対策」（28.8%）が高くなっています。

○30～59 歳で「防災対策の強化」（約 21%）、30～49 歳で「子育て支援の充実」（30～39 歳で 31.0%）、「公園や緑地の整備」（約 10%）が、他の年齢層よりも高くなっています。さらに、30～39 歳では「学校教育の充実」（18.3%）、「美しい景観づくりの推進」（9.9%）、50～59 歳で「障がい者福祉の充実」（8.7%）も他の年齢層よりも高くなっています。

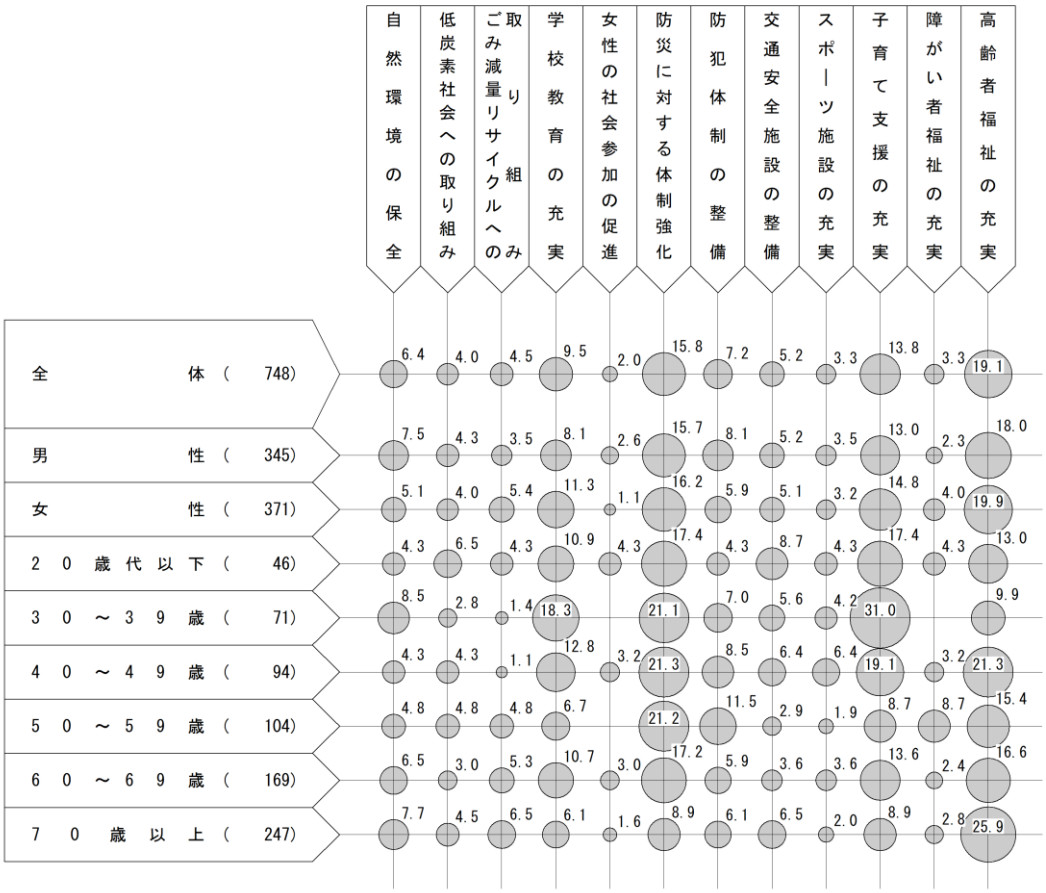
○70 歳以上では「高齢者福祉の充実」（25.9%）が、特に高くなっています。

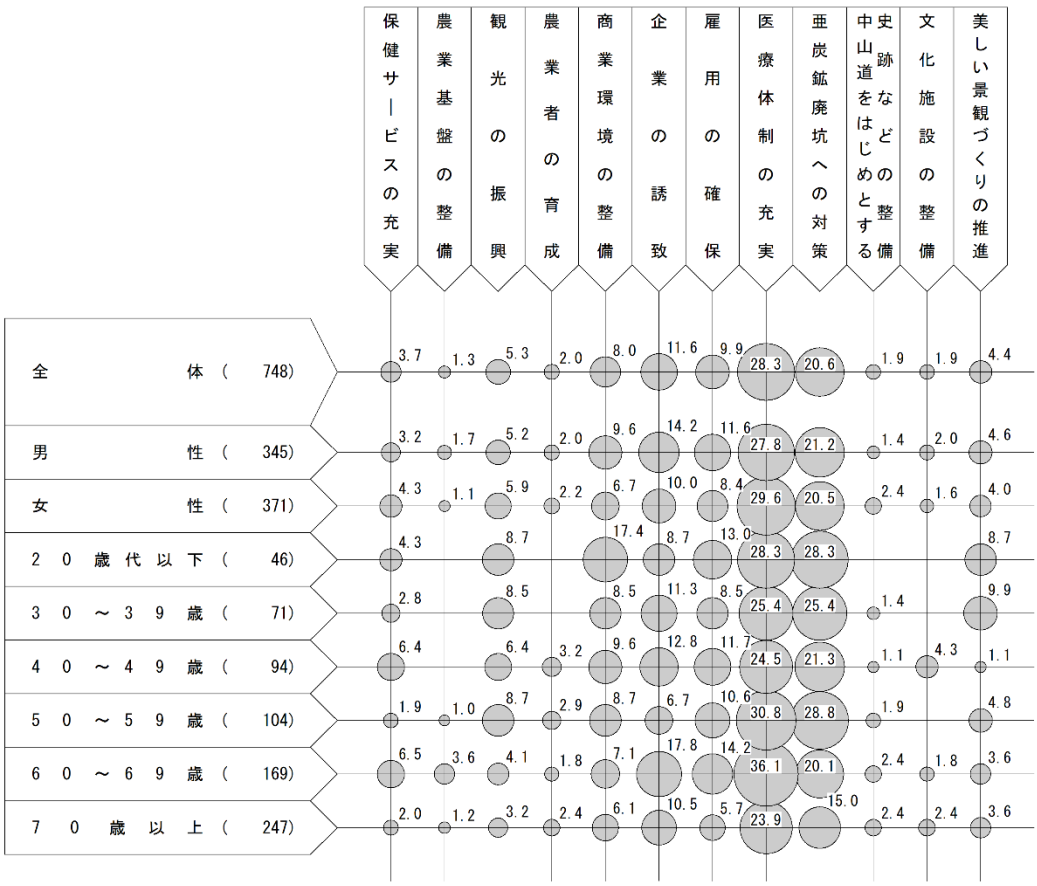
【居住地区別】

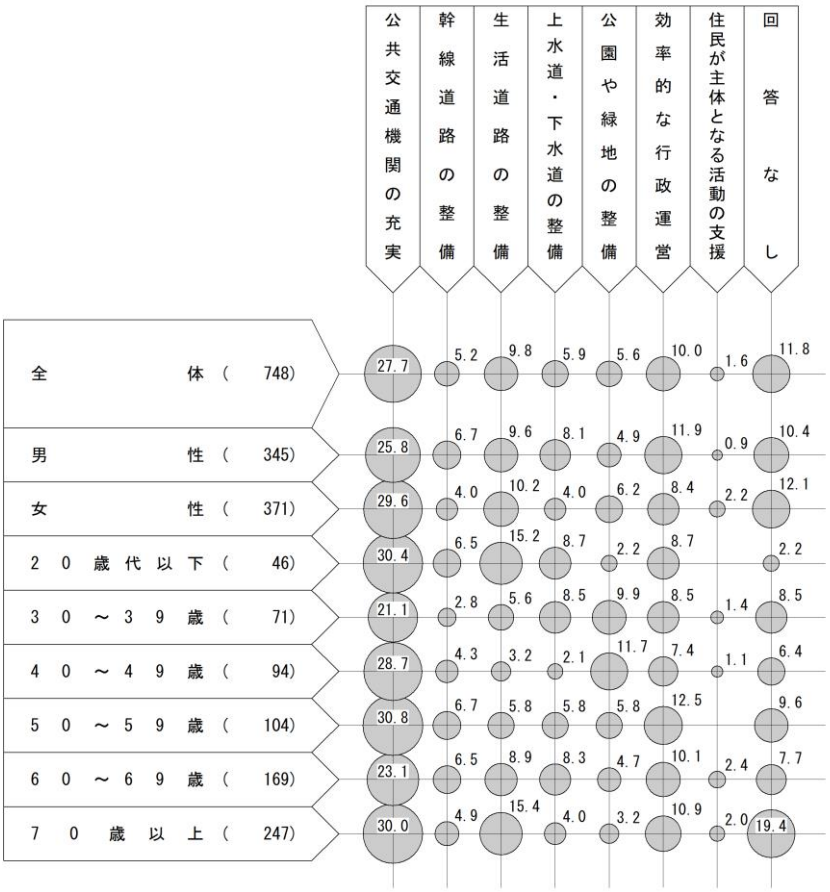
○特に上之郷地区の回答に特徴があり、「自然環境の保全」（10.3%）、「高齢者福祉の充実」（23.1%）、「雇用の確保」（15.4%）、「生活道路の整備」（16.7%）、「上水道・下水道の整備」（15.4%）が、他の地区よりも高くなっています。

○伏見地区では、「子育て支援の充実」（18.1%）が他の地区よりも高いのが目立っています。

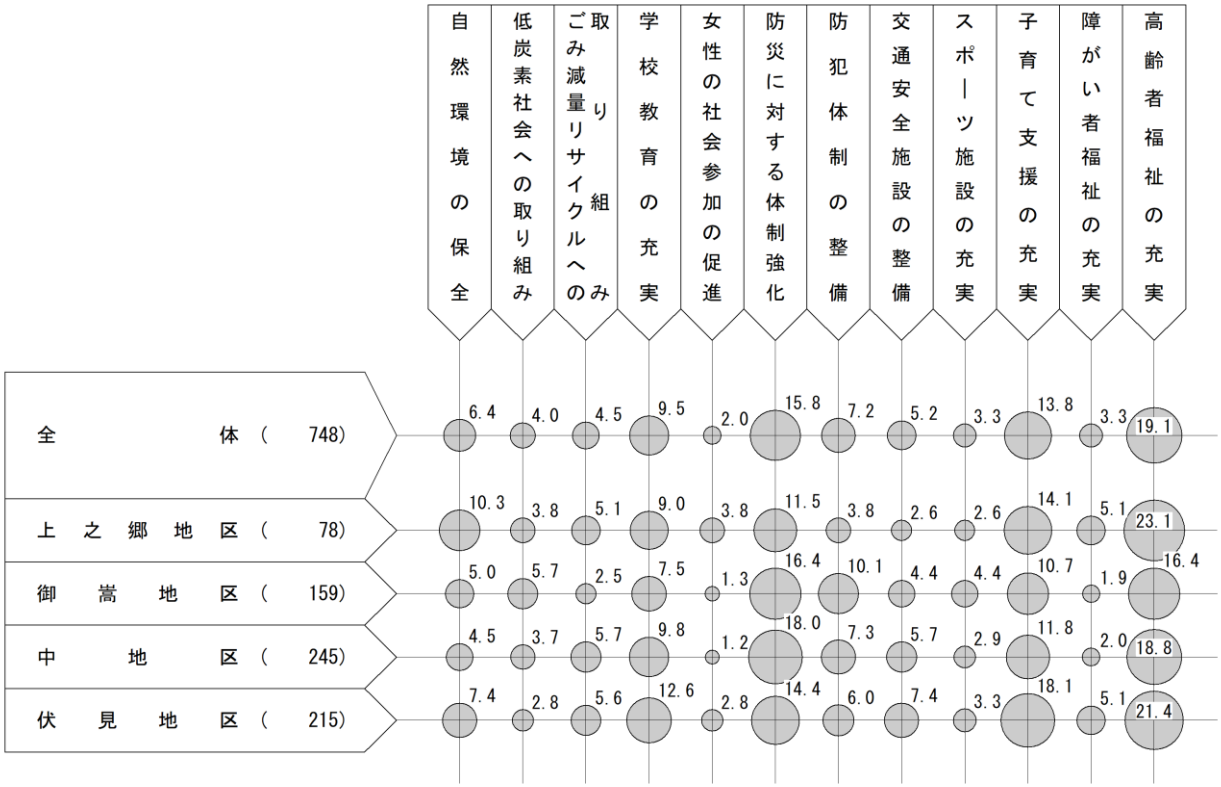
図表 2-3-4　御嵩町が特に力を入れるべき施策（性別・年齢別）

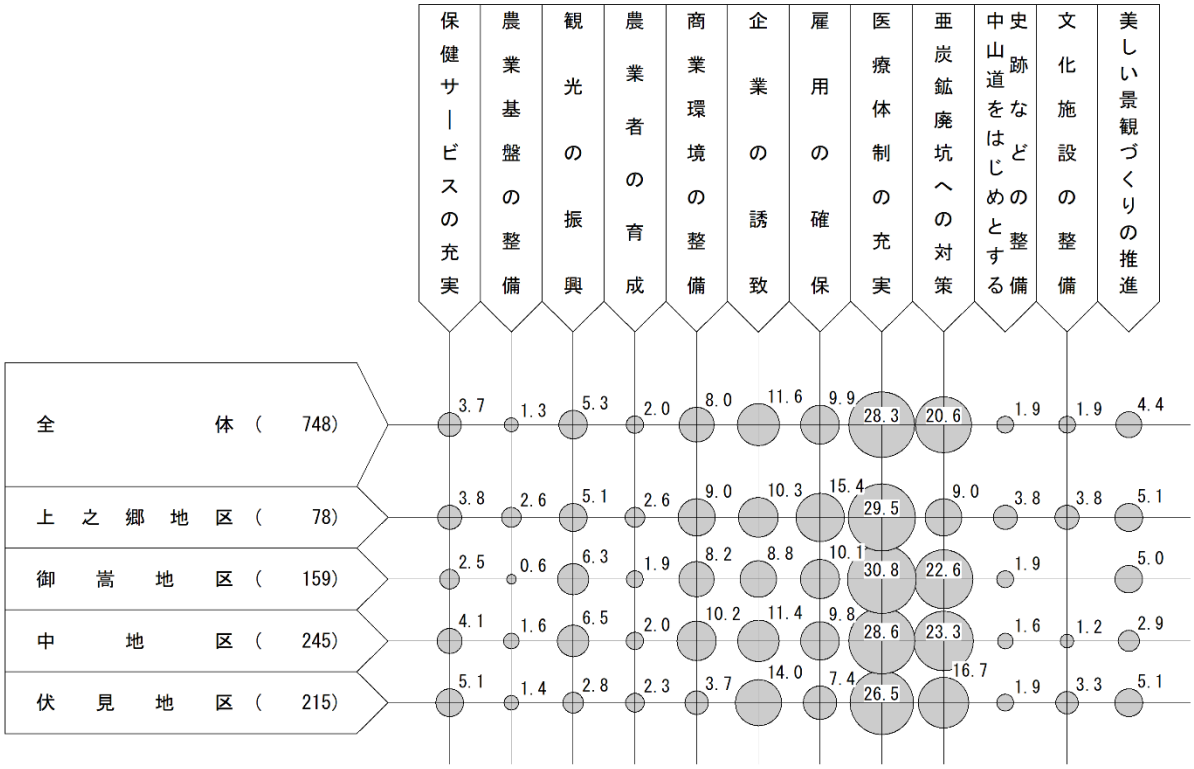





公共交通機関の充実
幹線道路の整備
生活道路の整備
上水道・下水道の整備
公園や緑地の整備
効率的な行政運営
住民が主体となる活動の支援
回答なし
全体（ 748）
27.7 5.2 9.8 5.9 5.6 10.0 1.6 11.8
男性（ 345）
25.8 6.7 9.6 8.1 4.9 11.9 0.9 10.4
女性（ 371）
29.6 4.0 10.2 4.0 6.2 8.4 2.2 12.1
20歳代以下（ 46）
30.4 6.5 15.2 8.7 2.2 8.7 2.2
30～39歳（ 71）
21.1 2.8 5.6 8.5 9.9 8.5 1.4 8.5
40～49歳（ 94）
28.7 4.3 3.2 2.1 11.7 7.4 1.1 6.4
50～59歳（ 104）
30.8 6.7 5.8 5.8 5.8 12.5 9.6
60～69歳（ 169）
23.1 6.5 8.9 8.3 4.7 10.1 2.4 7.7
70歳以上（ 247）
30.0 4.9 15.4 4.0 3.2 10.9 2.0 19.4

図表 2-3-5　御嵩町が特に力を入れるべき施策（居住地区別）





４　まちづくりを進めてきた成果について

問７　御嵩町では人口の定住やまちの活性化に向けた取組みを進めてきましたが、次の各項目について、この数年の間で効果が上がってきたと感じていますか。**１～５のいずれかの番号**を選んでください。

設　問	はい ←→ いいえ				わからない
（１）環境を大切にするまちづくりで活性化してきた	１	２	３	４	５

※項目は７項目

【参考】

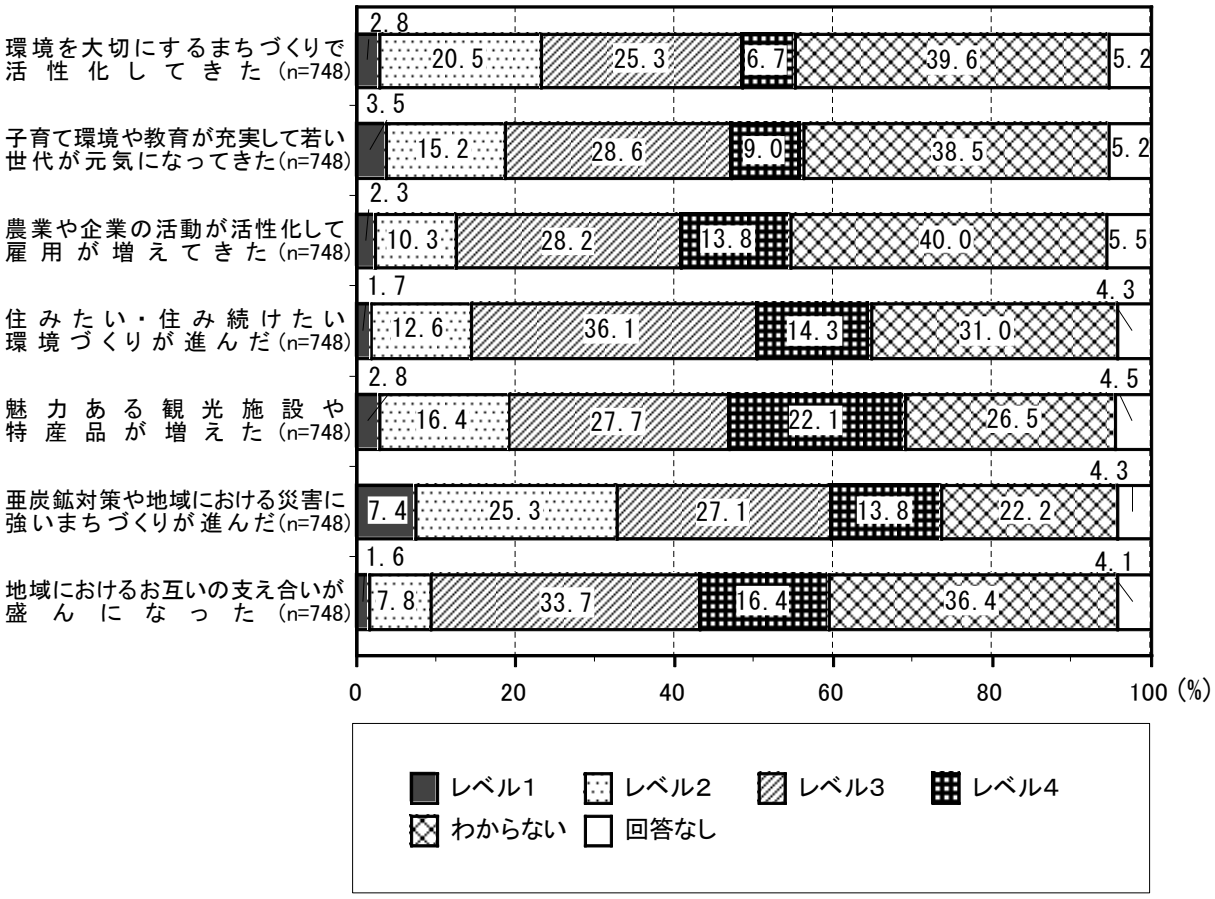
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
人口（当年４月１日現在）	18,718 人	18,557 人	18,445 人
CO2 排出量	17.5t	18.5t	18.3t
工業団地における町内居住従業員率	19.0%	20.9%	22.2%
空き家バンク制度を活用した移住者数	3 人	0 人	6 人
自主運行バス利用者数	22,618 人	23,522 人	24,069 人
古民家を活用した交流拠点施設	0 か所	0 か所	1 か所
特産品「みたけのええもん」認定数	16 品目	18 品目	19 品目
防災リーダー数（町内在住者）	150 人	174 人	193 人

○効果が上がった方の評価「１」、「２」を合わせた割合を見ると、⑥亜炭鉱対策や地域における災害に強いまちづくりが進んだが約 33%と高くなっています。

○次いで、①環境を大切にするまちづくりで活性化してきたが約 23%、⑤魅力ある観光施設や特産品が増えたと、②子育て環境や教育が充実して若い世代が元気になってきたが 20%弱です。

○④住みたい・住み続けたい環境づくりが進んだ（約 14%）、③農業や企業の活動が活性化して雇用が増えてきた（約 13%）、⑦地域におけるお互いの支え合いが盛んになった（約９%）は、効果が上がったという評価は低くなっています。

図表 2-4-1　まちづくりを進めてきた成果



5　日ごろの生活や活動について

（１）日常生活や地域活動への参加状況

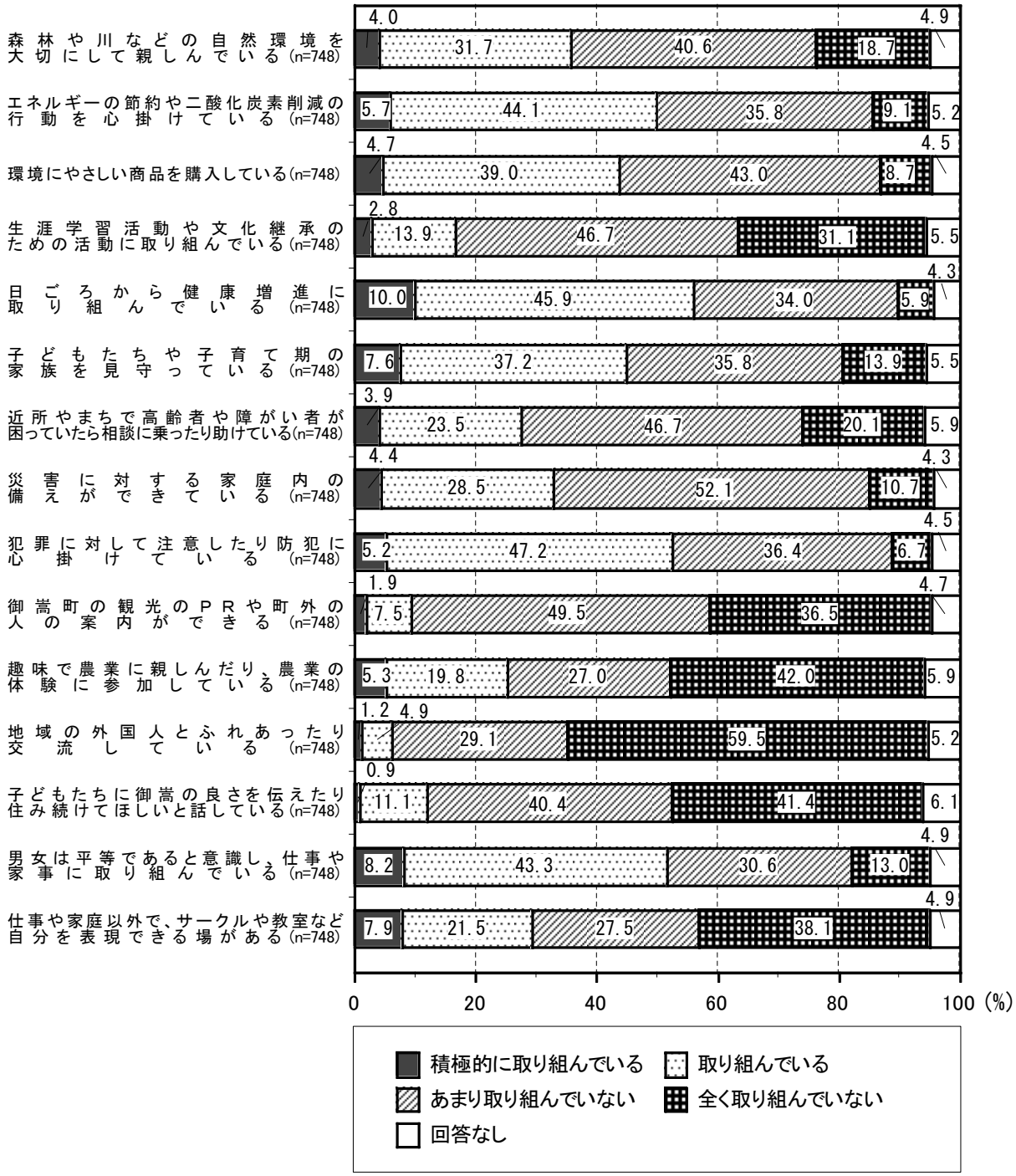
問８　あなたの日常生活や地域活動等への参加状況についてお答えください。**（１）～（15）それぞれ**の項目について、あなたのお考えや行動に最も近いものについて**１～４いずれかの番号**を選んでください。

	積極的に取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない
（１）森林や川などの自然環境を大切にして親しんでいる	１	２	３	４

○取り組んでいる（「積極的に取り組んでいる」＋「取り組んでいる」）の割合を見ると、(5)日ごろから健康増進に取り組んでいるが約 56%が最も高くなっています。次いで、(9)犯罪に対して注意したり防犯に心掛けていると(14)男女は平等であると意識し、仕事や家事に取り組んでいる、(2)エネルギーの節約や二酸化炭素削減の行動を心掛けているが半数程度見られます。

○さらに、(6)子どもたちや子育て期の家族を見守っていると、(3)環境にやさしい商品を購入しているが 45%程度、森林や川などの自然環境を大切にして親しんでいる（36%）、災害に対する家庭内の備えができている（33%）が高くなっており、全体的に健康増進や男女共同参画、防犯、環境保全へ取り組んでいることが目立ちます。

図表 2-5-1　日常生活や地域活動への参加状況



（２）参加している地域活動やボランティア活動

問９　あなたは、どのような地域の活動やボランティア活動に参加していますか。特に参加している・力を入れている活動を次の 1～32 のなかから**５つまで**選んでください。

【全体】

○「自治会などの地域活動」が 31.4%、「ごみの減量化、リサイクル活動」が 26.9%と高くなっています。

○次いで、「趣味・余暇のサークル活動」と「伝統文化の継承、保護」が 10%強で、「健康づくり活動」と「スポーツのサークル活動」、「名鉄・公共交通の利用促進の活動」が 10%弱となっており、地域活動、環境や生涯学習・文化関連のほか公共交通の利用促進のための取組みが行われていることが注目できます。

○一方、「地域活動やボランティア活動には全く参加していない」が 25.7%であり、これらの層の参加を促すことが課題と思われます。

【性別】

○男性で「自治会などの地域活動」38.3%と、特に高くなっています。

○女性では「ごみの減量化、リサイクル活動」（32.1%）、「趣味・余暇のサークル活動」（15.4%）、「子育て支援」（9.4%）が男性よりも高くなっています。

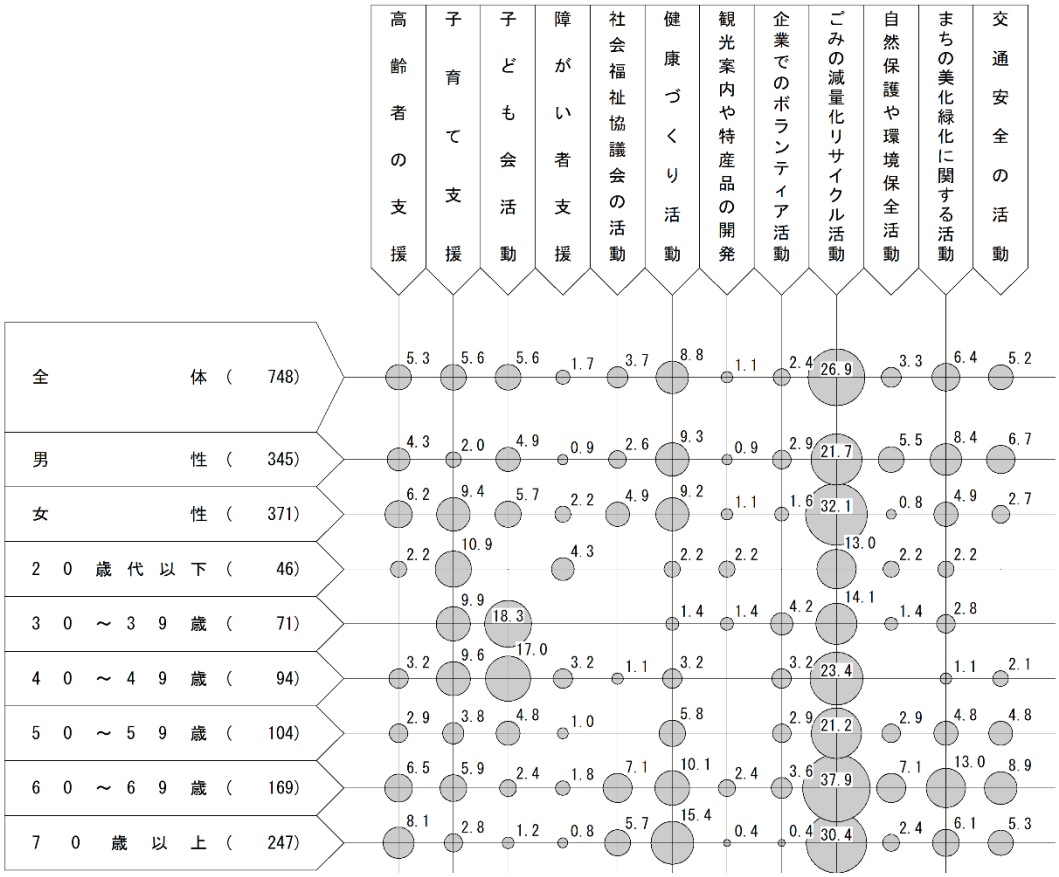
【年齢別】

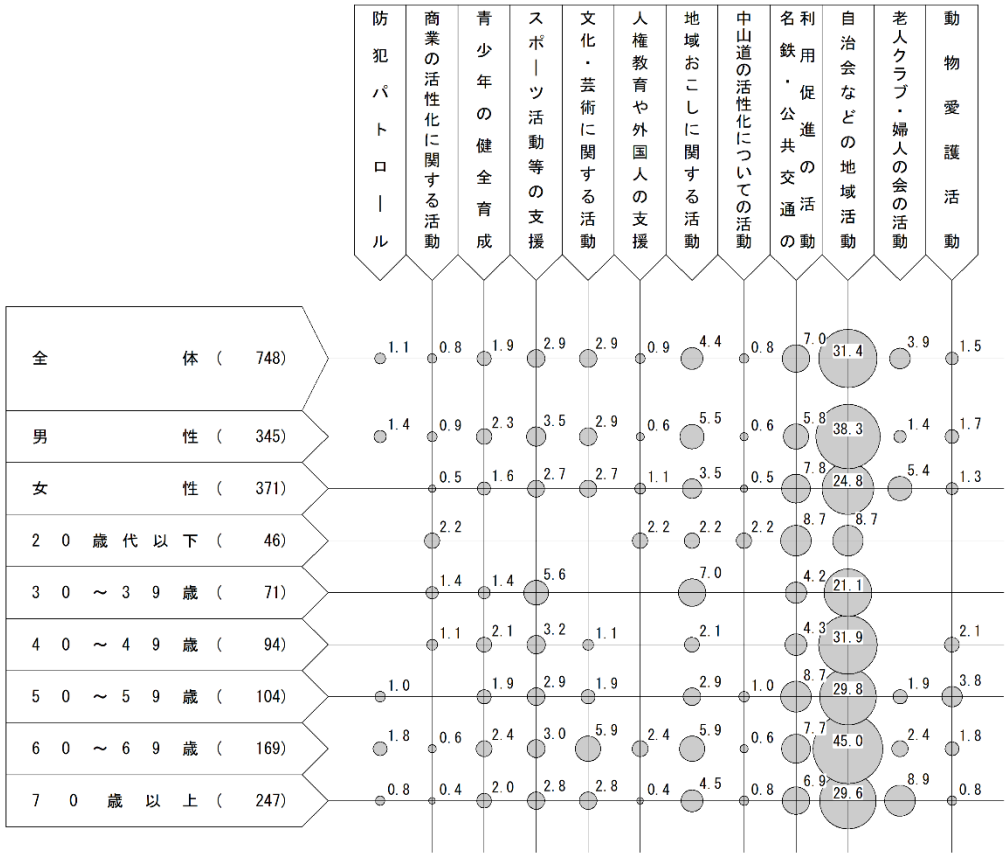
○49 歳以下の若い層で「子育て支援」（約 10%）、30～49 歳で「子ども会活動」（17%以上）、20 歳代以下で「スポーツのサークル活動」（13.0%）が、他の年齢層よりも高くなっています。

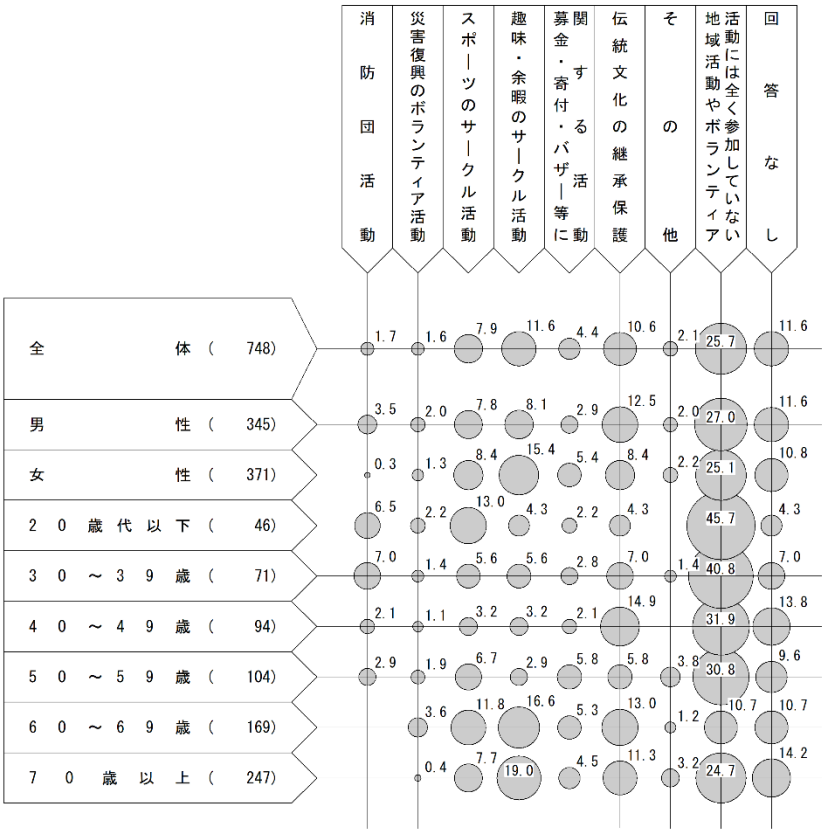
○60 歳以上の高齢層で「趣味・余暇のサークル活動」（16%以上）、60～69 歳で「自治会などの地域活動」（45.0%）が特に高く、「まちの美化、緑化に関する活動」（13.0%）も他の年齢層より高く、高齢の層が自治会や地域活動の担い手となっています。このほか 70 歳以上では「健康づくり活動」（15.4%）が、他の年齢層よりも高くなっています。

○59 歳以下で「地域活動やボランティア活動には全く参加していない」が 30%以上見られ、若くなるにしたがって高くなっています。

図表 2-5-2　参加している地域活動やボランティア活動（性別・年齢別）






消防団活動
災害復興のボランティア活動
スポーツのサークル活動
趣味・余暇のサークル活動
募金・寄付・バザー等に関する活動
伝統文化の継承保護
その他
地域活動やボランティア活動には全く参加していない
回答なし
全体（748）
男性（345）
女性（371）
20歳代以下（46）
30～39歳（71）
40～49歳（94）
50～59歳（104）
60～69歳（169）
70歳以上（247）
1.7 1.6 7.9 11.6 4.4 10.6 2.1 25.7 11.6
3.5 2.0 7.8 8.1 2.9 12.5 2.0 27.0 11.6
0.3 1.3 8.4 15.4 5.4 8.4 2.2 25.1 10.8
6.5 2.2 13.0 4.3 2.2 4.3 45.7 4.3
7.0 1.4 5.6 5.6 2.8 7.0 1.4 40.8 7.0
2.1 1.1 3.2 3.2 2.1 14.9 31.9 13.8
2.9 1.9 6.7 2.9 5.8 5.8 3.8 30.8 9.6
3.6 11.8 16.6 5.3 13.0 1.2 10.7 10.7
0.4 7.7 19.0 4.5 11.3 3.2 24.7 14.2

6　まちづくりの進め方や方向について

（1）子どもや若者にとっての住み続ける魅力の有無

問 10　御嵩町は子どもや若者にとって住み続ける魅力があると思いますか。<u>1つ</u>選んでください。

【全体】

○子どもや若者にとって住み続ける魅力があると「思う」は 20.5%にとどまり、「思わない」が 31.6%と「思う」の 1.5 倍となっています。「わからない」が 43.4%と多くなっています。

○2014 年度調査結果では「思う」が 18.4%であり、今回は若干高くなっています。

【性別】

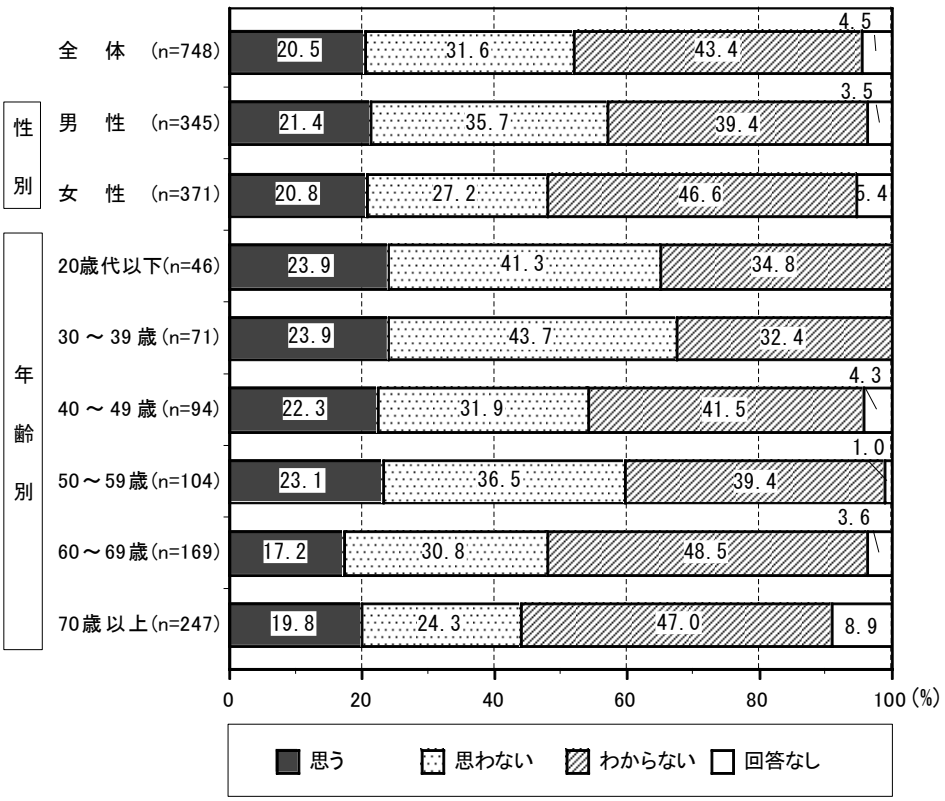
○男性で「思わない」が 35.7%と女性よりも高く、女性では「わからない」が 46.6%に達しています。

【年齢別】

○39 歳以下で「思う」（23.9%）、「思わない」（41%以上）ともに、他の年齢層よりも高く、50～59 歳でも「思わない」（36.5%）が高くなっています。

○女性や若い年齢層が魅力を感じることができるまちづくりの充実が求められています。

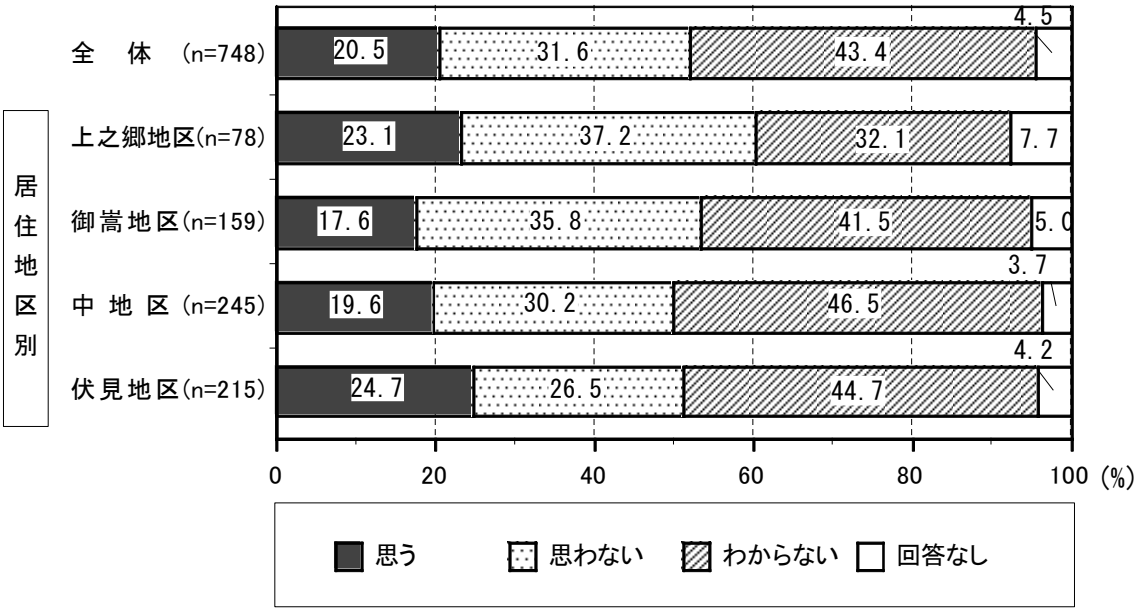
図表 2-6-1　子どもや若者にとっての住み続ける魅力の有無（性別・年齢別）



【居住地区別】

○伏見地区で「思う」（24.7%）が他の地区より高く、上之郷地区と御嵩地区で「思わない」（35%以上）が高くなっています。

図表 2-6-2　子どもや若者にとっての住み続ける魅力の有無（居住地区別）



（２）「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージの有無

問 11　御嵩町は、ほかの町の人から見て「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージを持っていると思いますか。１つ選んでください。

【全体】

○ほかの町の人から見て住んでみたい、訪れてみたいと町のイメージがあると「思う」は 9.4%にとどまり、「思わない」が 48.1%と「思う」の５倍以上となっています。「わからない」が 38.1%となっています。

○2014 年度調査結果では「思う」が 6.2%であり、今回はやや高くなっています。

【性別】

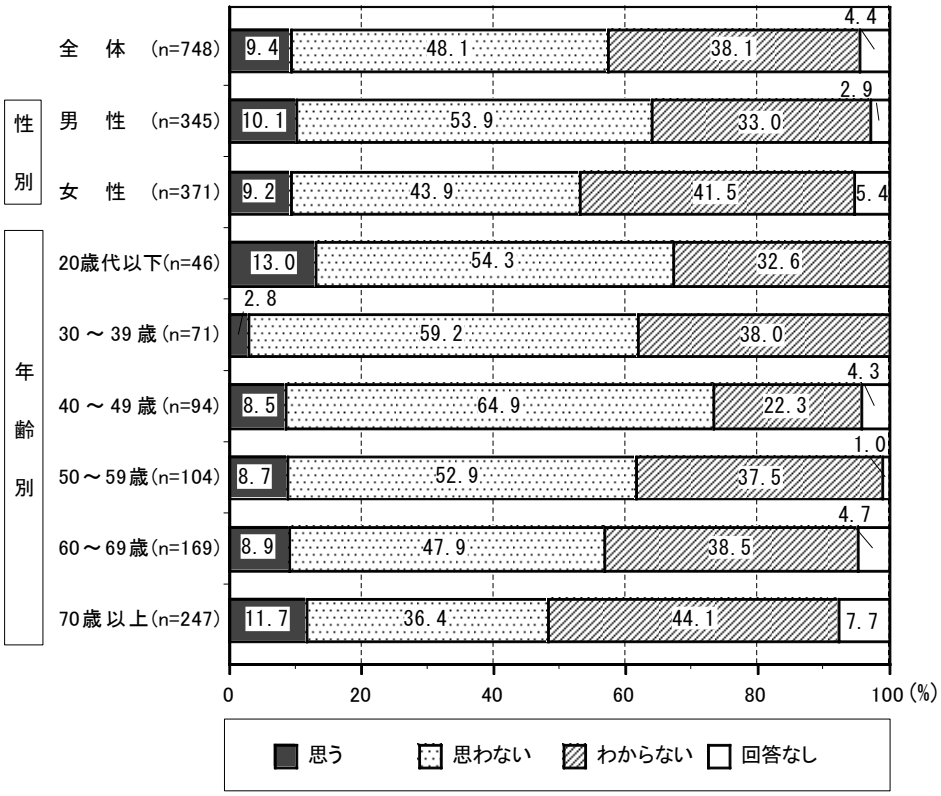
○男性で「思う」が 53.9%と高く、女性では「わからない」が 41.5%と男性よりも高くなっています。

【年齢別】

○20 歳以下で「思う」（13.0%）が他の年齢層よりも高なっています。20 歳代以下も含む 59 歳以下で、「思わない」（52%以上）が他の年齢層で高く、特に 40～49 歳では 64.9%も見られます。

○本町は中年から若い年齢層が住み続けることができる魅力づくりとともに、対外的なイメージの改善や、町民が誇りを持つことが課題と言えます。

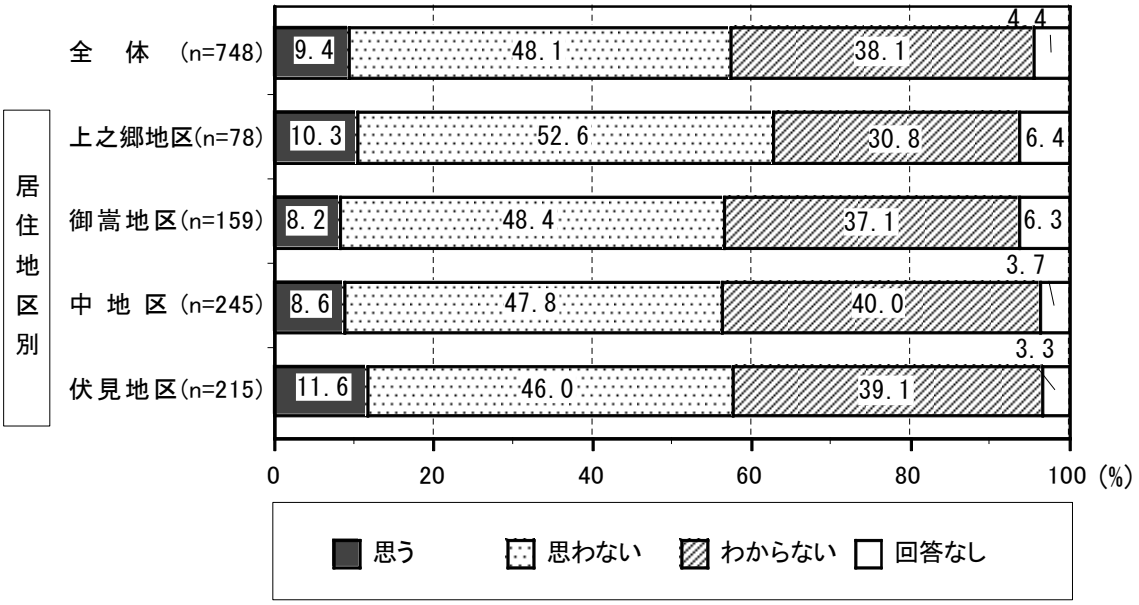
図表 2-6-3　「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージの有無（性別・年齢別）



【居住地区別】

○「思う」が高いのが目立つ地区はなく、上之郷地区で「思わない」（52.6%）が高くなっています。同地区の自然が豊かな特性を生かしながら、住みやすさやその魅力づくり、活力などを高めることが課題と思われます。

図表 2-6-4　「住んでみたい町」、「訪れてみたい町」というイメージの有無（居住地区別）



（３）若い人の定住や移住促進のための方策

問 12　人口の維持・増加は全国的な課題となっていますが、あなたは、御嵩町に若い人が住み続けることができたり、住む人を増やしたりするためには、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。**３つまで**選んでください。

【全体】

○「公共交通の維持・充実」と「雇用の場づくり」がそれぞれ約 45%、「買い物の便の向上」と「子育て支援・子育て環境の充実」、「福祉や医療制度の充実」が 30%強、「学校・教育の充実　」が 20.2%となっています。このように生活の利便性と子育て、教育などが挙げられています。

【性別】

○女性で「公共交通の維持・充実」が 49.3%、「買い物の便の向上」が 37.5%と、男性よりも高くなっています。

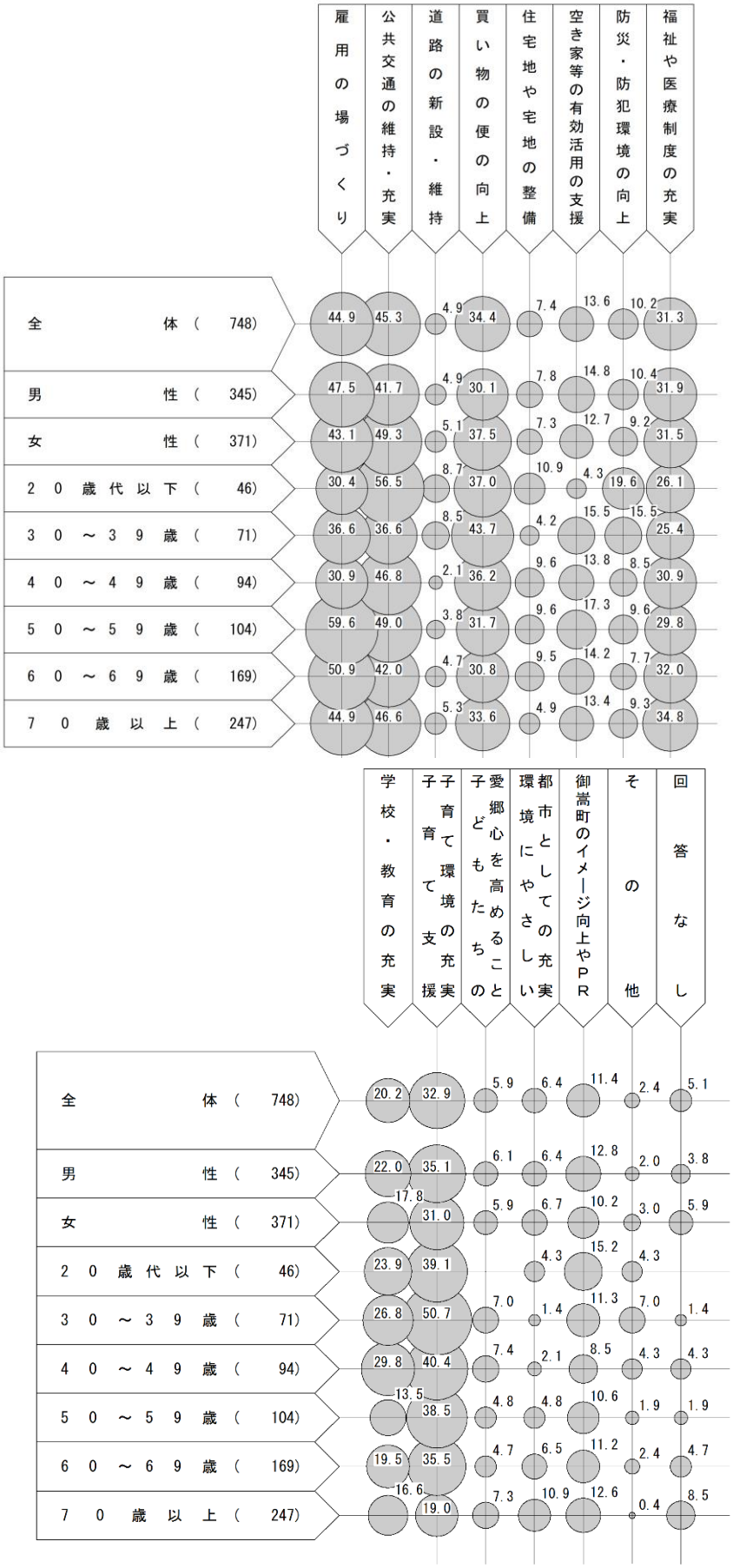
【年齢別】

○59 歳以下で「子育て支援・子育て環境の充実」（概ね 40%以上）、49 歳以下で「学校教育の充実」（23%以上）、39 歳以下で「防災・防犯環境の向上」（15%以上）などが、他の年齢層よりも高くなっています。

○20 歳代以下で「公共交通の充実」が 56.5%、30～39 歳で「買い物の便の向上」（43.7%）、50～59 歳で「雇用の場づくり」（59.6%）が特に高くなっています。

○70 歳以上で「環境にやさしい都市としての充実」（10.9%）が、他の年齢層よりも高くなっています。

図表 2-6-5　若い人の定住や移住促進のための方策（性別・年齢別）



（４）高校生などが暮らしやすく夢が持てるようにする方策

問 13　高校生などが暮らしやすく、夢が持てるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを３つまで選んでください。

【全体】

○「就職することができ生活が安定すること」が 60.2%と圧倒的に高く、次いで、「若者が親しむことができる施設やイベントがあること」が 32.0%となっています。

○「若者が仕事や学校以外でも活躍できる場があること」と「進学したときに奨学金などの支援があること」が約 26%で、そのほかは「若者同士が交流したり出会う場があること」、「困ったときに相談に乗ってくれる人がいること」などに回答が分かれています。

【性別】

○男性では、「就職することができ生活が安定すること」（66.7%）と「進学したときに奨学金などの支援があること」（30.7%）が、女性よりも高くなっています。

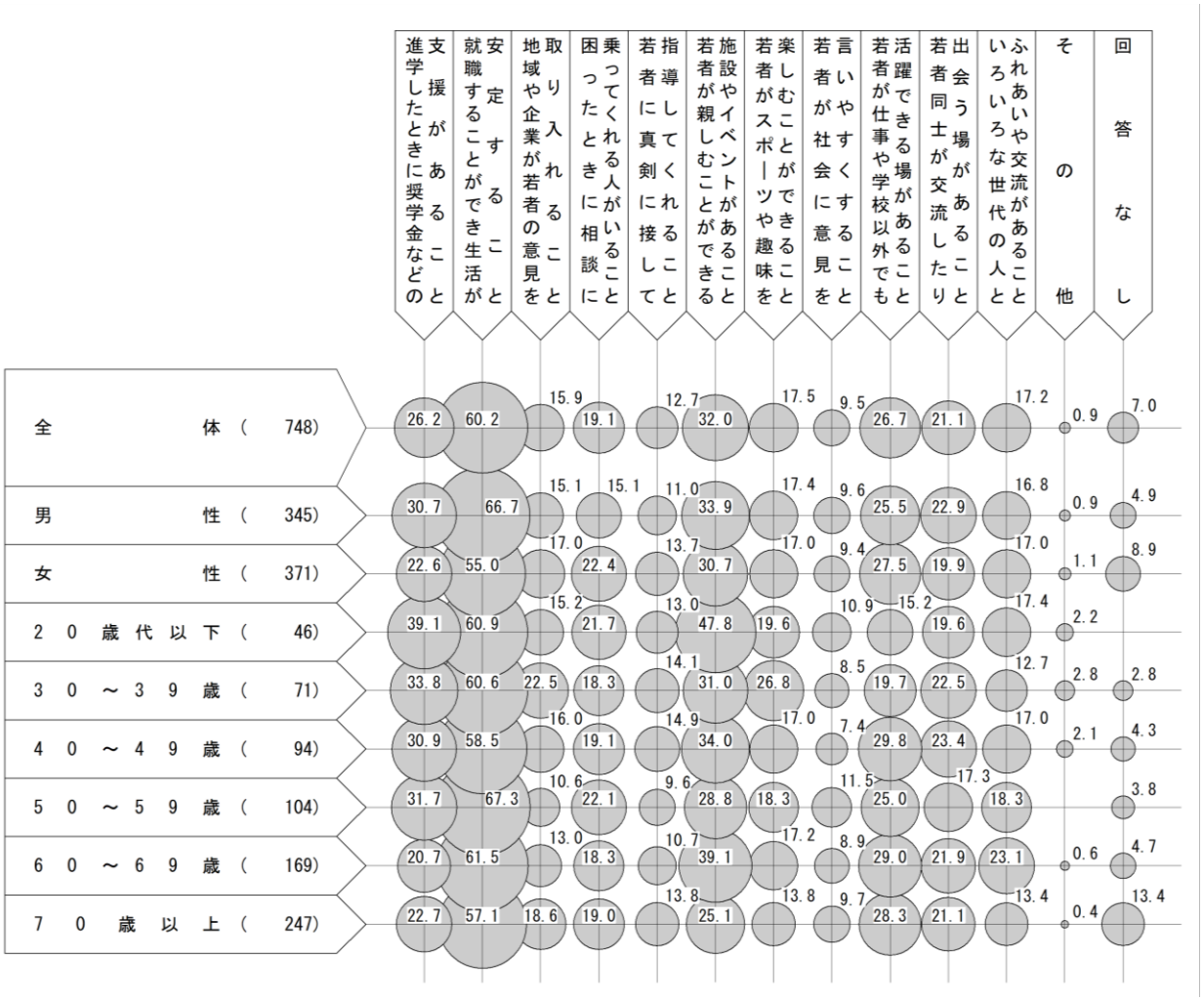
○女性では「困ったときに相談に乗ってくれる人がいること」（22.4%）が、男性よりも高くなっています。

【年齢別】

○59 歳以下で「進学したときに奨学金などの支援があること」（30%以上）が、他の年齢層よりも高く、就学支援を求めています。

○このほか、50～59 歳で「就職することができ生活が安定すること」（67.3%）が特に高く、20 歳代以下では「若者が親しむことができる施設やイベントがあること」（47.8%）、30～39 歳で「若者がスポーツや趣味を楽しむことができること」（26.8%）、「地域や企業が若者の意見を取り入れること」（22.5%）が、他の年齢層よりも高くなっています。

図表 2-6-6　高校生などが暮らしやすく夢が持てるようにする方策（性別・年齢別）



（５）これからのまちづくりのキーワード

問 14　あなたは、これからの御嵩町のまちづくりで重要になるキーワードは何だと思いますか。あなたのお考えに近いものを３つまで選んでください。

【全体】

○「少子高齢化対応」（46.3%）と「移動の利便性」（44.4%）が、並んで高くなっています。

○次いで「災害対策、危機管理」（30.9%）、「子育て、子育ち」（27.5%）、「防犯、安全確保」（26.2%）が高くなっており、これらの５項目に回答が集まっています。

【性別】

○男性では「防犯、安全対策」（29.6%）と「ワーク・ライフ・バランス」（16.2%）が、女性よりも高くなっています。

○女性では「移動の利便性」（47.4%）が男性よりも高くなっています。

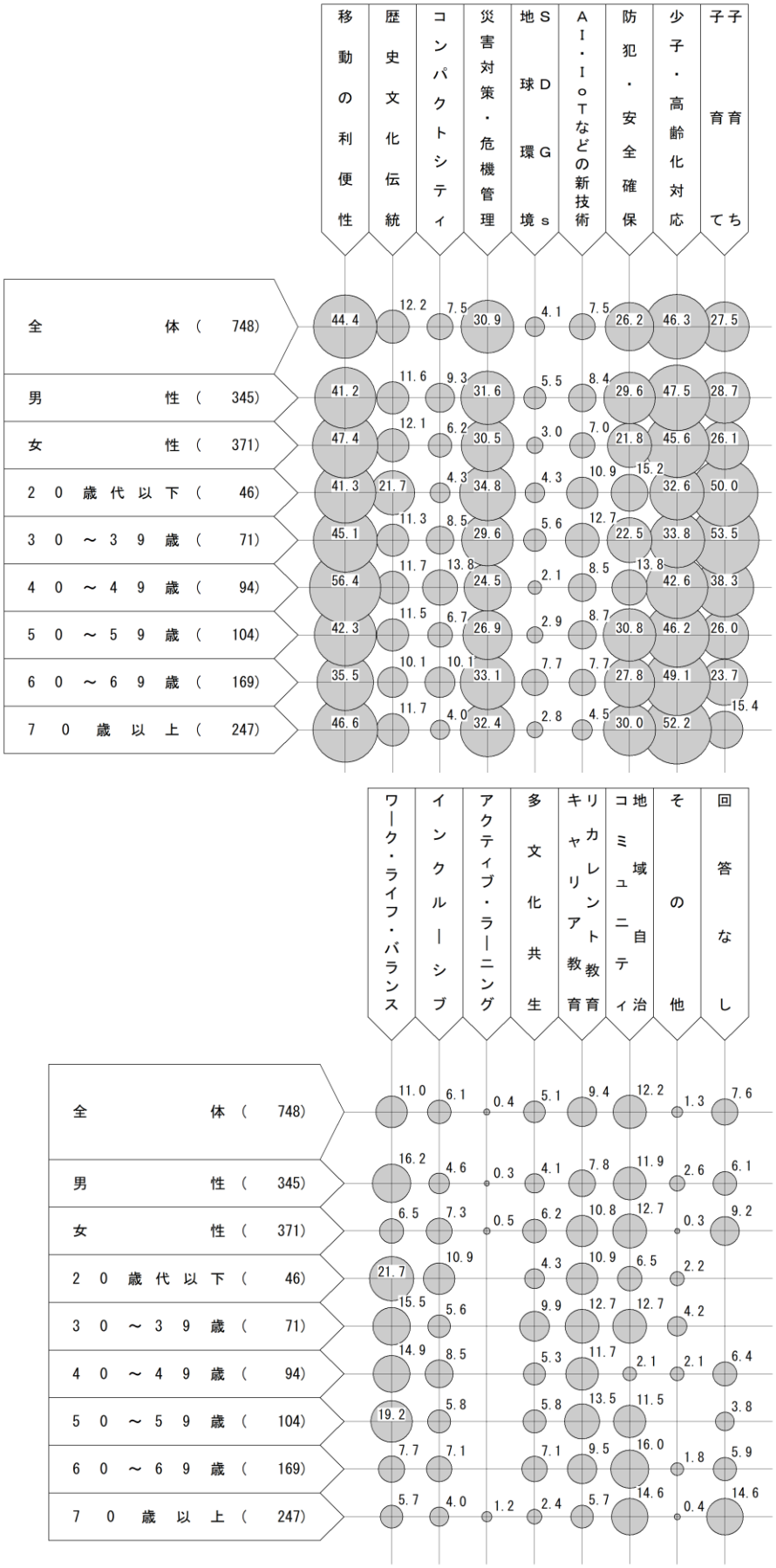
【年齢別】

○49 歳以下で「子育て、子育ち」が高く、39 歳以下では 50%以上を占めています。

○20 歳以下で「歴史文化、伝統」と「ワーク・ライフ・バランス」（21.7%）、「インクルーシブ」（10.9%）、30～39 歳で「ＡＩ、ＩｏＴなどの新技術」（12.7%）、「多文化共生」（9.9%）、40～49 歳で「移動の利便性」（56.4%）、「コンパクトシティ」（13.8%）が他の年齢層よりも高く、若い年齢層は特色がある意見を持っています。

○70 歳以上で「少子高齢化対策」（52.2%）が特に高くなっています。

図表 2-6-7　これからのまちづくりのキーワード（性別・年齢別）



（6）自由記入意見

問 15　御嵩町のまちづくりについて、ご意見ご提案などありましたら、どんなことでも結構ですのでご記入ください。

○記入された意見を「自然・生活環境」、「健康福祉」、「教育・文化」、「産業・経済」、「都市基盤」、「行財政運営」の６つに分類し、各分類の中で細分化し、表にまとめました。多くのご意見ご提案をいただきましたが、ここでは本戦略に関係する施策の提案を含むものを中心に一部抜粋しました。

自然・生活環境	
自然環境	・御嵩町は住み良い（自然があふれている）町。自然と共生するような特徴を出してほしい。 ・長い伝統や歴史を受け継いで自然に恵まれたこの素晴らしい地域を守っていってほしいと願っている。
環境モデル都市	・校内に薪ストーブを取り入れて、林業体験、薪割り体験等を行い、灯油を使わずに温かい教室になってエコにもつながる体験をしてもらうとか、そんな学校なら県外からでも来るように思う。自然豊かな土地への移住を考える人は薪ストーブも考える人は多く、町内でも薪ストーブ設置者に補助金を出すなどしたら林業活性化にもなるのでは。
ごみ減量・リサイクル	・ポイ捨てゴミのない町を目指して町民が協力して町の環境美化に取り組んで欲しいと思う。 ・御嵩町内をまわってまだきたないなと思われる所あり。やはり郡上の町のようにきれいだと人は近づいてくる。 ・早朝６時頃、夜等の野焼きが多くて困っている。洗濯物ににおいがつく、家の中の空気の入れ替えが出来ない。自然が多く、空気がキレイなのに残念。
防災・防犯交通安全	・自治会全てに防災コンテナを設置してほしい。（特に駅には必ず設置してほしい）。 ・防犯カメラの設置を多数。 ・街灯を増やしてほしい、夜になると真暗で道もよく歩けない。国道沿いも真暗で自転車の転倒もよくある。 ・空き家があるが、環境と防犯のための対策、有効活用等を望む。 ・亜炭対策含めた防災の活動がしっかり進められ全国トップの「安全なまち」が実現できればそれこそがＰＲになり、人が集まる町になる条件だと思います。
健康福祉	
医療	・御嵩町内に総合病院を設立してほしい。 ・高齢者になると運転が出来なくなり、可児市、美濃加茂市の通院に大変困る。国民年金ではとても通院出来ない。 ・医療費削減に向けてよい取組が無いかいつも考えている。大府の「健康の森」のように子供から高齢者までわかりやすく健康づくりを学べる場があると

	よいと思った。
児童福祉	・子供の幼児が訪れられる様な児童館などボロボロ。子孫繁栄の為にも子供が安心して遊べるところを検討してほしい。まちづくりというのはそもそも小学生・中学生などの現役の意見を大切に聞いてほしい。 ・これからの若者が御嵩町に住み続けたいと思うには、地域活性化も必要だが、子育てしながら仕事が出来る環境が必要。それには保育施設を充実し、近くに働ける場所があること。 ・ぽっぽかんの利用について、町外は有料にすれば良いと思う。 ・子育て世代が得する制度が多い程若い方が増えると思う。以前より住んでいる方々は「住めば都」だと思うので、愛着があれば子育てを卒業した世代のＵターンの方もあると思う。
高齢福祉	・老人ホームが必要だと思う。 ・お年寄りに健康を兼ね散歩をしてもらう。屋外に出て観光客などに会えば挨拶、世間話、観光地の話など、地元の情報発信、少し足を延ばせば、伏見（東寺山古墳・願興寺桜・可児川堤桜など)、中・御嵩（播隆上人名号碑・顔戸城址・可児川桜・宝塚古墳・愚渓寺・みたけの森ささゆり・城址公園)、上之郷（平芝永林寺・すいれん・小泉神社・山車・鬼岩公園・可児川電気ダム跡・舳五山茶園）など最寄りの見どころを教えられると思う。
その他	・筋トレ（マシン使用）教室が中地区には無いので欲しい。健康に役立つ。
教育・文化	
学校教育	・いなかぐらしの良さを生かして町をつくり、こどもたちの声を聴き実行し大切に育てることで、御嵩と自分や周りの人々を愛せる大人へ！ ・小学校の建替えを！ ・子が産まれたとき、少人数の小中学校に通うことになることに少し不安があったが、今は親の顔がお互いわかっている環境もよさそうだと感じ始めている。でもやはり、少なすぎる（同学年が１０人以下）のもかわいそうに思える。そこで、昨年あたりから他校の学区の子も上之郷地区へ移動できる制度ができたと耳にしているがどれだけ効果が上がっているのか・・・？授業が手厚いので勉強に遅れる子がいないとかは聞きますが、もっと例えば上之郷小中１２年通ったら英語が話せるようになって、中学校の修学旅行はイギリスへホームステイとか、もっと偏って、シュタイナー教育を一部取り入れてみるとか（求めている人は移住してでも来ると思う。）。 ・どの学校も少人数となってきている。学ぶ場、スポーツ、部活において少人数がネックになる。せめて、中学は町内ひとつにすると交流も深くなり、郷土愛、きずなが増してくると思う。少人数に苦労しながら義務教育を過ごしている子が多すぎる。これでは将来この地に良いイメージが持てず、残りたい残したい気持ちも生まれない！！子供たちの出せない苦しい声を聴いてあげて欲しい。 ・若者に魅力ある「まち」をアピールするうえで、東濃高校の改革というか、ＩＴエンジニアを育てるような学科はできないだろうか。
生涯学習	・中公民館の建て替え改修案は計画ないか。他の市町村はきれいな建物が増え

	ていて、今後のきれいな町づくりの課題にしてほしい。 ・ホールが中公民館のホールではさみしい。もう少し広さのあるものを作ってもらえると良いと思う。 ・可児カルチャーセンターのチラシを見るたびに、御嵩町にもこのような施設があったらと思う。特に音楽コースが大変魅力的。高齢者の方で特技のある方がいたら、音楽コースを充実していただけたらなあと思ってしまう。 ・文化施設（ホール）が無い。大勢の人が集まれる場所が欲しい。 ・今でしか聞けない知識や昔話に花を咲かせてもらう場があると良い。２冊目のじいさまから聞いた話の発行は。
社会体育	・Ｂ＆Ｇにプールがあるが子供が１日遊べて町外からも人が集まるようなプールを作ってほしい。 ・Ｂ＆Ｇのプールが夏場しか使えずとても残念。通年使えるとありがたい。
史跡・文化	・御嵩町は歴史と文化のまちだから、もっと昔の中山道を意識して子供も大人も伝統を伝え、また受け継ぐことを望む。特に御嵩町じいさまから聞いた話などの読史は忘れがちだから力を入れてほしい。 ・旧中山道の早急な整備、特に御嵩町内から伏見まで。
その他	・山村留学を行ってはどうか。
産業・経済	
農林業	・御嵩町に来れば儲かると思われるような町であってほしい。若者が農業をすると儲かる場所にしてほしい。農家のイメージ改革を！せっかく自然があるから田畑を使わないともったいない。 ・耕作放棄地が増えている。誰もが簡単に農地を借りられるシステムがあると良い。ネット上でフリーマーケットが流行しているという事は、「他人の物を使う抵抗がない」ことを示していて、ネットを使用しなくても欲しい方、譲りたい方がわかるような窓口があると良い。 ・御嵩町内は農業で野菜とか沢山作っている方がみえるので、町内で採れたて野菜を販売して欲しい。スーパーマーケットでなく、専門店（野菜・魚・肉）があった方が町内で買い物する人が増していくのではないのかと思う。
商工業	・雨の時でも遊べる広い施設が（ショッピングセンター以外）あると家族で過ごせる内容が充実していくと思う。 ・買い物の場所、レジャー施設がないと若者は集まらない。自分たちで行けないと、他から来てもらうことも考えると工夫がいる。 ・とにかく上之郷地区にスーパーかコンビニを！！ ・自動車や自転車にも乗れなくなった。歩いて行ける所で買い物が出来るのが楽しくとても嬉しいこと。せめて、移動スーパーを行って下さる店が来て頂ける事を望んでいる。 ・ちょっとした商店街があると楽しい。フルで働いている人も多い為、お惣菜等を取り扱う商店街があるといい。よくＴＶでやる食べ歩き等楽しそう。
企業誘致・雇用	・農業や企業の活動が活性化して雇用を増やして生活しやすい町づくりをしてほしい。 ・御嵩町には車での移動手段としては高速道路のIC・国道もあり、あとは立

	寄ってもらう為には、大型商業施設誘致また働く場所の確保の為の企業誘致が必要。 ・現在はインターネット技術でどこでも仕事ができるシステムができている。そのような企業を誘致し子育て支援を充実しワーク・ライフ・バランスの良い地域にできる可能性がある地域だと思う。 ・社会人になって以降ますます若者離れを感じる。近くに少しでも家から出て買い物に行こう時間をつぶしに遊びに行けるような場所があれば町中住民も買い物に行きますし町外からもその場を求めて町に訪れる住みつく人も増えるのではないか。 ・高速道路が近く物流の流れが良いと思うので格安で大手企業に土地を貸してあげたら良いのでは。雇用が増える。 ・まだまだ町内の団地等空きが多い。企業を増やし町内に家を建てて欲しい。大きい会社の誘致。 ・バイパスの一角に企業・工場誘致をするか、できなければ他所からの住民の移住を促進させるため、いろんな診療科目の医院を集めて総合病院ならぬ「病院村」はできないだろうか。
観光	・子供から老人迄誰もが気軽に楽しめる場所があまりにも少なく感じる。大層なことは必要ないと思うが、歩ける場所（里山付近とか）ちょっとした健康器具（手作りでも良）が設置してあるとか、自然が財産と思うとそんな場所いっぱい存在している。ちょっと出掛けてみようがいっぱいあると楽しい。 ・今は若者がtwitterといったSNSで写真をあげていることが多いので、御嵩でも、若者がみんなに見てほしいと思えるような場所、名産品、食べ物、文化などが必要なように感じる。アイデア・企画コンテストを聞いて、若者から意見をもらうのもいいのではないかと思う。 ・町の活性化、いきいきとした町づくり若者のとりこみの一貫として空き家対策として食でも手作り品でも販売をしてその若者達が生活していける様に町が援助。犬山市や大須のような、短期間で大きな違いをうみだしたところを見本にしてほしい。 ・全国的に見てそれ程観光の目玉としてＰＲしても仕方がない事をＰＲし続けるのは費用対効果の観点からみるともったいない。観光客が呼べる程のものかとしっかり議論して欲しい。 ・御嵩の地に花の名所（桜とか花桃等）を造って県内外から花見客が訪れる様な場所が出来るといいと思う。 ・ネイチャーツアーをするとか、森で子供たちが遊べるようにするなど、森を壊さずに出来る観光をぜひ取り入れてもらいたい。 ・広見線と21号バイパスを絡ませる「まちづくり」が必要である。21号バイパスには東海環状自動車道の可児・御嵩インターがあり、花フェスタの観光客が訪れる。近隣の多治見には、土岐アウトレットがあり、2、3年後にはイオンモールもできる。三河地方からこれら施設に多くの観光客が訪れるため、これら観光客をターゲットとして21号バイパス沿いに「グルメロード21」と称した大きな飲食店街ができないだろうか。 ・新丸山ダム工事が続いているが、御嵩町側からの観光スポットはできない

	か。
地域振興	・「みたけのええもん」と、スタバ、タピオカ店とのコラボ。 ・人気のカフェレストランオーナーなどを講師に招き教室を行う。 ・町の運営側がどうするかよりも、自立し面白いアイデアを持った人が町の中に増えることでその輪が広がり内側から活性化すると思う。 ・空き家をリノベーションして賃貸等してほしい。 ・郡上や美濃のように古民家や古い町並みに若い世代が住んだり、お店が出来るような補助や取り組みを期待。 ・広見線沿いに可児市Ｋルートの延長として遊歩道を整備し、可児駅から遊歩道を歩いて御嵩駅まで来たのなら、帰りは広見線で帰るとかできないか。 ・「まちづくり」の中心を上恵土地区として、そのエネルギーを利用して東の方へ発展させるという手もある。
都市基盤	
亜炭鉱廃坑対策	・御嵩町は亜炭鉱のイメージでマイナスが大きい。亜炭鉱対策の進行状況をインターネットなどで日々公開してほしい。 ・ほっとみたけ2019年7月号には現在の充てん工事進行状況が詳しく記載されてよく分かった。今後も定期的なお知らせを望む。 ・バイパス沿いは魅力ある場所だが、「亜炭鉱跡地問題」がネックになって、今までもモール進出計画が挫折した。やはり、充填工事などの対策ができて、安心安全宣言がなければ、企業工場も住宅も集まってこない。
公共交通	・名鉄広見線新可児～御嵩間の開業100周年に向けたイベントを名鉄と可児市と御嵩町で大々的にイベントをして頂きたい。 ・ますます高齢化が進む。もっと充実した移動手段を拡充してほしい。現在の一部地域のバス運行はいかがなものか。 ・名鉄広見線を絶対に無くさない。電車がなくなると絶対御嵩町は哀通する。車を使わなくても安心して生活できるようなまちづくりを。 ・名古屋などの都市に出るには可児まで一旦出る必要があるが、そもそも可児まで行く移動手段の選択が少ないと思う。また、ICカード専用の改札を導入すべき。 ・広見線を残す活動をしているにもかかわらず、各駅にスロープがいまだ設置されておらず、車いす使用者やご高齢者の方の不便さを理解して活動にとりくんでいただきたく思う。健常者だけが公共の場を使用しない。障がい者も高齢者も利用する。 ・明知線や他のローカル線のようなイベント列車の企画を。光秀にからんで。 ・御嵩口駅にも駐車場を作ってほしい。
道路整備	・東海環状道可児御嵩ＩＣ付近の４車線化をNEXCO中日本と国（国土交通省）に要望してほしい。片側１車線での合流が危なく感じる。 ・国道21号の４車線化。 ・御嵩町内の町道等の草木の撤去及び、町道の舗装工事を要望しても予算に限りがあると言う、なかなか良い返事がもらえない、それどころか各自治会にボランティアでお願いしたい等と言う、なかなかうまい話である。無駄な景品をばらまくイベントを即刻中止すべきで、少しでも町道の舗装工事などにその予

	算を役立ててほしい。 ・町内の小さな川に掛かっている橋に転落防止と思われるガードレールにより本当の緊急時に救急車がその橋を渡れず遠回りをして救急場所に行かなければならなかったりする。命に係わる重大なことであり、これからでも地元によく話を聞いて協議して撤去なり高さを変更するなどして、早急に救急車が通れるように配慮してほしい。 ・自治会から町へ道路（町道）の整備要求を7～8年前から提出しているが、なかなか整備されない。5～6年にはなんらかの修理、整備されていくべきだと思う。
宅地整備	・住宅地を増やすこと。若者の農業離れの用地を買収し、宅地開発し町外の住民を増やすとよいと思う。 ・リフォームについての助成金。 ・もう少し、マンションやアパートの整備をし、家賃設定をしても良いのでは。内観も古いと感じてしまう物件が多い。
治山・治水	・土砂崩れ対策を行って欲しい。
公園・緑地	・公園が各地区に少ないため、道路で遊ぶお子さんが多いように思う。ぜひ、各地区に公園、子供が安心安全に遊べる場所を作って頂きたいと思う。 ・各地に公園を整備するのではなく、南山Ｂ＆Ｇ公園より規模が大きい多目的公園を１つ整備していただきたい。御嵩といえばこの公園といったようなイメージが良く、若年から老人まで足が運べる公園を作ってほしい。緑あり、水あそび場あり、軽食（喫茶店）あり、散歩コースあり、芝生あり、遊具ありの公園。 ・人工的な公園を造るより、自然森を残した何もない里山がいいと思う。 ・ＢＧの公園遊具が安全かどうか見直して欲しい。綱木グラウンドの公園の遊具を直して欲しい。サビだらけで安全に遊べない。
その他	・少子高齢化対策としてのコンパクトシティ化等。 ・コンパクトシティに全力を注いでほしい。
行財政運営	
住民参加・コミュニティ	・まちづくりを主体的に取り組む団体（NPO・まちづくり会社）を育成すべきと考えます。行政的視点以外のアイデアや取り組みが期待できる。 ・町内にあるサークル活動に参加していますが低会費でやれるのはたいへんありがたい（コーラス・ヨガ）。これからも続けてほしい。 ・自治会活動については、必要最小限なものに限って行うようにして頂きたい。町の方で自治会活動のガイドラインのようなものを作って頂きたい。 ・各ボランティア団体の活動状況が分かったり、連携を取ったりできる、ＮＰＯの様な存在があるといい。
国際化・多文化共生	・最近バローなどでもベトナム人の人が多いと感じている。自転車であちこち通っている姿もよく見かける。これからもどんどんこういう外国の方が増えていくと思う。日本語があまりわからない状態のまま住み続けているので、外国の人がせめて日常会話に困らないくらいの力をつけられるような場所を提供、ボランティアでも教えて下さる方がいるといいと思っている。

	・外国人がとても多くなってきていると思う。外国人も日本人も関わりをもつ機会がなく、少しお互いを怖く感じているのではと思うことがある。交流できる場はないか。 ・御嵩町にも外国人の若者が働きに来ているが、企業や本人等に日本での、御嵩町での日常生活の習慣を説明しトラブルの防止をよくＰＲして頂きたい。
情報化	・高齢者が多いからといって高齢者向けの政策ばかりするのではなく、若者に住んでもらうには子育てや教育のほか、田舎であってもＩＯＴなどハイテクな暮らしが出来る事に力を入れるべきだと思う。 ・ＡＩ、ＩＯＴ、5G等技術革新の先取り。
行政運営	・町営住宅の一部を若者夫婦が住めるような建物に建て替え入居PR、一定期間公的支援をする。 ・御嵩町単独で全てを完結することを考えないで、周辺行政とも積極的に交流、協力していく方が良い。 ・コンパクトな町なので、みなさん親しみやすく、職員の方もなじみやすくて良いと思う。でも異動が早いので、慣れた頃に他の部署に移ってしまうので、結果が出ないのではと思う。町民へのサービスも最近悪くなってきたと思う。 ・町営住宅が古いので、板良以外の場所でつくってほしい。地元の業者で町営住宅をつくり、少し補助しながら若い方に住んでいただき、永住希望の方には土地を少しでも安く購入していただき住んでいただけるようにしてはどうか。
新庁舎整備	・御嵩町新庁舎（役場）の建物としてのイメージは？なるべく中山道の宿場町としての雰囲気が漂うものにし、一部木造化して和風建築にして「中山道御嶽宿」としてのにぎわいのあるものとして頂きたい。 ・庁舎の建設より老朽した学校施設の充実を優先すべき。
情報発信	・今大学生で家がある御嵩町にはただ帰ってくる場所であるだけで、ほとんど日中は町外にいるため御嵩町のことを何も知らない、情報を手に入れようともしていないと感じた。興味が全くないわけではないので、興味のわくような事業などがあることを知ることが出来れば若い人を御嵩町のことを知ることができるのかなと思う。 ・町のＰＲやイベントなど、もう少し広範囲に知らせて町の外から人が来るようにしていくのを強化していくといいと思う。役場の仕事（まちづくりでの活動や行った政策）をもっとアピールしてもいいと思う。 ・御嵩町の歴史文化を地域外の人に知ってもらうようＰＲし、歩いて巡ることの出来る観光スポットを整備されたい。